

岡山大学文明動態学研究所  
文化遺産マネジメント部門

---

# 紀要 2022

---



2024年2月

岡山大学文明動態学研究所  
文化遺産マネジメント部門



〔图 6〕 石刃  
浮岛洞大遺跡第41次調査

〔图 6 续〕 石鏃  
浮岛洞大遺跡第37次調査

岡山大学文明動態学研究所  
文化遺産マネジメント部門紀要

2022

2024年2月

岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門



## 序

岡山大学では、各キャンパスにある遺跡の調査・研究・公開と保護のため、埋蔵文化財調査研究センターを設置し、その業務にあたってきました。2022年4月に、同センターは文明動態学研究所と発展的に統合し、同研究所文化遺産マネジメント部門がセンターの担ってきた業務を行うことになりました。本紀要は埋蔵文化財調査研究センター紀要に代わるものとして、装いも新たに創刊されました。文化遺産マネジメント部門は、引き続き遺跡の調査にあたるとともに調査記録・出土資料を適切に保管し、積極的にその研究と公開に努めて参ります。

2022年度は、工学部総合研究棟新営にともなう試掘確認調査のほか、立会調査が30件実施されました。また、過去の調査報告書発行が課題であり続けていますが、津島岡大遺跡第39次調査にかかる発掘調査報告書が刊行され、その責を果たしております。さらに毎年開催してきたキャンパス発掘成果展に加え、岡山大学文明動態学研究所第1回特別展「津島から世界へ、世界から津島へ」を開催しました。津島キャンパスとその周辺の出土資料にとどまらず、メソアメリカの展示を行うなど学際的・国際的な展示を実現し、新たな組織の可能性を示すことができました。今後も調査成果ならびに研究成果の公開に動んでいきたいと思ひます。

発掘調査を始めとする業務を遂行することができたのは、関係諸機関・学内外の多くの人から協力をいただいた結果であると認識しております。ここに感謝申し上げ、引き続きご協力を賜りますようお願いするものです。

2024年2月

岡山大学文明動態学研究所

所長 松本直子

文化遺産マネジメント部門 部門長 清家章



# 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門紀要2022

## 目 次

### 第1章 構内遺跡の調査研究

#### 第1節 試掘・確認調査の概要

1. 総合実験研究棟（工学系）新営に伴う試掘・確認調査……………（山口雄治） 1

#### 第2節 立会調査の概要

1. 実施状況……………（野崎貴博） 5
2. 津島地区
  - a. 総合実験研究棟（工学系）新営に伴う機械設備工事……………（野崎） 5
  - b. 複合施設（津島北）整備工事……………（野崎） 5

#### 第3節 構内遺跡に関する研究

1. 鹿田遺跡第12次調査出土井戸枠材と規格材の復原……………（野崎） 11
2. 鹿田遺跡第12次調査出土の井戸枠類の樹種……………（能城修一） 21
3. 鹿田遺跡第20次調査出土の木製品類の樹種……………（能城） 23

### 第2章 調査資料の整理および公開・活用

#### 第1節 調査資料の整理・保存処理

1. 調査資料の整理……………（木村理） 27
2. 調査資料の保存処理……………（木村） 27

#### 第2節 調査成果の公開・活用

1. 公開・展示
  - a. 第21回岡山大学キャンパス発掘成果展「藤原摂関家殿下渡領 鹿田庄」……………（野崎） 27
  - b. 岡山大学文明動態学研究所第1回特別展「津島から世界へ、世界から津島へ」……………（野崎） 29
  - c. 岡山大学文明動態学研究所第1回特別展公開講座……………（木村） 34
2. 資料・施設等の利活用
  - a. 調査・研究への支援……………（木村） 34
  - b. 教育支援……………（木村） 35
  - c. 社会貢献……………（木村） 35

#### 第3章 2022年度における調査・研究のまとめ……………（木村） 36

### 資 料

1. 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門規程・組織等…………… 37
2. 2021年度以前の調査・研究一覧…………… 40

## 挿 図 目 次

図1	調査地点の位置	1	図10	鹿田遺跡第12次調査井戸5 出土井戸枠材(2)	14
図2	調査区北壁断面柱状図	2	図11	複数の板材にまたがる加工痕	18
図3	本調査地点周辺の断面柱状図	3	図12	板材の幅と接合関係	18
図4	土層柱状図	5	図13	博と土居の規格と採材方法	19
図5	調査地点詳細図	5	図14	鹿田遺跡第12次調査出土井戸枠等の 顕微鏡写真	22
図6	土層柱状図	6	図15	鹿田遺跡第20次調査出土木製品類の 顕微鏡写真	25
図7	2022年度の調査地点 -津島地区-	9~10	図16	展示見学風景	28
図8	鹿田遺跡第12次調査井戸5と 出土井戸枠材	12	図17	展示会場見取図	28
図9	鹿田遺跡第12次調査井戸5 出土井戸枠材(1)	13	図18	展示会場見取図	30
			図19	展示風景	31

## 表 目 次

表1	2022年度調査一覧(津島地区)	7	表6	鹿田遺跡第20次調査で出土した 木製品の樹種(1)	24
表2	鹿田遺跡第12次調査井戸4 出土木製品	15	表7	鹿田遺跡第20次調査で出土した 木製品の樹種(2)	24
表3	鹿田遺跡第12次調査井戸5 出土木製品(1)	15	表8	鹿田遺跡第20次調査出土木製品類の 樹種一覧	26
表4	鹿田遺跡第12次調査井戸5 出土木製品(2)	16	表9	2022年度分析一覧	27
表5	鹿田遺跡第12次調査で出土した中世前半 (12世紀)の井戸材の樹種	22	表10	報道機関による情報発信	32
			表11	アンケート結果(1)	32
			表12	アンケート結果(2)	33

## 付 図 ・ 付 表

付図1	岡山大学の位置と周辺の遺跡分布	54	付図5	2021年度以前の調査地点【3】 -三朝地区-	58
付図2	津島地区全体図	54	付図6	2021年度以前の調査地点【4】 -東山地区-	58
付図3	2021年度以前の調査地点【1】 -津島地区-	55~56	付図7	2021年度以前の調査地点【5】 -倉敷地区-	58
付図4	2021年度以前の調査地点【2】 -鹿田地区-	57			



付表1	1982年度以前の構内主要調査……………	40	付表4	埋蔵文化財調査研究センター刊行物……	51
付表2	2021年度以前の構内主要調査……………	40	付表5	文化遺産マネジメント部門刊行物……	53
付表3	埋蔵文化財調査室刊行物……………	51			

## 例 言

1. 本紀要は、岡山大学文明圏学研究所文化遺産マネジメント部門が、岡山大学構内において2022年4月1日から2023年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果および本部門の活動についてまとめたものである。
2. 本紀要において報告している津島岡大遺跡は岡山市北区津島中一丁目～三丁目1番1号、鹿田遺跡は岡山市北区鹿田町二丁目5番1号に所在する。
3. 執筆者は、氏名を目次に記載すると共に、原則として、本部門所属教員の場合は文末に、第1章第3節については文頭に記した。
4. 編集は清家章部門長・岩崎志保チームリーダーの指導のもと、木村理が担当した。

## 凡 例

1. 岡山大学構内の埋蔵文化財の調査にあたっては、2002（平成14）年4月1日から施行された「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」に基づき、世界測地系を採用したが、それ以前の日本測地系による構内座標の相対的な位置関係保持したまま座標値のみ世界測地系に変換している。各区画の座標原点と区割りは次のように定めている。
  - 1) 津島地区では、国土座標第V座標系（日本測地系）の座標北を基軸とし、 $(X, Y) = (-144,156,4617\text{m}, -37,246,7496\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺50mの方格で分割した区画を用いている。
  - 2) 鹿田地区では、国土座標第V座標系（日本測地系）の座標北より東に15°振り出した座標軸を基軸とし、 $(X, Y) = (-149,436,3718\text{m}, -37,646,7700\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺5mの方格による地区割りを用いている。
  - 3) 棒田中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標（日本測地系）の座標北を、その他は磁北を用いている。
2. 岡山大学敷地内で調査地点を示す場合、周知の遺跡にあたる場合はその遺跡名を、それ以外の場合は、地区名を付して示す。
3. 調査名称は、「発掘調査」に分類したものは、遺跡ごとに調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」、「立会調査」に分類したものは、原因、原因となった工事名を使用している。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは、「試掘・確認調査」に分類する。
4. 付表に記載した既往の調査一覧は、掘削深度が中世層以下に達するかあるいは遺構などが確認された調査のみを掲載している。未掲載も含め、すべてのデータは、本部門において保管している。
5. 本文などで使用している調査番号のうち、2022年度のは表1および2021年度以前のは付表1・2と一致する。
6. 本紀要に掲載の地形図（付図1）は、岡山市城図を複写したものである。
7. 土層注記において、特徴的な包含物・事項については括弧内に記載した。



## 第1章 構内遺跡の調査研究

### 第1節 試掘・確認調査の概要

#### 1. 総合実験研究棟（工学系）新営に伴う試掘・確認調査（調査番号1、AU04区）

##### a. 調査の経緯

岡山大学津島キャンパス北東部の駐車場において、総合実験研究棟（工学系）の新営が計画された（図1）。建設予定建物の工事内容は、基礎部を溝状に深さ約1.4mまで掘削するものであった。本地点の周辺では、南にある第6・7・9・22次調査においては東西方向の溝が<sup>1)</sup>、さらにその南側にある第31次調査においてはこれに接続すると考えられる南北方向の溝が条里の区割りに対応する溝として注目されてきた<sup>2)</sup>。特に第31次調査の成果は重要であり、ここでは第6・7・9・22次調査における東西溝の南北で地割りの状況が異なる可能性が指摘されている。これまでの調査では津島キャンパス北辺の条里に関する情報は少なく、この東西溝の北側の状況が明らかになっていなかった。本地点に、第31次調査地点からのびる南北方向の条里に対応する溝の想定ラインが通ることは確実であり、また本地点内で行われた1990年度の立会調査（図1-13地点）において古代の溝と考えられる堆積層も確認されていた<sup>3)</sup>。本地点における掘削深度は中世後半～近世以降の土層である。上述した周辺の調査成果も含め、本地点は中世では後背湿地、近世以降は耕作地として利用され遺構・遺物出土密度が極めて低いことが想定されていたこともあり<sup>4)</sup>、破壊を受ける部分は小規模と判断した。以上を勘案し、発掘調査ではなく、条里に対応する溝の想定ラインに直交するような東西方向に長い調査区を設定する試掘・確認調査として行うこととなった。

調査は2022年5月18日に行い、調査員1名が担当した。

##### b. 調査の成果

###### (1) 調査地点の位置と経過

調査地点は、津島キャンパス北東部に位置する駐車場の南部である。試掘坑は南北1.5m×東西3mで設定した。現地表面から深さ約4.2mまでの土層堆積状況を確認し、各土層の分析サンプルを採取した。なお、遺構・遺物は確認されなかった。

###### (2) 層序

土層は19層に分けた（図2）。出土遺物がなかったため、土層の時期は周辺の調査成果に基づき推定した。

- 1層 近現代の造成土である。上面の標高は4.76mであり、厚さ1.12mを測る。
- 2層 灰色砂質土である。上面の標高は3.65mであり、厚さ0.03mを測る。近代の耕作土である。
- 3層 褐灰色砂質土である。鉄分の沈着が多い。上面の標高は3.62mであり、厚さ0.07mを測る。近代の耕作土である。
- 4層 淡灰褐色砂質土である。上面の標高は3.55mであり、厚さ0.1mを測る。近世の耕作土である。
- 5層 灰褐色砂質土である。上面の標高は3.45mであり、厚さ0.1mを測る。近世の耕作土である。

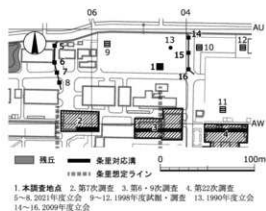


図1 調査地点の位置（縮尺1/4,000）

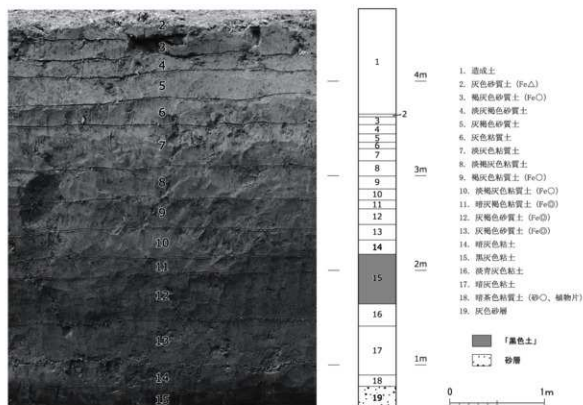


図2 調査区北壁断面柱状図 (縮尺1/40)

- 6層 灰色粘質土である。上面の標高は3.35mであり、厚さ0.05mを測る。中世後半～近世の耕作土である。下層の7・8層と色調、土質が似る。
- 7層 淡灰色粘質土である。上面の標高は3.3mであり、厚さ0.14mを測る。中世後半の耕作土である。
- 8層 淡褐色粘質土である。6・7層に比べ鉄分の沈着が多い。上面の標高は3.16mであり、厚さ0.16mを測る。中世前半の耕作土である。
- 9層 褐灰色粘質土である。上面の標高は3.0mであり、厚さ0.14mを測る。時期は古代と考えられる。下層の10層と色調、土質が似る。
- 10層 淡褐色粘質土である。9層よりも鉄分の沈着がやや多い。上面の標高は2.86mであり、厚さ0.11mを測る。時期は古代と考えられる。
- 11層 暗灰褐色粘質土である。鉄分の沈着が多い。上面の標高は2.75mであり、厚さ0.1mを測る。時期は古墳時代と考えられる。
- 12層 灰褐色砂質土である。鉄分の沈着が多い。上面の標高は2.65mであり、厚さ0.15mを測る。時期は古墳時代と考えられる。11層と色調や鉄分の沈着具合が似るが、本層はより砂が多い。
- 13層 灰褐色砂質土である。鉄分の沈着が多い。上面の標高は2.5mであり、厚さ0.19mを測る。時期は弥生時代後期と考えられる。
- 14層 暗灰色粘土である。しまりが強い。下層である15層への漸移層と考えられる。上面の標高は2.31mであり、厚さ0.13mを測る。時期は弥生時代前期～後期と考えられる。
- 15層 黒灰色粘土である。しまりが強い。津島一帯で「黒色土」と呼称している弥生時代早～前期の鏡層と考

えられる。上面の標高は2.18mであり、厚さ0.53mを測る。

- 16層 淡青灰色粘土である。しまりが強い。上面の標高は1.65mであり、厚さ0.25mを測る。時期は縄文時代以前と考えられる。
- 17層 暗灰色粘土である。しまりが強い。上面の標高は1.4mであり、厚さ0.5mを測る。時期は縄文時代以前と考えられる。
- 18層 暗茶色粘質土である。砂、植物片を含む。上面の標高は0.9mであり、厚さ0.12mを測る。時期は縄文時代以前と考えられる。
- 19層 灰色砂層である。上面の標高は0.78mであり、厚さ0.28m以上を測る。時期は縄文時代以前と考えられる。

### c. まとめ

本調査の成果として、2点が挙げられる。第一に、当初予想していた条里区画に対応する南北方向の溝が確認できなかった点である。これにより、第6・7・9・22次調査における東西溝の北側において、第31次調査で確認された条里区画に対応する南北溝は、少なくとも同一ライン上には続かない可能性が高くなった。これと同様に、一町西の南北ライン上においても2021年度立会調査が行われているが、溝は確認されなかった。したがって、今回の調査成果は第6・7・9・22次調査における東西溝の南北において地割りの状況が異なるという見解

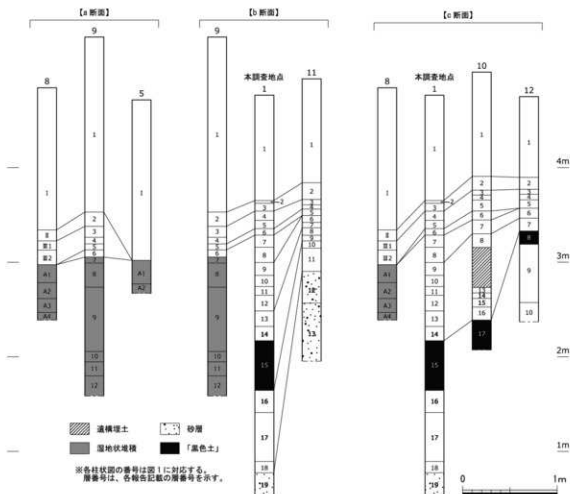


図3 本調査地点周辺の断面柱状図 (縮尺1/40)

を補強するものとなったといえよう。一方で1990年度に確認された、古代と考えられる溝の堆積層については、今回新たな情報を得ることはかなわず、引き続き今後の課題となった。

第二の成果として、土層の堆積状況が確認でき、津島キャンパス北東部の地形に関する情報を得ることができた点である。ここでは、周辺の調査成果と合わせて本地点の地形について述べてみたい(図3)。

本地点西部の立会および試掘・確認調査からは、中世における湿地状堆積が確認されている(図1-5~9地点、図3-a断面)。一方で、本地点ではそのような堆積は確認できなかった。したがって、この湿地状堆積は残丘の東から06ラインの東20m程度までは広がっている可能性が考えられよう。また、中世層の標高は、2021年度立会調査地点(図1-8地点)では約298m、1998年度試掘・確認調査地点(図1-9地点)では約314m、本調査地点では3.3m、1998年度試掘・確認調査地点(図1-10・11地点)では約345m、36mとなっており、北および西へ行くほど地形が下がることがわかる(図3-b・c断面)。全体として北西方向に下がる地形の中で、西側には湿地が広がっていた地形が復元される。

このような地形は、縄文時代以前の地形を基本的には踏襲していると考えられる。縄文時代以前の地層である本調査地点の16~19層は、1998年度試掘・確認調査地点(図1-11・12地点)の10~13および9・10層との対比が可能であり、その比高は東西で1.55m、南北で1.85mにおよぶ(図3-b・c断面)。その後堆積した弥生時代前期の「黒色土」についても、確認されている地点は本調査地点と1998年度試掘・確認調査地点(図1-10・12地点)のみの確認ではあるものの、東から西へ約3.3m(図1-12地点)、2.4m(図1-10地点)、2.18m(本調査地点)と下がっていることが確認できる(図3-c断面)<sup>5)</sup>。また、2009年度立会調査地点(図1-14~16地点)と下がっていることが確認されており、それが北へ向かって下がっていていることが報告されている<sup>6)</sup>。この時期においても北西方向に下がる地形が復元されよう。

以上のように、本調査地点の成果は、津島キャンパス北東部における条里区画に対応する溝の有無、土層の堆積状況と地形復元に新たなデータを提供するものとなった。中世の湿地状堆積の範囲や、より詳細な地形復元に向けて、引き続きデータの取得と検討を重ねていくことが今後の課題となろう。(山口雄治)

## 註

- 1) 岩崎志保編2005『津島岡大遺跡16-第17・22次調査-』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
小林青樹・野崎貴博1998『津島岡大遺跡10-第9次調査-』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
土井基司・山本悦世1995『津島岡大遺跡6-第6・7次調査-』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 2) 岩崎志保2010『津島岡大遺跡第31次調査』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター-紀要2008』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 3) 富樫孝志1991「立会調査」岡山大学構内遺跡調査研究年報 8 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 4) 池田晋2011『環境理工学部公共下水道接続工事』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター-紀要2009』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 5) 岩崎志保2000『津島キャンパス北東部地域の試掘調査』岡山大学構内遺跡調査研究年報 16 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
野崎貴博2022『ライフライン再生に伴う樹・配管工事』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター-紀要2021』岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門
- 6) 1998年度試掘・確認調査地点の報告では、図1-10地点の「黒色土」は13層と報告されている(岩崎2000)。しかしながら、そのすぐ西隣の2009年度立会調査地点(図1-14~16地点)で確認されている「黒色土」とは大きく標高が異なることがわかった。2009年度立会調査地点では、「黒色土」の上層に2層の土壌化層が存在しており、その内の下層の土壌化層(13層:弥生時代中期~後期)の標高が1998年度試掘・確認調査地点(図1-10地点)の13層とほぼ同レベルに当たることがわかった。このことから本報告では、1998年度試掘・確認調査地点(図1-10地点)の「黒色土」は、黒灰色粘質土として報告されている17層であると解釈し、本報告において修正のうえ記述した。
- 6) 前掲註4池田文蔵

## 第2節 立会調査の概要

### 1. 実施状況

津島地区で6事業30件の立会調査を行った。鹿田地区での実施は無かった。本節では、中世層以下の包含層を確認した調査番号2・6について報告する。

### 2. 津島地区

#### a. 総合実験研究棟（工学系）新営に伴う機械設備工事（津島地区：調査番号2、AU04～05区）

津島北地区北東の駐車場に新たに建設された総合実験研究棟の機械設備工事に伴う立会調査である。このうち、生活排水柵の設置に伴う掘削の際、掘り方底面で中世層と考えられる包含層を確認した（調査番号2-8）。掘削規模は上面で1.6×1.4m、深さ1.75mである。

既往の調査成果から、1層は陸軍駐屯地造営時の造成土、2層は明灰色弱粘質土で近代の耕作土と比定する。3層は明褐色砂質土、4層は灰色砂質土で、いずれも鉄分の沈着が著しく、マンガンの凝集が顕著に認められる。5層は灰褐色砂質土で、マンガンの凝集が著しい。3～5層はいずれも砂質が強く、近世の耕作土と考えられる。6層は灰色粘質土で、マンガンの凝集が著しい。中世層と考えられる（図4）。

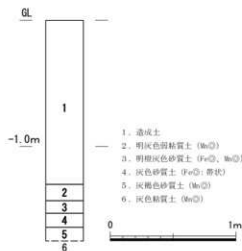


図4 土層柱状図（縮尺1/30）

#### b. 複合施設（津島北）整備工事

（津島地区：調査番号6、AX05区）

津島北地区東半中央に建設された複合施設（共有共創 commons）の整備工事に伴う立会調査である。このうち、建物南西から西側にかけて縦状に設定された排水経路では、柵・管路ともに中世層以下の包含層が確認された。ここでは西辺（調査番号6-3）、南西角（同6-5）の柵で観察された土層を報告する。なお、土層の時期は隣接する第18・40次調査の成果から推定した。**西辺柵**（図6左）掘削の深さが1.9mの設計であったため、造成土の厚さ約1mまでは掘り方を2.4×2.2mとし、2層以下の包含層部分では掘り方を1.6×1.5mとした。

1層は陸軍駐屯地造営時の造成土である。東西方向にのびる陸軍建物の基礎が確認された。2層は青灰色粘質土で近代の耕作土である。3層は明灰褐色砂質土で、上面に鉄分が著しく沈着する。4層は明灰黄色砂質土で上

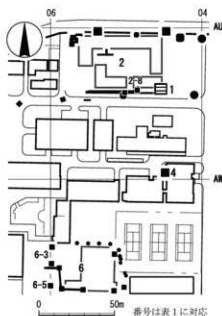


図5 調査地点詳細図（縮尺1/250）

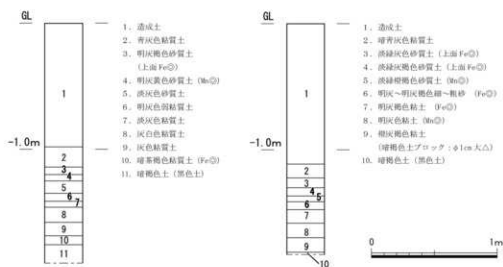


図6 土層柱状図 (縮尺1/30)

面に鉄分が沈着し、マンガンの凝集が著しい。5層は淡灰色砂質土で、鉄分の沈着やマンガンの凝集が認められる。3～5層は近世の耕作土である。6層は明灰色弱粘質土である。7層に近似するが、粘性が弱く、中世～近世の耕作土と考えられる。7層は淡灰色粘質土、8層は灰白色粘質土で、いずれも中世層である。9層は8層よりも粘性の強い灰色粘質土で古代層と考えられる。10層は暗茶褐色粘質土で、鉄分の沈着が著しい。弥生～古墳時代の土層と考えられる。11層は暗褐色土で、津島地区では「黒色土」と称している、上面が弥生時代前期に比定される鍵層である。

**南西角柱** (図6右) 掘削規模は上端で2.15×1.9m、下端で1.9×1.5m、深さ1.83mである。

1層は造成土、2層は暗青灰色粘質土で、近代の耕作土である。3層は淡緑灰色砂質土で、上面に著しく鉄分が沈着する。4層は淡緑灰色砂質土で、上面に鉄分の沈着が著しい。5層は淡緑褐色砂質土で、マンガンの凝集が著しい。3～5層は近世の耕作土である。6層は明灰～明灰褐色の細～粗砂層で、鉄分の沈着が著しい。柱の南半に向かって厚みを増し、南壁での層厚は最大0.23mをはかる。中世段階のたわみに堆積した砂がまると考えられる。7層は明灰褐色粘土で、鉄分の沈着が著しい。中世層である。8層は明灰色粘土で、マンガンの凝集が顕著である。古代層と考えられる。9層は橙灰褐色粘土で、「黒色土」を起源とする径1cm大のブロックをわずかに含んでいる。弥生～古墳時代の土層である。10層は暗褐色土〔「黒色土」〕で、上面が弥生時代前期の土層である。(野崎貴博)



表1 2022年度調査一覧（津島地区）

種別	調査番号	工事名称	調査期間	構内密部	調査深度 (GL-m)	掘削規模 (m)	造成土厚 (m)	内 容			
立会	1	総合実験研究棟（工学系）新営	5/18	AU04	4.30	15×30	1.1	近代～縄文時代以前の土層を確認 標高2.18mで「黒色土」確認			
			2-1	U字掘削	9/16	AU04-05	0.5	幅0.6	-	造成土内	
				雨水井	9/16		0.65	0.52×0.52	-	造成土内	
				P字イン撤去	9/16		0.8	0.5×0.5	-	造成土内	
				排水抜取	9/16・22		0.45-0.8	12×12～2×2	-	造成土内	
			2-2	鋼管ボーリング	10/13	1	φ0.2	0.8	近代・近世層 基準土および隣接の2009年度立会より判別		
			2-3	電気設備 工事	ハンド ホール 貫通	10/31～	AU05	0.75～1.23	幅0.4～1.64		
					ハンド ホール	11/2・8・9		1.3～1.49	1.8×2.2	1.1～1.3	GL-1.22～1.39m以下で近世層確認
			2-4	電気設備 工事	既設外灯基礎撤去	10/31	0.7～0.9	0.5×0.6	-	2小所、造成土内	
			2-5	電気設備 工事	キュービ クル・ 配管	12/21	AU05	0.7～0.8	管径：φ0.8～1.2、 キュービクル： 1.0×2	-	造成土内
			2-6・7	生活排水	管路	12/27・ 1/10	AU05	1.1～1.2	0.8～0.9	-	造成土内
			2-8		井	1/12	AU05	1.75	1.6×1.4	1.3	底面で中世層上面を確認
			2-9	生活・ 実験排水	管路	1/17	AU05	0.5	0.70	-	造成土内
			2-10・ 12	生活排水	管路	1/19・2/7	AU05	0.65～0.7	0.5～0.65	-	造成土内
			2-11	実験系 排水	井	1/24	AU05	1.4	1.8×1.8	0.9	近世層を確認
	2-13	実験系 排水	管路	3/16	AU05	1.1	1.00	1.1	近代層上面まで		
	3	ゲノムプロオーム空調設備工事・ 支柱設置		10/3	BB15	1	φ0.15	-	造成土内		
	4	工学部6号館東トイレ改修電気 設備工事		11/7	AY04	0.9	φ0.2	-	既設内		
	5	農場ビニル ハウス新設	基礎	11/21	BE23	0.35	0.9×0.9	-	耕作土（表土）内		
			支柱/アンカー	1/6		1.25/0.62	φ0.3/0.6×0.6	-	支柱：近代層確認/アンカー：造成土内		
	6-1	給水管		1/24		0.6	3×0.3	-	造成土内		
	6-1	共同溝接続		11/21		1.4	1.55×1.2	-	既設内		
	6-2	電気 設備	ハンド ホール	11/25		1.1	1.0×2.0	-	既設内		
	6-3	排水	汚水排水	11/29・30	AX05	1.9	上2.2～2.4 1.5×1.6	0.98	近代～弥生前期「黒色土」を確認		
	6-4・ 6-7		汚水管路	11/30・ 12/1・5・ 7		1.33～1.47	上1.0、1.06	0.97～ 1.01	近代～中世層を確認		
	6-5	汚水排水	汚水排水	12/1	1.73	上2.1×1.9 1.9×1.5	1.11	近代～弥生・古墳層（サトトモで「黒色土」 を確認			
			汚水排水	12/7	1.35	上1.7×1.85	0.9	近代～中世層（南津島のみ残存）を確認			
6-8	外灯		12/15・20		1.15～1.5	上1.1×0.9	0.85	4小所掘削、3小所で近世層を確認			
6-9	樹木	伐根 (4ヶ所)	12/30		0.5～0.7	0.9～1.8×1.3	-	造成土内			
6-10	植栽		12/26		0.7	φ0.9	-	造成土内			
7-1	給水メーター撤去		3/2		0.65	1×1	-	造成土内			
7-2	文法総合学 園（ボイラー 室）改修機 械設備工事	管路	3/2	AX16	0.4	0.45	-	造成土内			
7-3		トラップ取	3/2		0.65	1×1	-	造成土内			
7-4		耐震補強	3/14		0.7	幅1.1	-	既設内			



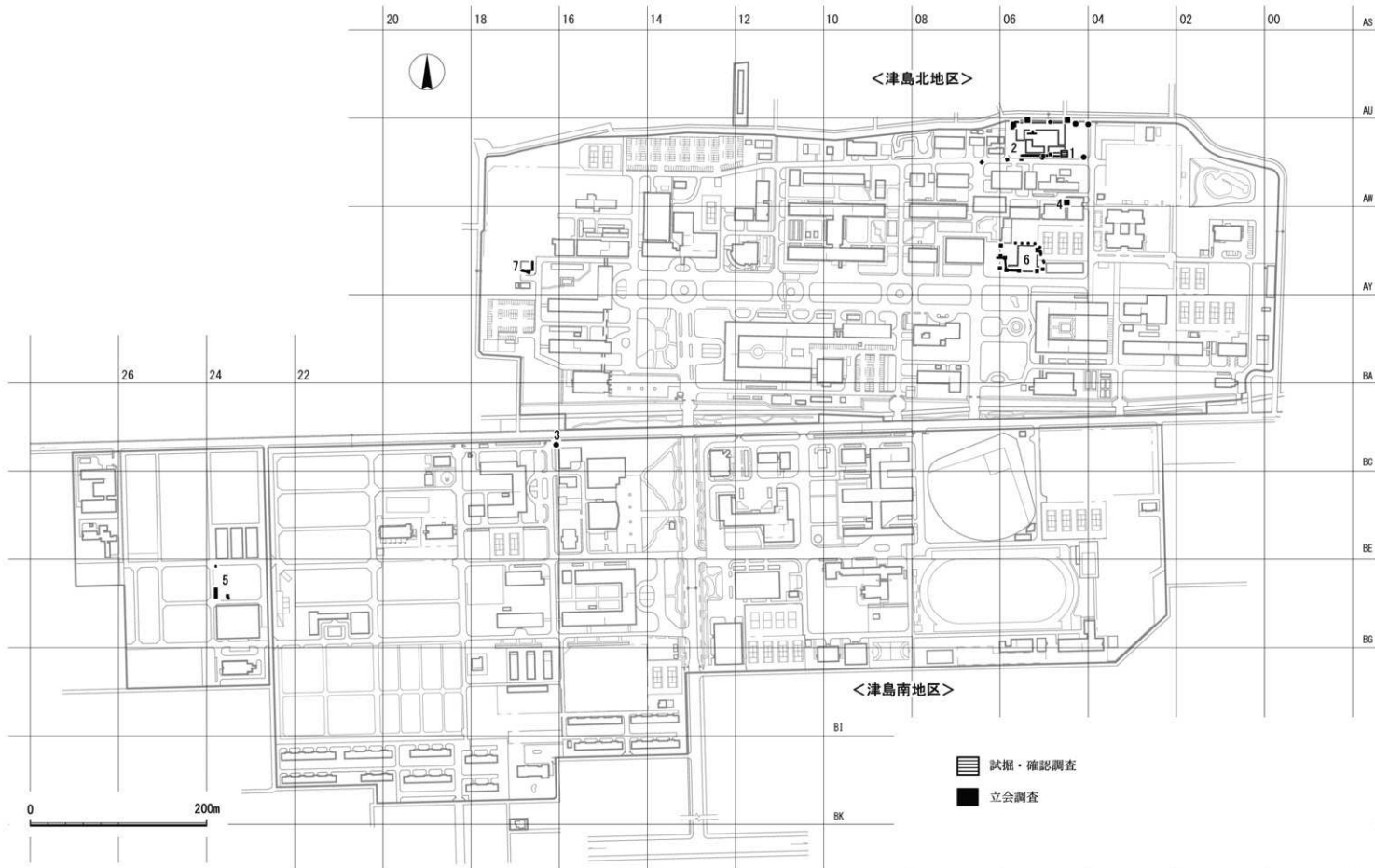


図7 2022年度の調査地点—津島地区— (縮尺1/4,000)

\*番号は表1の調査番号に対応する。

## 第3節 構内遺跡に関する研究

### 1. 鹿田遺跡第12次調査出土井戸枿材と規格材の復原

野崎 貴博

#### a. はじめに

鹿田遺跡第12次調査は2000・2001年度に発掘調査を実施し、中世前半の方形縦板組横棧留め井戸枿を内包する井戸2基を検出した。これらの井戸の井戸枿材は取り上げ後、記録、保存処理を行い、2021年3月に報告書（野崎編2021、以下『報告第37冊』とする）を刊行した。

しかし、本報告書の整理期間から刊行時にかけては新型コロナウイルス感染症の世界的な流行期にあたり、その感染拡大を防ぐための行動制限が全国的になされた。そのため、これまで外部の研究者に依頼して実施してきた樹種同定を実施することができなかった。その後、行動制限が緩和された2022年5月に樹種同定を実施することができたため、その結果をここで報告する<sup>1)</sup>。

ところで、こうした縦板組井戸枿に用いられる板材は、形状が単純であったり、加工が少なかつたりするなど、分析属性に乏しい遺物とみなされがちであったと思われる。鹿田遺跡の資料でも、残存状態が良いとみられる資料を代表して示すなど、簡単な報告にとどまっていた。一方で、京都府長岡京跡出土の井戸枿材を対象とし、これらの板材の接合関係を手がかりにして、古代以降にみられる規格流通材である「榑」を復原する先駆的な研究が岡田文雄によって行われている（岡田2003・2005）。鹿田遺跡出土資料でも同様の手法で原材となる榑の存在が指摘されてきた（光本2006）。これらは板材資料群の総体を観察、分析することが、古代・中世の木材流通の一端を解明することにつながることを示した先例である。

小文では、まず2021年刊行の報告書に掲載できなかった資料を報告する。1基の井戸に用いられた板材の全体を共有することを目的に、実測図を提示することとした<sup>2)</sup>。さらに板材にのこされた工具痕を観察し、板材の製材前の姿を復原するとともに、井戸枿板材幅の分布傾向と接合関係から榑そのものの断面形状を推定する。

#### b. 鹿田遺跡第12次調査検出井戸4・5の概要と井戸枿材の樹種

鹿田遺跡第12次調査では、井戸枿を有する井戸が2基検出された。これについては既に『報告第37冊』で報告しており、ここでは概要を示す。

**井戸4**（表2） 平面形は円形を呈し、規模は上面で2.34×1.98m以上、検出面からの深さ2.31mをはかる。中央部に方形縦板組横棧留めの井戸枿を設置する。出土遺物から中世前半（12世紀中頃）と位置づけられる。

方形縦板組横棧留め井戸枿は、四隅の柱を有しない。横棧は2段確認され、上下の横棧の間は縦位の支保材を四方にはめ込む構造となっている。板材は縦位に立てて用いられる。幅広の板材を各辺に数枚ずつ用い、隣り合う板材の木端を重ねて立て並べ、細い板材は外側からの隙間をふさぐように用いられる。

取り上げた板材は33枚で、『報告第37冊』では4枚を図化し、報告した。基本的には割り裂きによる製材で、厚手のものでは手斧等の工具によるはつきり痕が周縁部に確認されるもの、部分的に施されるものがある。木口・木端は平滑に仕上げられ、手斧等の工具によるはつきり痕が認められる。

樹種はスギ、モミ属の2種で、ほとんどの板材の木取りは板目である。

**井戸5**（図8-10、表3・4） 平面形は円形を呈するとみられる。規模は上面で2.06×1.82m以上、検出面からの深さ2.27mをはかる。中央部に方形縦板組横棧留めの井戸枿を設置する。出土遺物から中世前半（12世紀）に位置づけられる。

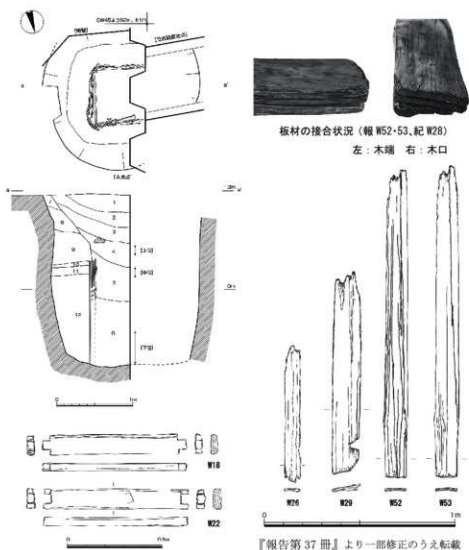


図8 鹿田遺跡第12次調査井戸5と出土井戸枠材 (S=1/20・1/50)

方形縦板組横棧留め井戸枠は、隅柱を有しない。横棧は1段分のみが確認された。しかし、井戸枠の天端では、縦板材の並びの内側に、えぐりのある板材 (図8、W26) が横位に差し渡されている状況が確認されており、横棧の代替支保材として用いられたものと考えられる。横棧や横位の板材で構成される枠の外側には縦位に立てた板材が使用される。板材は二重、三重に立てられており、乱雑な配列状況を示す。

板材は取りあげ可能だった82枚を取りあげ、「報告第37冊」では28枚を図化し、報告した<sup>3)</sup>。いずれも木表、木裏に割り裂き痕が認められ、原材を打ち割って製材したことがうかがわれる。このうち、8組17枚で接合関係を有することが判明した<sup>4)</sup>。また、木口付近の切り欠きの形状から、建築材等を転用し、割り裂いて井戸枠材にしたものが少なくとも10枚は認められている。

樹種はスギ、モミ属の2種で、板材の木取りは板目である。

### c. 井戸5の板材

井戸5の井戸枠として用いられた板材について、その資料化と観察・分析を進め、成果を蓄積・共有すること

を目的として、図化可能なものについてはすべて図化していたが、『報告第37冊』では紙幅の都合上、支保材や切り欠きを有する板材、接合関係の確認された板材を優先して報告することとしたため、すべてを掲載するには至らなかった。そこで図化していた残りの板材等の実測図をここで報告する。小文で実測図を報告する資料は、板材51点、角材1点である。なお、『報告第37冊』で報告した板材の番号は「報W●」、小文で報告するものは「紀W●」と表記を区別して説明する。

**資料の概略と特徴** 板材の残存長については、大まかに約1.2m超の長いもの、約0.4~0.8mのもの、約0.3m以下の短いものに分けられる。

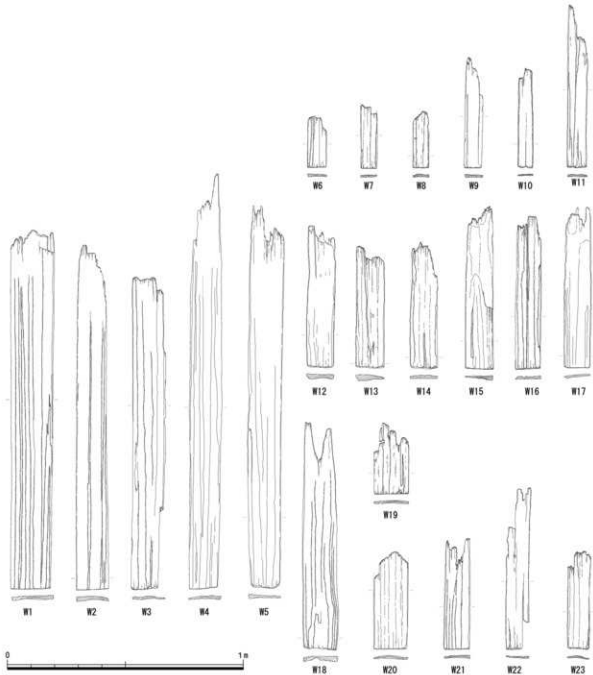


図9 鹿田遺跡第12次調査井戸5出土井戸枠材(1) (S=1/16)

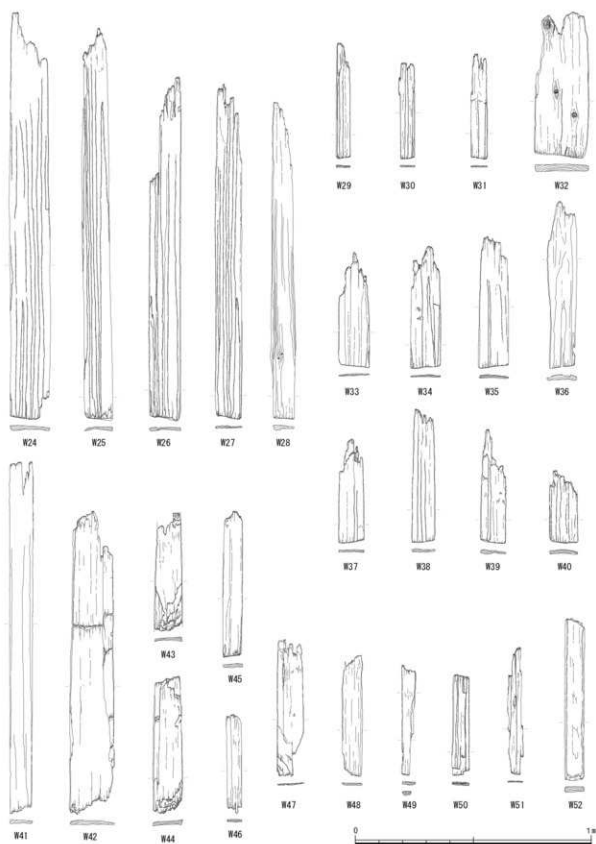


図10 鹿田遺跡第12次調査井戸5出土井戸枠材(2) (S=1/16)

表2 鹿田遺跡第12次調査井戸4出土木製品

番号	部材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	特徴	未取り	OKUP	種類	SR
第-W3	井戸枠・横木(平は平四角)	830	9.2	3.1	南木口は平は平切り出し、本端に削り直	根	2107	木片	S
第-W3	井戸枠・横木(平は平四角)	830	8.9	3.3	南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2107	木片	S
第-W3	井戸枠・横木(平は平四角)	825	9.4	2.6	南木口は平は平切り出し、本端に削り直	根	2108	木片	S
第-W5	井戸枠・横木(平は平四角)	831	8.9	2.1	南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2109	木片	S
第-W6	井戸枠・横木(平は平凸角)	823	9.2	2.7	中端部で折れ直、南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2160	木片	S
第-W7	井戸枠・横木(平は平凸角)	823	9.3	2.5	南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2161	木片	S
第-W8	井戸枠・横木(平は平凸角)	825	9.4	2.2	南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2162	木片	S
第-W9	井戸枠・横木(平は平凸角)	823	9.0	2.5	南木口は平は平切り出し、本端に削り直	根	2163	木片	S
第-W10	井戸枠・支保材(縦割)	763	4.2	1.9	断面が扇形。南木口は平は平切り出し	根	2157	木片	S
第-W11	井戸枠・支保材(縦割)	765	4.2	2.6	断面が扇形。南木口は平は平切り出し	根	2165	木片	S
第-W12	井戸枠・支保材(縦割)	762	4.6	2.8	断面が扇形。南木口は平は平切り出し	根	2166	木片	S
第-W13	井戸枠・支保材(縦割)	761	4.5	2.8	断面が扇形。南木口は平は平切り出し	根	2167	木片	S
第-W14	井戸枠・板	129.4	3.06	5.1	釘7箇所。木表縁深直。本端、木口は手斧で削り	根	2330	木ミズ	S
第-W15	井戸枠・板	127.2	2.31	3.4	釘7箇所。木表、本端は手斧で削り	根	2345	木ミズ	S
第-W16	井戸枠・板	123.5	2.55	5.5	釘7箇所。木表、本端、木口は手斧で削り	根	2355	木ミズ	S
第-W17	井戸枠・板	29.2	9.8	0.7	断面が扇形	根	2354	木片	S
井戸枠・板	34.5	10.5	0.4	断面が扇形	根	2326	木片	S	
井戸枠・板	39.0	4.5	0.7	断面が扇形	根	2327	木片	S	
井戸枠・角材下	29.0	3.0	2.5		副材	2328			
井戸枠・板	122.8	1.28	1.2	断面が扇形	根	2329	木ミズ	S	
井戸枠・板	80.0	8.3	0.8	断面が扇形	根	2331	木片	S	
井戸枠・角材下	23.0	4.0	3.0		副材	2332			
井戸枠・板	127.0	2.80	3.0	断面が扇形	根	2333	木ミズ	S	
井戸枠・板	115.0	7.5	0.7	断面が扇形	根	2334	木片	S	
井戸枠・板	68.5	8.5	0.8	断面が扇形	根	2335	木片	S	
井戸枠・板	88.0	9.7	0.8	断面が扇形	根	2336	木片	S	
井戸枠・板	110.0	22.7	2.3	断面が扇形	根	2337	木ミズ	S	
井戸枠・板	129.0	10.3	3.0	断面が扇形	根	2338	木ミズ	S	
井戸枠・板	28.0	4.0	2.5	断面が扇形	根	2339	木片	S	
井戸枠・板	149.0	20.0	2.5	断面が扇形	根	2340	木ミズ	S	
井戸枠・板	82.6	9.7	1.2	断面が扇形	根	2341	木片	S	
井戸枠・板	148.0	41.2	3.6	断面が扇形	根	2342	木ミズ	S	
井戸枠・板	104.0	8.5	1.0	断面が扇形	根	2344	木片	S	
井戸枠・板	20.7	8.5	0.8	断面が扇形	根	2346	木片	S	
井戸枠・板	124.2	21.2	3.8	断面が扇形	根	2347	木ミズ	S	
井戸枠・板	27.5	9.3	1.2	断面が扇形	根	2348	木片	S	
井戸枠・板	144.0	31.8	3.5	断面が扇形	根	2349	木ミズ	S	
井戸枠・板	135.4	25.3	4.5	断面が扇形	根	2350	木ミズ	S	
井戸枠・板	126.0	26.5	2.4	断面が扇形	根	2351	木ミズ	S	
井戸枠・板	30.0	7.5	1.0	断面が扇形	根	2352	木片	S	
井戸枠・板	32.6	10.5	0.9	断面が扇形	根	2353	木片	S	
井戸枠・板	46.4	5.0	0.4	断面が扇形	根	2356	木ミズ	S	

※部材は残存数

表3 鹿田遺跡第12次調査井戸5出土木製品(1)

番号	部材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	特徴	未取り	OKUP	種類	SR
第-W18	井戸枠・横木(平は平凸角)	763	10.2	2.8	南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2108	木片	S
第-W19	井戸枠・横木(平は平凸角)	739	10.4	3.4	南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2109	木片	S
第-W20	井戸枠・横木(平は平凸角)	764	11.3	4.3	南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2423	木片	S
第-W21	井戸枠・横木(平は平凸角)	745	11.4	3.0	南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2120	木片	S
第-W22	井戸枠・横木(平は平凸角)	764	10.6	4.3	南木口は平は平切り出し、一部のみ直り直	根	2171	木片	S
第-W23	井戸枠・支保材(縦割)	665	4.9	4.0	断面が扇形。南木口は平は平切り出し	副材	2172	木片	S
第-W24	井戸枠・棟杭施工材	524	2.9	2.9	表裏、本端の4面は面取り、片側木口欠削	副材	2445	木片	S
第-W25	井戸枠・棟杭施工材	515	2.3	1.8	表裏、本端の4面は面取り、片側木口欠削	根	2436	木片	S
第-W26	井戸枠・板	724	8.2	1.4	断面が扇形。木口は2×9の捻り	根	-	-	-
第-W27	井戸枠・板	657	8.8	2.0	断面が扇形。木口は斜め方向に切削、工具痕あり	根	2365	木片	S
第-W28	井戸枠・板	567	9.8	1.6	断面が扇形。本端は溝状ののこぎり直	根	2448	木片	S
第-W29	井戸枠・板	3074	14.3	3.2	断面が扇形。木口は工具による切削。断面W3と接合	根	2407	木片	S
第-W30	井戸枠・板	1250	11.7	1.6	断面が扇形。台形の切り欠き	根	2393	木片	S
第-W31	井戸枠・板	1282	11.6	1.5	断面が扇形。台形の切り欠き	根	2358	木片	S
第-W32	井戸枠・板	682	12.6	3.1	断面が扇形。台形の切り欠き	根	2378	木片	S
第-W33	井戸枠・板	661	13.6	2.0	断面が扇形。台形の切り欠き	根	2380	木片	S
第-W34	井戸枠・板	389	13.0	1.1	断面が扇形。台形の切り欠き	根	2388	木片	S
第-W35	井戸枠・板	301	21.5	2.1	断面が扇形。台形の切り欠き	根	2382	木片	S
第-W36	井戸枠・板	400	6.9	1.5	断面が扇形	根	2373	木片	S
第-W37	井戸枠・板	592	13.8	1.0	断面が扇形。斜め方向に切り出し、工具痕あり。断面W3と接合	根	-	-	-
第-W38	井戸枠・板	649	13.9	1.3	断面が扇形。斜め方向に切り出し、工具痕あり。断面W3と接合	根	2425	木片	S
第-W39	井戸枠・板	1214	14.1	0.7	断面が扇形。木口は工具による切削。断面W4と接合	根	2404	木片	S
第-W40	井戸枠・板	1217	14.0	0.7	断面が扇形。木口は工具による切削。断面W3と接合	根	2433	木片	S
第-W41	井戸枠・板	1264	17.0	1.9	断面が扇形。木口は工具による切削。断面W42と接合	根	2436	木片	S
第-W42	井戸枠・板	1068	18.0	1.8	断面が扇形。木口は工具による切削。断面W41と接合	根	2437	木片	S
第-W43	井戸枠・板	1403	17.5	0.8	断面が扇形。木口は工具に對して斜削。断面W4と接合	根	2417	木片	S
第-W44	井戸枠・板	1246	17.9	1.6	断面が扇形。木口は工具に對して斜削。工具による切削。断面W4と接合	根	2446	木片	S
第-W45	井戸枠・板	187.0	12.8	2.2	断面が扇形。断面W46と接合	根	2407	木片	S
第-W46	井戸枠・板	162.8	12.6	2.4	断面が扇形。断面W45と接合	根	2434	木片	S
第-W47	井戸枠・板	1742	13.7	1.4	断面が扇形。断面W48と接合	根	2409	木片	S
第-W48	井戸枠・板	1542	17.2	2.0	断面が扇形。断面W47と接合	根	2438	木片	S
第-W49	井戸枠・板	1092	13.8	0.9	断面が扇形。断面W41と接合	根	2420	木片	S



表4 鹿田遺跡第12次調査井戸5出土木製品(2)

番号	品類	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	特徴	本取り	OKUP	樹種	SR
組-W30	井戸杵・板	139.6	14.2	10	順り突き製材	板目	2307	スサギ	S
組-W51	井戸杵・板	122.6	12.5	10	順り突き製材、組W49と複合	板目	2421	スサギ	S
組-W52	井戸杵・板	162.8	12.7	15	順り突き製材、組W53・記W28と複合	板目	2429	スサギ	S
組-W53	井戸杵・板	165.2	13.1	16	順り突き製材、組W52・記W28と複合	板目	2408	スサギ	S
組-W1	井戸杵・板	157.7	18.3	16	順り突き製材、本口は平滑な仕上げ	板目	2418	スサギ	S
組-W2	井戸杵・板	145.5	13.8	18	順り突き製材、本口は平滑な仕上げ	板目	2426	スサギ	S
組-W3	井戸杵・板	152.9	14.0	11	順り突き製材	板目	2430	スサギ	S
組-W4	井戸杵・板	175.7	13.7	13	順り突き製材、本口は工具痕	板目	2435	スサギ	S
組-W5	井戸杵・板	162.7	14.6	18	順り突き製材、本口は工具痕	板目	2406	スサギ	S
組-W6	井戸杵・板	27.6	8.0	12	順り突き製材	板目	2383	スサギ	S
組-W7	井戸杵・板	27.1	7.0	09	順り突き製材、本口は工具痕	板目	2415	スサギ	S
組-W8	井戸杵・板	34.0	6.9	11	順り突き製材、本口は工具痕	板目	2380	スサギ	S
組-W9	井戸杵・板	47.0	7.5	14	順り突き製材	板目	2413	スサギ	S
組-W10	井戸杵・板	42.3	6.4	06	順り突き製材、本口は工具痕	板目	2327	スサギ	S
組-W11	井戸杵・板	69.0	8.4	10	順り突き製材、本口は工具痕	板目	2359	スサギ	S
組-W12	井戸杵・板	60.2	11.6	21	順り突き製材	板目	2367	スサギ	S
組-W13	井戸杵・板	51.7	12.2	26	順り突き製材、本表は炭化、本口は工具による切斷痕	板目	2320	スサギ	S
組-W14	井戸杵・板	53.8	11.6	15	順り突き製材	板目	2419	スサギ	S
組-W15	井戸杵・板	63.9	11.9	20	順り突き製材	板目	2391	スサギ	S
組-W16	井戸杵・板	64.9	10.9	11	順り突き製材、本口は平滑な仕上げ	板目	2427	スサギ	S
組-W17	井戸杵・板	68.2	11.7	10	順り突き製材	板目	2449	スサギ	S
組-W18	井戸杵・板	96.3	10.1	23	順り突き製材、端によるみみ、本口は工具痕	板目	2447	スサギ	S
組-W19	井戸杵・板	39.2	14.8	12	順り突き製材	板目	2384	スサギ	S
組-W20	井戸杵・板	41.4	14.5	14	順り突き製材	板目	2377	スサギ	S
組-W21	井戸杵・板	47.1	10.0	15	順り突き製材、本口は工具痕	板目	2412	スサギ	S
組-W22	井戸杵・板	68.7	9.7	08	順り突き製材、反り	板目	2388	ホトケシギ	S
組-W23	井戸杵・板	47.7	9.5	08	加工痕不明瞭、反り	板目	2400	ホトケシギ	S
組-W24	井戸杵・板	177.7	17.1	20	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2465	スサギ	S
組-W25	井戸杵・板	166.1	12.1	17	順り突き製材、本口は本目に対して斜行	板目	2451	スサギ	S
組-W26	井戸杵・板	145.5	13.6	16	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2430	スサギ	S
組-W27	井戸杵・板	144.6	17.7	13	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2431	スサギ	S
組-W28	井戸杵・板	138.5	17.0	22	順り突き製材、端によるみみ、組W52・W53と複合	板目	2422	スサギ	S
組-W29	井戸杵・板	48.9	6.0	12	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2372	スサギ	S
組-W30	井戸杵・板	49.8	6.8	08	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2384	スサギ	S
組-W31	井戸杵・板	44.8	7.0	06	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2365	スサギ	S
組-W32	井戸杵・板	61.8	22.8	30	本表・本裏は工具痕不明瞭、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2383	ホトケシギ	S
組-W33	井戸杵・板	48.9	13.3	09	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2391	スサギ	S
組-W34	井戸杵・板	51.8	12.7	10	順り突き製材、本口は段状に切斷	板目	2371	スサギ	S
組-W35	井戸杵・板	55.9	12.8	14	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2402	スサギ	S
組-W36	井戸杵・板	70.8	12.6	22	順り突き製材、本表は加工痕不明瞭、本口は本目に対して斜行	板目	2410	スサギ	S
組-W37	井戸杵・板	44.2	10.9	09	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2387	スサギ	S
組-W38	井戸杵・板	36.7	9.8	12	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2366	スサギ	S
組-W39	井戸杵・板	48.4	10.8	18	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2374	スサギ	S
組-W40	井戸杵・板	39.8	12.7	17	順り突き製材、本口は本目に対して斜行、工具による切斷痕	板目	2359	スサギ	S
組-W41	井戸杵・板	148.9	10.1	16	順り突き製材、両本口欠損	板目	2422	スサギ	S
組-W42	井戸杵・板	128.1	16.9	18	順り突き製材、本表は加工痕不明瞭、両本口欠損	板目	2439	スサギ	S
組-W43	井戸杵・板	39.1	12.0	18	順り突き製材、本表は加工痕不明瞭、両本口欠損	板目	2386	スサギ	S
組-W44	井戸杵・板	58.2	12.7	21	順り突き製材、両本口欠損	板目	2411	スサギ	S
組-W45	井戸杵・板	42.0	8.4	15	順り突き製材、両本口欠損	板目	2394	スサギ	S
組-W46	井戸杵・板	41.8	5.1	11	順り突き製材、本表は加工痕不明瞭、両本口欠損	板目	2398	スサギ	S
組-W47	井戸杵・板	58.1	11.2	07	順り突き製材、両本口欠損	板目	2362	スサギ	S
組-W48	井戸杵・板	51.3	8.6	10	順り突き製材、両本口欠損	板目	2385	スサギ	S
組-W49	井戸杵・板	46.8	6.7	18	順り突き製材、本表は平滑に加工、本口は本目に対して斜行のみ	板目	2414	スサギ	S
組-W50	井戸杵・板	42.9	7.5	14	順り突き製材、本口は段状に切斷	板目	2300	ホトケシギ	S
組-W51	井戸杵・板	54.1	6.3	07	順り突き製材、本口は本目に対して斜行	板目	2399	ホトケシギ	S
組-W52	井戸杵・角材	68.5	8.3	24	両本口は2ヶ所の後り	板目	2386	スサギ	S
	井戸杵・板	31.4	3.5	10	順り突き製材	板目	-	-	-
	井戸杵・板	27.5	4.5	10	-	板目	2393	スサギ	S
	井戸杵・板	37.0	5.0	10	順り突き製材	板目	2389	スサギ	S
	井戸杵・板	22.0	4.3	07	順り突き製材	板目	2378	スサギ	S
	井戸杵・板	22.5	8.4	10	-	板目	2356	スサギ	S
	板? (サンプルのみ)	51.5	4.4	09	-	板目	2392	スサギ	S
	板? (サンプルのみ)	22.0	4.5	05	-	板目	2393	スサギ	S
	井戸杵・板	49.3	7.4	06	-	板目	2401	ホトケシギ	S
	井戸杵・板	68.1	5.7	16	順り突き製材	板目	2428	スサギ	S
	井戸杵・板	38.7	5.0	18	-	板目	2440	スサギ	S
	井戸杵・板	28.5	4.5	18	-	板目	2411	スサギ	S
	井戸杵・板	77.0	5.0	18	-	板目	2442	スサギ	S
	井戸杵・板	18.0	3.0	09	-	板目	2413	スサギ	S
	井戸杵・板	14.0	2.7	12	-	板目	2444	スサギ	S
	井戸杵・板	21.7	3.0	12	-	板目	2445	スサギ	S
	板? (サンプルのみ)	-	-	-	-	板目	2432	スサギ	S

※斜体は残存部

木口の遺存状態について、設置時に上方側であったとみられる木口はいずれも破損し、ささくれている。一方、設置時に下方側であったとみられる木口は原状をとどめるものがほとんどである。下方側の木口の形状については、転用前の原材の形状をのこしていると考えられる。こうした木口の切り出し形状に基づき、木目に対して木口を直交して切り出すもの（紀W1～23）、木目に対して木口を斜行して切り出すもの（紀W24～40、51）、木口を段状に加工するもの（紀W50）、木口が残存していないもの（紀W41～49）に大別した。

板材の製材・加工については、すべて割り裂きによって製材されている。ほとんどの板材は割り裂き時の荒々しい木目をのこしているが、少数ながらも表面が炭化した板材（紀W13・46）が認められる。表面を焦がしたものと推測される。

樹種と板材の関係について、残存長1.2m以上の割り裂き製材の縦板材はすべてがスギである。一方、モミ属に同定されたものは残存長の短い板材で、数は少ない。厚さにばらつきがあり、加工の不明瞭なものも認められる。

角材（紀W52）について、残存状態は不良なもの、両木口に2か所の挟りが認められる。同様の挟りをもつものとして報W26がある。この板材は井戸枠の天端で縦板材の内側に横板として差し渡されている状況で出土しており、ほぞを作り出した横棧に代わり、縦板の支保材として用いられたものと考えている。紀W52の出土状況は明らかではないが、加工の形状や挟り間の長さがいずれも約68cmで、支保材のほぞ間の長さとも近似することから、同様の用途が想定される。

**板材の残存長について** この井戸枠を構成する板材の全体を概観すると、長い板材と同等の幅を有するが、残存長0.8m以下の短い板材が多数存在することが判明する。このような残存長の短い板材については、「腐朽等により残存状態の良くないもの」との先入観で評価し、『報告第37冊』では報告から除外した。しかし、今回改めて井戸5の板材を検討すると、長短の板材のいずれも木口の残存状態（上方は破損してささくれ、下方は原材の形状を遺存）に差がないこと、こうした破損が生じていたのは板材の残存が確認された標高0.3～0.4mの範囲で、板材が二重、三重に配列された位置にあたることを認識するに至った。

板材の残存長に長短が生じた原因を考察するうえで参考となるのは、鹿田遺跡第20次調査B地点井戸7（12世紀前半）の検出状況である。この井戸に内包された方形縦板組横棧留め井戸枠では、縦板の検出標高はほぼ等しい。一方、縦板の下端の高さは不揃いで、最も深度の深い板材の木口の高さと比較すると、0.3～0.5m程度上方に木口が位置する板材が一定数確認されている（岩崎編2022）。井戸7の場合、板の残存長の長短は板材の検出高と板の打ち込み深さの関係で決定されているのである。

井戸5の場合、最長の板材の破損部分は断面図では5層の位置にあたる。この高さは検出された井戸掘り方の半分程度の深さにあたり、井戸使用時の井戸枠が調査時の遺構検出面よりも上位まで構築されていたとすれば、この位置は上半部に用いられた板材と下半部の板材の重なる位置にあたると思われる。また、5層は被熱礫を含む人頭大の礫や炭を包含し、祭祀行為などの人為の影響を強く推測させる土層である。本層の約0.1m上方から掘り方が陥状に開いていることもあわせると、5層の形成段階で行われた何らかの行為により、板材の天端が壊されたことが考えられる。この場合、残存長の短い板材は井戸上半部に用いられたものと考えることが適切であろう。板材の残存長に長短が生じた原因については、先入観をたず、資料の状態の観察と出土状況等の情報を総合して考察する必要があった。

#### d. 接合資料の分析

第12次調査井戸5で確認された板材は、すべて割り裂きによって採られている。すなわち、これらの板材は原材から割がされた際の面をのこしたものである<sup>5)</sup>。したがって、割離面の合致する接合材を見つけることにより、原材を復原することが可能な資料であるといえる。実際、板材端部の加工痕、木の生長痕（節）を手がが



(上) 三枚が接合した板材 (第5次調査 井戸6)  
 (下) 切り欠き部分にのこる刃痕 (上の枠内を拡大)

図11 複数の板材にまたがる加工痕

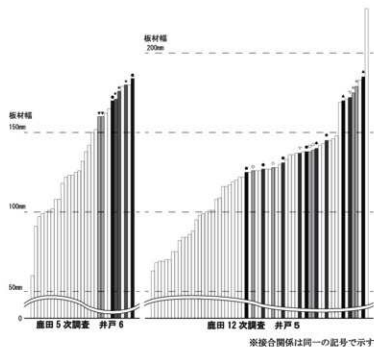


図12 板材の幅と接合関係

から広いものとなるよう、左から右へ、順に配置したものである。この図から次の3点を読み取ることができ、①数ミリメートルの差で幅を増すこと、②ミリメートル単位で同じ幅となるものは少数であること、③接合関係にあるものでも同じ幅のものは稀で、多くは幅が異なること。なお、図11で示した第5次調査井戸6の接合資料は図左のグラフの「★」印を打った3枚であり、これも幅に数ミリメートルずつの差が生じている<sup>6)</sup>。

ここで注目することは、接合資料のほとんどが同じ幅を有しないこと、すなわち、複数枚の板材が接合して重なっても、その断面形は正方形ないし長方形とはならず台形となることである。角材は必ずしも正方形体と

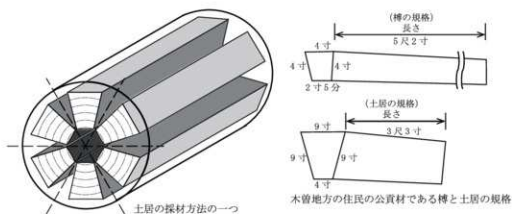
りに、剥離面の合致する接合資料を得ることができた。そこで、小文では鹿田遺跡の中世の井戸枠材で接合関係が判明している第5次調査井戸6例(松本編1993、光本2006)を含め、板材接合資料の観察と分析を行う。

**複数の板材にまたがる加工痕** 図11は同じ形状の切り欠きをもつ3枚の板材が接合した鹿田遺跡第5次調査井戸6例である。接合した板材の切り欠き部を観察すると、一単位の加工痕が複数の板材にまたがっていることが観察される。このことから次の2点が明らかとなる。①本例の切り欠きは板材を削り裂く前の加工であること。②切り欠きの形状から、この板材の原材が建築材であったこと。

こうした建築材は樽を加工して使用されたものと考えられており(岡田2003・2005)、井戸枠材の原材に建築材を含むことが分かれば、井戸枠材からも樽を知ることが可能となる。

**板材の幅と接合関係** 樽については、古代の史料に法量の記事がある(岡田2003・2005)。そこで、鹿田遺跡の2例の井戸枠材の法量データのうち、もっとも安定した数値データを得られる板材の幅を分析対象とする。あわせて板材の接合関係を検討する。

図12は、鹿田遺跡第5次調査井戸6、第12次調査井戸5の板材について、板材の両木端がのこり、原材の幅を計測できる資料について、縦軸に板材幅をとり、横軸は板の幅が狭いもの



※左は（有岡 2011, p. 164）の図をもとに筆者作成、右は同図をトレース

図13 樺と土居の規格と採材方法

なっていないのである。

このことは何を意味するのであろうか。有岡利幸は、樺や土居の形状と木取りについて、江戸時代の本曾で役木（年貢木）として課された樺・土居の規格を示す（有岡2011）。それによると、樺は長さ5尺2寸、三方4寸、腹2寸5分、土居は長さ3尺3寸、三方9寸、腹4寸である。この寸法で採材すると断面台形の規格材となる。また、同図（有岡2011, p.164）には、「土居の採材方法の一つ」として玉切りされた原木から土居を採る木取りが示されている。こうした樺や土居の形状は、芯を除いた規格材を効率よく取得するためのものと考えられる（図13）。

断面台形に採材することについては、近世段階の本曾で断面台形の規格材が年貢木とされていたことが史料にのこっていただけでなく、時代や地域は異なるものの、昭和の写真記録にも断面台形に採材される場面が認められている<sup>7)</sup>。また、長岡京跡や鹿田遺跡出土井戸枠材の計測によって得られる数値からは、断面台形の樺が復原される。古代、中世の遺跡から出土した板材の接合資料によって復原される樺の姿、文献や写真にこの記録から、こうした採材の方法が古代以降、長く受け継がれていたことをうかがい知ることができる。

#### e. まとめ

コロナ禍により「報告第37冊」への掲載ができなかった鹿田遺跡第12次調査検出井戸4・5の樹種同定結果と井戸5の井戸枠材のうち未報告資料の実測図を掲載した。井戸5の板材については、資料の特徴を提示し、特に板材の残存長に長短が生じた原因について考察した。その結果、中世段階に行われた何らかの人為的な行為の影響をうけた可能性を指摘でき、「腐朽等による残存不良」といった、根柢の希薄な先入観で資料を評価することの危険性について自戒をこめて示した。

また、井戸枠材の接合資料の観察と分析を行い、井戸枠材の原材には樺を加工した建築材が含まれること、古代以降の規格材である樺の断面形に台形のものがあることを明らかにし、これが採材の際の木取りの方法によることを示した。今日、一般に流通している角材の断面形は、ほとんどが正方形や長方形を呈しており、そうした認識を過去の木材にも投影しがちである。板材の見方も現代の認識のバイアスが潜んでいる。

小文は、特徴に乏しく、残存状態が不良にみえる板材であっても、その全体像を把握することの必要性和、視点や分析の手法次第でさまざまな情報を引き出せる可能性を有する資料であることを示した。こうした資料について、成果を蓄積し、広く共有することが、今後、過去の社会における木材利用の実態解明に必要となるものと考えられる。

## 註

- 1) 当該資料の樹種同定は能城修一氏に依頼し、その所見は本書第1章第3節2に掲載している。
- 2) 板材の資料化にあたり、実測は野崎、トレースは野崎、小野素子が行った。なお、『報告第37冊』で提示した実測図は、紙幅の都合もあり、ここでは再掲していない。
- 3) 本井戸枠の西辺は立会調査地点にあたる。工事範囲内で井戸掘り方、井戸枠構成材（横木・板材）を確認したが、幅約1mの範囲内では板材の抜き取りによる法面崩壊のおそれがあった。幸い、板材の検出高が工事の及ばない深度にあったことから、抜き取りを誘因とする事故発生等の危険を回避するため、本地点の井戸枠材は現地でも埋戻し、現状保存することとした（野崎2004）。
- 4) 『報告第37冊』では板材の取り違えおよび番号の張り間違えがあったため、ここで以下の通りに訂正する。
  - ・P.67の図79右上写真「板材の接合状況（W51～53）」のキャプションで示した板材は、正しくはW52・53と本報告の「紀W28」である。
  - ・P.68の図80下一覧表の特徴欄記載事項について、W49は「W51と接合」、W51は「W49と接合」に訂正し、W50は「W48・50と接合」を削除する。
  - ・巻末写真図版について、図版41「木製品（2）：井戸5」のうち、板材W51としたものは本報告の「紀W28」に訂正する。
- 5) 割り裂き後に手斧状の工具によるはつりを施す板材は、第12次調査井戸4でわずかに確認されている。
- 6) こうした傾向は、岡田が長岡京跡の井戸で示した接合板材の本表幅・本表幅の数値でも認められる（岡田2003, p.417第1・2表）。
- 7) 昭和の製材所の写真記録にも、木挽きが玉切りの木材から台形に採材する場面がある（須藤2004, p.129）。

## 【参考文献】

- 有岡利幸2011『檜（ひのき）のもと人間の文化史153 法政大学出版局
- 岩崎志保編2022『鹿田遺跡16』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第38冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 岡田文雄2003「長岡京跡の井戸の欄板に用いられた古代の榑について」『田辺昭三先生古稀記念論文集』pp.411-422 田辺昭三先生古稀記念の会
- 岡田文雄2005「林業－榑の生産と流通」『列島の古代史 ひと・もの・こと 2 暮らしと生業』pp.303-320 岩波書店
- 須藤功2004『写真ものがたり 昭和のくらし2 山村』農山漁村文化協会
- 野崎貴博2004「エネルギーセンター棟周辺構工事に伴う立会調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2002』pp.29-31 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 野崎貴博編2021『鹿田遺跡15』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第38冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 松本武彦編1993『鹿田遺跡3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 光本順2006「鹿田遺跡第5次調査出土の井戸枠材に関する再検討－焼印と木材の規格－」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2004』pp.25-36 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

## 2. 鹿田遺跡第12次調査出土の井戸枠類の樹種

能城 修一（明治大学黒耀石研究センター）

### a. はじめに

鹿田遺跡第12次調査で出土した中世前半（12世紀）井戸枠類の樹種を報告する。これらの資料はすでに保存処理済みであり、処理前に樹種同定用に採取されていた小片から放射断面の切片のみを採取した。

### b. 方法

樹種同定用のプレパラート標本は、放射断面の切片を片刃カミソリで切りとり、ガムクロラル（抱水クロラル50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50mlの混合物）で封入して作製した。プレパラートには、OKUF-2156～2172、2326～2452の番号を付して標本番号とした。プレパラート標本は明治大学黒耀石研究センターに保管されている。

### c. 結果

資料144点には針葉樹2分類群が認められた（表5、図14）。以下には、木材組織学的な記載を行い、光学顕微鏡写真を提示して同定の根拠を記す。

#### (1) モミ属 枝・幹材 *Abies* 図14: 1c（マツ科、OKUF-2356）

水平樹脂道は欠き、晩材の量が多い針葉樹材。放射組織は柔細胞のみからなり、細胞壁には単壁孔が著しい。分野壁孔はごく小型のスギ型で1分野に2～4個。

#### (2) スギ 枝・幹材 *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don 図14: 2c（ヒノキ科、OKUF-2367）

水平樹脂道は欠き、晩材の量が多い針葉樹材。早材の終わりから晩材には樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はごく大型のスギ型で1分野に2個。

### d. 考察

井戸枠の横木と支保材にはスギのみが使われており、それ以外の板材や横木、棒状製品にももっぱらスギが選択されていた（表5）。板材にはモミ属も使われていたが、板材全体の18%であった。全国的に井戸枠材にはスギがもっとも多用されるものの、宮城県下飯田遺跡や、兵庫県玉津田中遺跡・佃遺跡、岡山県早間川米田遺跡などで、中世の井戸材に使用されていた（伊東・山田2012）。岡山大学構内でも、スギは鹿田遺跡第1次調査で見いだされた弥生時代後期と平安時代末期の井戸や（能城1993）、鹿田遺跡第24次調査で見いだされた平安時代末～鎌倉時代前半の井戸のように多用されており（能城2018）、モミ属は鹿田遺跡第24次調査のほか、津島遺跡第10次調査で見いだされた古墳時代前期の井戸に使われており（能城2003）、井戸にはスギに次いでモミ属が選択されていたようである。

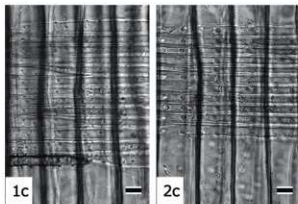
### 【引用文献】

- 伊東隆夫・山田昌久編2012『木の考古学：出土木製品用材データベース』海青社  
 能城修一1993「岡山大学鹿田地区から出土した木製品の樹種」『鹿田遺跡3～第5次調査～』pp.119-146 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
 能城修一2003「津島岡大遺跡第10次調査および第12次調査より出土した木材の樹種」『津島岡大遺跡11～第10・12次調査～』pp.341-350 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

能城修一2018「鹿田遺跡第24次調査出土木製品類の樹種」『鹿田遺跡11-第24次調査-』pp.70-75 岡山大学埋蔵文化財査研究センター

表5 鹿田遺跡第12次調査で出土した中世前半（12世紀）の井戸材の樹種

樹種名	井戸枠			積木	敷材	板材?	形状
	橋本 (平はせ凹面)	橋本 (平はせ凸面)	支保材 (縦位)				
モミ属					22		
スギ	6	6	5	1	100	2	2



1c: モミ属 (マツ科, OKUF-2356), 2c: スギ (ヒノキ科, OKUF-2367),  
c: 放射断面 (スケール=25 μm)。

図14 鹿田遺跡第12次調査出土井戸枠等の顕微鏡写真

## 3. 鹿田遺跡第20次調査出土の木製品類の樹種

能城 修一（明治大学黒曜石研究センター）

## a. はじめに

『鹿田遺跡16』で報告した217点に加えて、鹿田遺跡第20次調査で出土した中世前半から近世の木製品類56点の樹種を報告する<sup>1)</sup>。

## b. 方法

樹種同定用のプレバート標本は、木製品類および自然木から横断面、接線断面、放射断面の切片を片刃カミソリで切りとり、ガムクロラル（抱水クロラル50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50mlの混合物）で封入して作製した。プレバートには、OKUF-2173~2226の番号を付して標本番号とした。プレバート標本は明治大学黒曜石研究センターに保管されている。

## c. 結果

資料54点には針葉樹3分類群、広葉樹3分類群が認められた（表6、図15）。以下には、木材組織学的な記載を行い、光学顕微鏡写真を提示して同定の根拠を記す。

(1) スギ 枝・幹材 *Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don 図15: 1a-1c (ヒノキ科, OKUF-2180)

垂直・水平樹脂道とともに欠く針葉樹材。晩材の量はやや多く、早材から晩材への移行は緩やか。早材の終わりから晩材には樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はごく大型のスキ型で1分野に2個。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl 図15: 2a-2c (ヒノキ科, OKUF-2210)

垂直・水平樹脂道とともに欠く針葉樹材。晩材の量は少なく、早材から晩材への移行は緩やか。早材の終わりから晩材には樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は中型のトウヒ型で1分野に2個。

(3) コウヤマキ 枝・幹材 *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Siebold et Zucc

図15: 3c (コウヤマキ科, OKUF-2218)

垂直・水平樹脂道とともに欠く針葉樹材。晩材の量はやや多く、早材から晩材への移行は緩やか。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は大型で孔口が斜め～水平に開く窓状で1分野に1~2個。

(4) ケヤキ 枝・幹材 *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino 図15: 4a-4c (ニレ科, OKUF-2226)

中型で丸い道管がほぼ単独で年輪のはじめに1~2列配列し、晩材では徐々に小型化した道管が2~数個ずつかたまって斜めに連なる傾向をみせて散在する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は上下端の1列が直立する異性で8細胞幅位、ときに直立部に大型の菱形結晶をもつ。

(5) クリ 枝・幹材 *Castanea crenata* Siebold et Zucc 図15: 5a-5c (ブナ科, OKUF-2182)

ごく大型で丸い孤立道管が年輪のはじめに3列ほど配列し、晩材では徐々に小型化した丸い孤立道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性。

(6) ツバキ属 枝・幹材 *Camellia* 図15: 6a-6c (ツバキ科, OKUF-2175)

小型～ごく小型で丸い孤立道管が年輪内で徐々に小型化しながら散在する散孔材。道管の穿孔は10段ほどの階段状。木部柔組織は短接線状。放射組織は上下端の1~3列ほど直立する異性で2細胞幅、直立部にはときに大型の菱形結晶をもつ。



## d. 考察

当遺跡では、中世前半の曲物や蓋にはヒノキが、井戸枠や板などにはスギが多用され、中世後半以降になると曲物にも板にもスギのみが使われていた(表6)。中世の井戸にはスギがもっとも多く使われており、ヒノキが多用される兵庫県や奈良県、香川県などを除いて、東北地方から九州北部まで各地で選択されていた(伊東・山田2012)。岡山大学構内でも同様であり、鹿田遺跡第5次調査(能城1993)や、鹿田遺跡第12次調査(能城2023)、鹿田遺跡第24次調査(能城2018)で古代末期～中世前半の井戸でスギがもっとも多く使われていた。

## 註

- 1) 鹿田遺跡第20次調査B・D地点発掘調査の報告は2022年3月に「鹿田遺跡16」(岡山大学構内遺跡発掘調査報告第38冊)として刊行しており、出土木製品類217点の同定報告を行っている。諸事情により、刊行後に樹種同定を実施した木質資料56点についてここで報告し、表7では製品別に集計した252点について合計の集計表を掲載する。

## 【引用文献】

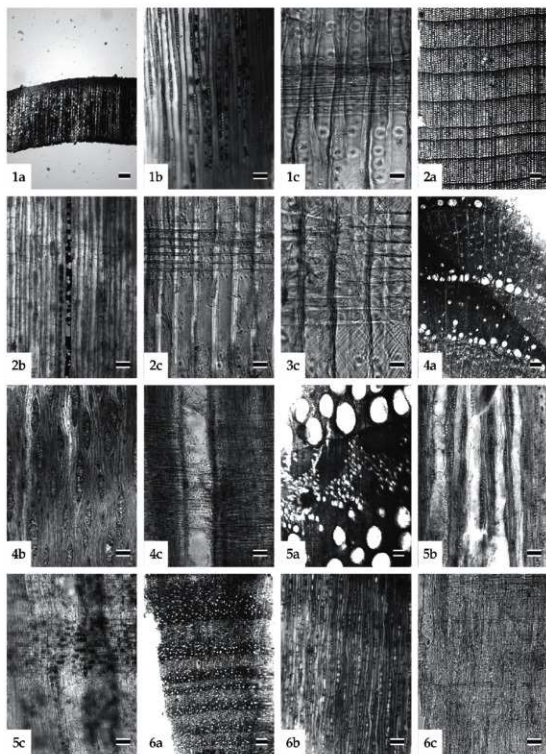
- 伊東隆夫・山田昌久編2012「木の考古学：出土木製品用材データベース」海青社  
 能城修一1993「岡山大学鹿田地区から出土した木製品の樹種」『鹿田遺跡3－第5次調査－』pp.119-146 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
 能城修一2018「鹿田遺跡第24次調査出土木製品類の樹種」『鹿田遺跡11－第24次調査－』pp.70-75 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
 能城修一2022「鹿田遺跡第20次調査出土木製品類の樹種同定」『鹿田遺跡16』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
 能城修一2023「鹿田遺跡第12次調査出土の井戸枠等の樹種」『岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門紀要2022』pp.21-22 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門

表6 鹿田遺跡第20次調査で出土した木製品の樹種(1)

樹種名	中世前半 (11世紀末～12世紀)					中世前半 (13世紀末～14世紀初)			中世 後半			中世後半 (15～16世紀)			近世		総計
	曲物	蓋	柄	井戸枠	くさび	板	加工木	板	杖	加工木	柄	曲物	板	加工木	曲物	板	
スギ	1			18	1	3		1		1		1	5	1	1	3	36
ヒノキ	6	2		5					1								15
コウヤマキ				1													1
ケヤキ									1	1							2
クリ											1						1
フナキ属				1													1
総計	7	2	1	24	1	3	1	1	1	3	1	1	5	1	1	3	56

表7 鹿田遺跡第20次調査で出土した木製品の樹種(2)

樹種名	中世前半(11世紀末～12世紀)					中世前半 (13世紀末～14世紀初)				中世 後半	中世後半 (15～16世紀)			近世		総計		
	曲物	蓋	柄	井戸枠	くさび	板	加工木	柄	杖		加工木	板	杖	曲物	板		柄	
モミ属				8		8	3	1									20	
ツグ属								1									1	
コウヤマキ				12													12	
スギ	1	1		135	1	8		2		1		1	6	1	1	1	180	
ヒノキ	6	2		9		1	1	1		1	1						22	
セケレン属															2		2	
ニレ属								2									2	
ケヤキ								1	1								2	
スノキ属								1	1								2	
クリ								1			1				3		5	
スズノイ						1											1	
カネア属																	1	
ツバキ属			1														1	
エゴノキ属						1											1	
総計	7	3	1	164	1	19	9	6	5	3	1	1	1	6	1	6	1	252



1a-1c: スギ (ヒノキ科, OKUF-2180), 2a-2c: ヒノキ (ヒノキ科, OKUF-2210), 3c: コウヤマキ (コウヤマキ科, OKUF-2218), 4a-4c: ケヤキ (ニレ科, OKUF-2226), 5a-5c: タリ (ツナギ科, OKUF-2182), 6a-6c: ツバキ属 (ツバキ科, OKUF-2175), a: 横断面 (スケール=200 $\mu$ m), b: 接線断面 (スケール=100 $\mu$ m), c: 放射断面 (スケール=25 (1c, 2c, 3c), 50 (4c, 5c, 6c)  $\mu$ m).

図15 鹿田遺跡第20次調査出土木製品類の顕微鏡写真

表8 鹿田遺跡第20次調査出土木製品類の樹種一覧

標本	番号	樹種	SR	木取り	製品名	遺構番号	図録番号	時期	備考
OKUF	1959	ヒノキ	S	板目	桐板	土坑20	-	19世紀前半	
OKUF	1961	スギ	S	板目	桐板	土坑20	-		
OKUF	2173	スギ	S	板目	曲げ物	井戸24	H02W02	18世紀	
OKUF	2174	スギ	S	板目	板材	井戸17	H02W58	15世紀末～16世紀前半	
OKUF	2175	ツバキ属	S	芯持ち割り出し	柄	井戸4	H02W1	11世紀後半～12世紀前半	
OKUF	2176	スギ	S	板目	板材	井戸16	H02W54	16世紀前半	
OKUF	2177	スギ	S	板目	板材	井戸16	H02W53		
OKUF	2178	スギ	S	板目	加工材	井戸16	H02W55		
OKUF	2179	スギ	S	板目	曲物板	井戸16	H02W51		
OKUF	2180	スギ	S	板目	板材	井戸16	H02W52		
OKUF	2181	スギ	S	板目	板材	井戸16	H02W56		
OKUF	2382	クリ	S	横木取り	漆塗り籠	井戸18	-	15世紀末～16世紀前半	保存処理中
OKUF	2183	スギ	S	板目	板材	土坑20	-	17世紀末～18世紀前半	
OKUF	2184	スギ	S	板目	板材	井戸5	-	11世紀後半～12世紀前半	
OKUF	2185	ヒノキ	S	板目	加工材	井戸5	H03W7		
OKUF	2186	ヒノキ	S	板目	曲げ物	井戸5	H03W3		
OKUF	2187	ヒノキ	S	板目	曲げ物蓋	井戸5	H03W4		
OKUF	2188	ヒノキ	S	板目	曲げ物	井戸5	H03W5		
OKUF	2189	ヒノキ	S	板目	曲げ物板	井戸7	H03W25	12世紀前半	
OKUF	2190	ヒノキ	S	板目	曲げ物板	井戸7	H03W34		
OKUF	2191	スギ	S	板目	板材	井戸7	H03W41		
OKUF	2192	スギ	S	板目	曲げ物板	井戸7	H03W42		
OKUF	2193	ヒノキ	S	割材	箸	井戸7	H03W36		
OKUF	2194	スギ	S	割材	くさび	井戸7	H03W38		
OKUF	2195	スギ	S	板目	板材	井戸7	H03W40		
OKUF	2196	ヒノキ	S	割材	箸	井戸7	H03W37		
OKUF	2197	ヒノキ	S	板目	曲げ物板	井戸7	-		
OKUF	2198	スギ	S	割材	細い角材状	溝18	H01W47	13世紀末～14世紀初	
OKUF	2199	ヒノキ	S	板目	角材	溝18	H01W48		
OKUF	2200	ケヤキ	S	丸木	丸木	溝18	-		
OKUF	2201	スギ	S	板目	板材	溝18	H01W49		
OKUF	2202	スギ	S	板目	枕木 (門) 西	井戸5	H03W12	11世紀後半～12世紀前半	
OKUF	2203	スギ	S	板目	枕木 (凸) 北	井戸5	H03W14		
OKUF	2204	スギ	S	板目	枕木 (凸) 南	井戸5	H03W13		
OKUF	2205	スギ	S	板目	枕木 (凹) 東	井戸5	H03W15		
OKUF	2206	スギ	S	割材	S支本2	井戸7	表5-85	12世紀前半	
OKUF	2207	スギ	S	割材	S支本1	井戸7	表5-84		
OKUF	2208	ヒノキ	S	板目	枕木	井戸7	-		
OKUF	2209	スギ	S	割材	支本	井戸7	-		
OKUF	2210	ヒノキ	S	板目	N枕2	井戸7	表5-81		
OKUF	2211	ヒノキ	S	造い板目	N枕本1	井戸7	-		
OKUF	2212	スギ	S	板目	N支本1	井戸7	-		
OKUF	2213	スギ	S	割材	N支本3	井戸7	表5-83		
OKUF	2214	スギ	S	割材	S支本3	井戸7	-		
OKUF	2215	スギ	S	板目	E支本	井戸7	-		
OKUF	2216	ヒノキ	S	造い板目	S枕1	井戸7	表5-82		
OKUF	2217	スギ	S	板目	E支本2	井戸7	-		
OKUF	2218	コウヤクシ	S	板目	並枕1	井戸7	-		
OKUF	2219	スギ	S	板目	S枕3	井戸6	H02W32	12世紀初頭～前半	
OKUF	2220	ヒノキ	S	板目	S枕2	井戸6	H02W33		
OKUF	2221	スギ	S	板目	N枕3	井戸6	H02W28		
OKUF	2222	スギ	S	板目	甲枕2	井戸6	H02W30		
OKUF	2223	スギ	S	板目	W枕1	井戸6	H02W29		
OKUF	2224	スギ	S	板目	W枕3	井戸6	H02W31		
OKUF	2225	スギ	S	板目	N枕	井戸6	H02W27		
OKUF	2226	ケヤキ	S	丸木	杭	溝18	-	13世紀末～14世紀初	

## 第2章 調査資料の整理および公開・活用

### 第1節 調査資料の整理・保存処理

#### 1. 調査資料の整理

2022年度は、津島岡大遺跡第37・39・40次調査、鹿田遺跡第12・19・22・28・29次調査の整理作業を実施した。具体的には、津島岡大遺跡第37次調査では遺物の復元・実測、津島岡大遺跡第39次調査では遺物の注記・復元・実測、津島岡大遺跡第40次調査では遺物の洗浄・注記を実施した。鹿田遺跡第12次調査では遺物のトレース、鹿田遺跡第19次調査では遺物の仕分け、計量、鹿田遺跡第22次調査では遺物の実測・トレース・版組、種子選別、鹿田遺跡第28次調査では遺物の注記、鹿田遺跡第29次調査では遺物の洗浄・注記を行った。そして、津島岡大遺跡第39次調査については、『津島岡大遺跡22』（岡山大学構内遺跡発掘調査報告第39冊）として刊行した。

自然科学的分析は表9の通りである。

表9 2022年度分析一覧

調査次	分析資料	分析の種類	分析機関・分析者	主な結果
津島岡大遺跡第30次	本製品	樹種同定	鹿城修一	『津島岡大遺跡22』巻所
津島岡大遺跡第39次	土塊	フランドオーバー分析	宇多淳義朗	『津島岡大遺跡22』巻所
鹿田遺跡第12次	本製品	樹種同定	鹿城修一	本書巻1巻第3節巻所
鹿田遺跡第39次	本製品	樹種同定	鹿城修一	本書巻1巻第3節巻所
鹿田遺跡第22次	本製品	樹種同定	鹿城修一	分析中
鹿田遺跡第22次	種子	同定	神尾子	分析中
鹿田遺跡第22次	動物遺存体	同定	宮岡直久	分析中
鹿田遺跡第22次	貝	同定	福田空	分析中

#### 2. 調査資料の保存処理

##### a. 出土遺物の委託保存処理

鹿田遺跡第28次調査出土曲物の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託し、2022年12月に納品された。

(木村 理)

### 第2節 調査成果の公開・活用

#### 1. 公開・展示

##### a. 第21回岡山大学キャンパス発掘成果展「藤原摂関家殿下渡領 鹿田庄」

###### (1) 開催に至るまでの経過

本展示会は本来2021年度の開催を予定して準備を進めていたもので、展示自体は完成させていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行が収まらなかったため、2022年2月に年度内の開催を見送り、次年度前半での開催を計画することとした。

2022年3月、岡山大学が策定している全学の活動制限指針において制限レベルが引き下げられた。これをうけて、4月には、関連イベントは実施しないこと、広報は県内に限ることなど、自主的な制限を設けたうえで、5月26日から発掘成果展を開催する方針を決定し、4月28日に開催のチラシを発送した。その後、3年ぶりに行動

制限のない大型連休を挟むこととなったが、連休後も感染者の急増はみられなかったため、予定通り本展示会を開催することとした。

## (2) 概要

会期は2022年5月26日(木)～31日(火)までの6日間で、岡山大学大学院文化科学系総合研究棟一階の考古資料展示室を会場に開催した。しかし、広報を県内に限ったことにくわえ、この時期は未だ不要な外出を控える雰囲気が社会全体に広がっていたこともあり、6日間の観覧者は75名であった(図16)。

新型コロナウイルス感染症への対応について、大学全体では、入構者および当日の体調を把握するための問診票の記入が求められた。本展示では、感染拡大防止のため、入室時には手指消毒、マスクの着用、検温を求めることとした。さらに、混雑時には入室制限を行うこともチラシに明示した。

また、これまでのキャンパス発掘成果展では、展示解説を随時行っていたが、飛沫感染防止のため、今回は実施しなかった。また、会場での滞在時間を短縮するため、アンケートも取りやめた。

## (3) 展示内容

本展示の内容は、発掘調査の成果をもとに古代・中世の鹿田庄のようすをパネルと出土遺物によって紹介するもので、導入、古代の鹿田、中世の鹿田庄のまとまりで構成した(図17)。

導入では、全体的な概要として、文献や絵図による記録を紹介し、また、鹿田庄のおよその広がり現在の地図で対照できるように、航空写真を用いて示した。また、発掘成果の写真や図を記入した鹿田キャンパス配置図を



図16 展示見学風景

を作成し、どの地点でどのような成果がみられたのかを視覚的に紹介した。

古代の鹿田については、大形の井戸と掘立柱建物群、橋といった、一般的な集落にはない遺構をパネルで紹介した。出土遺物として、丹塗土師器、緑釉陶器などの搬入品、墨書土器や硯などの文字関連資料と識字層の存在を推測させる石帯を展示した。こうした遺構・遺物から、古代の鹿田には荘園を営むうえで必要な管理をつかさどる施設が置かれていたと推測できることを示した。

中世の鹿田庄は本展示の中核をなすもので、鹿田庄のもつ多面性を伝えることを意図した内容とした。まず、鹿田遺跡で確認された中世の屋敷地や大規模な区画溝などの遺構をパネルで紹介し、その後、「運び込まれた品々」「使われた道具」「井戸のまつり」「墓」のカテゴリーに分けて展示した。「運び込まれた品々」では、遠隔地から搬入された土器・陶磁器を展示することにより、瀬戸内海と旭川の結節点に位置する鹿田庄が水上交通や物流の要地であることを示した。「使われた道具」「井戸のまつり」「墓」では、日常雑器、載いや葬送の道具といった、日々の暮らしのさまざまな場面で使用された遺物を展示し、鹿田庄が人びとの日常生活の場でもあることを示した。

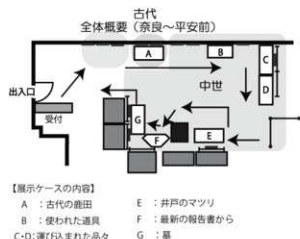


図17 展示会場見取図

そのほか、最新の報告書から逸品を一点紹介する展示ケースを置き、鹿田遺跡（第20次調査地点）出土猿形水滴（近世）を展示した。

#### b. 岡山大学文明動態学研究所第1回特別展「津島から世界へ、世界から津島へ」

第1回特別展「津島から世界へ、世界から津島へ」（以下、本特別展）を開催した。文化遺産マネジメント部門も企画・準備・運営に大きく関与しており、本項でその概要を報告する。

会場：岡山シティミュージアム 4階企画展示室
会期：2023年2月10日（金）～3月19日（日）、休館日：月曜日、開催日数：33日
主催：岡山大学文明動態学研究所・岡山シティミュージアム
協力：倉敷考古館・BIZEN中南米美術館
特別協力：本谷裕子
後援：駐日グアテマラ共和国大使館・山陽新聞社
資料提供：岡山県古代吉備文化財センター・岡山市教育委員会・岡山大学考古学研究室・岡山大学附属図書館・岡山理科大学・行田市郷土博物館・備前市教育委員会・市川清・松原彦彦
入館者数：2,914名（展示見学2,720名、関連イベント194名）
入館料：無料

#### (1) 経緯と経過

本部門は2022年度に本特別展の開催を企画した。その主たる理由は、津島岡大遺跡における発掘調査の開始から2022年に40年を迎えること、埋蔵文化財調査研究センター（以下、埋文センター）が文明動態学研究所に改組され、新体制がスタートすることにあった。

本特別展の開催にむけて始動したのは2021年5月である。まず、会場候補として、これまでも特別展を開催してきた岡山シティミュージアムに展示室の予約状況の確認と大まかな内容の打診を行った。12月までには会場、会期が決定し、2022年2月からは埋文センター・研究所メンバーによる合同ワーキンググループを立ちあげた。4月からは埋文センターが研究所に改組され、開催にむけた本格的な検討・準備に入った。ただし、コロナ禍のもとでの活動であり、ワーキンググループメンバーが同じキャンパス内に居たとしても、オンラインによる会合を余儀なくされた。そうしたなかであって、本部門所属のメンバーは少人数であったため、感染しないように注意を払いながら、可能な範囲で対面でのミーティング、原稿読み合わせ等を実施し、スムーズな意思疎通をはかった。

借用資料の調査、パネル作成用の写真撮影については、7月から約3か月の期間で各機関を随時訪問し、借用調査作成等の作業を実施した。こうした作業を経て、借用資料も含めた展示資料の構成が固まり、展示ケースの配置や大型造物の作成もあわせ、具体的な展示レイアウトを確定させた。

ポスター・チラシについては、原案を一般公募することとし、7月7日に研究所HPに案内を掲載して募集を開始し、8月31日を締め切りとした。期間中に応募のあった作品のなかから、厳正な審査を行ったうえで1点を採用し、10月13日に研究所HPにて結果発表を行った。本デザイン案はポスターのほか、チラシ、HP、看板などのさまざまな広報媒体、パンフレットの表紙で利用した。

2023年1月下旬からは借用資料の集荷を行った。展示会場設営は2月1日から開始し、2月9日に完了した。開会日である2月10日には開会式典を行った。会期中、関連企画として、別項で報告する公開講座3回、記念講演1回を開催した。会期終了後、3月22日から撤収作業を開始し、24日に終了、借用資料の返却は28日から開始

し、31日に完了した。

## (2) 企画とねらい

本特別展は、文明動態学研究所の開催する第1回特別展であり、本研究所がめざす「異なる分野・地域・時代を結ぶ研究を推進し、人文・社会科学の新しい未来を開拓する」という研究スタイルを表現する企画とすることとした。具体的な展示資料としては、現在、研究所の取り組んでいる調査研究から津島岡大遺跡とマヤ文明を取りあげることとし、資料の内容を考慮して以下の二部構成とした。

第1部は、本研究所が拠点とする岡山大学津島キャンパスを中心とした「津島」（岡山市北区津島一帯）の歴史をとりあげる内容とした。これは、本研究所文化遺産マネジメント部門とその前身である埋蔵文化財調査室・埋文センターが実施してきた津島岡大遺跡の40年にわたる発掘調査と研究の蓄積にもとづくものである。

第2部は、本研究所が重要な研究課題の一つとして掲げている「国境を越えた人類史学としての考古学」として、中央アメリカに栄えたマヤ文明を取りあげた。津島キャンパスで行われている「世界」を舞台とした多様な研究のなかでも、特に古代マヤ文明が主要な研究フィールドとなっているからである。

これらは取り扱う地域、時代、資料、内容が異なっているが、通底では共鳴する点もある。こうした展示構成のねらいには、人類に普遍の現象を探求することも新学問「文明動態学」の大きな役割の一つであるという考えが反映されている。

## (3) 展示内容

会場は岡山シティミュージアム4階企画展示室である。関連企画である写真展は、会場に隣接するロビーで実施した。企画展示室（約680㎡）は9区画に分割してテーマ別のコーナーを配し、入口から5区画を第1部、続く3区画を第2部、最後の1区画をVR体験として割り振った（図18）。

第1部は「研究の拠点、津島を知る」と題した。「津島」という小さな地域の、縄文時代から近代にいたる約5000年の歴史を描き出す。

展示品と解説パネルで構成される「津島の地名となりたち」「狩猟・採集・漁労から農耕へー縄文・弥生時代-」「生産力の増大と酋長墓の出現-弥生時代・古墳時代-」「条里と農村の景観-古代～近世-」「陸軍第十七師団の創設-近代-」の5つのコーナーに加え、津島岡大遺跡の発掘調査史をパネルで紹介する「津島岡大遺跡発掘40年」のコーナーを設けた。展示品は文化遺産マネジメント部門の所有する津島岡大遺跡の遺物・写真と文明動態学研究所に寄贈された陸軍軍人の遺品を主体に、県内の大学・機関等から借用して構成した（図19

上）。

第2部は「現代に生きるマヤ文明」と題し、本研究所の主要な研究フィールドとなっているマヤ文明を取りあげた。マヤ文明の起源、広い領域での文化の交錯、文明の発達とスペインによる征服を経て、現在を生きるマヤの人びとまでを紹介した。展示品は、BIZEN中南米美術館所蔵品および本谷裕子氏所蔵品を借用して構成した（図19中）。

そのほか、VR (Virtual



図18 展示会場見取図

Reality：仮想現実）、AR（Augmented Reality：拡張現実）を体験できる装置を展示室およびロビーに設置し、不定期で稼働した。VRは専用ゴーグルを装着し、遺跡を再現したフィールドを見渡したり、土器を手にとったりという体験ができる。ARはタブレット上で土器の写真を回転させ、自由に観察できるものとした。関連企画の写真展は「カラー写真でみる1952年の岡山の街・人びと」・ホールのいたミシガン大学日本研究所岡山分室の遺産」と題するもので、当時撮影されたカラースライドを8枚のパネルに引き伸ばし、展示したものである（図19下）。

なお、本展示を構成するにあたり、本谷裕子氏（マヤ女性の機織り等）、鈴木茂之氏（津島の地形のなりたち）、松岡弘之氏（陸軍第十七師団）、森下矢須之氏（マヤ文明）、長志珠絵氏、福島幸宏氏、衣川太一氏（写真展）に多大なる協力をいただいたことを明記しておく。

#### (4) 情報発信、公開

開会を報じる新聞・テレビの報道、展示の内容をアピールするラジオ出演など、報道機関によるもの（表10）のほか、本特別展での新たな試みとして、エックス（旧ツイッター）、研究所のYouTubeチャンネルでの解説動画公開といった情報発信を行った。

エックス（旧ツイッター）の発信内容として、開会・閉会のお知らせ、公開講座・記念講演の案内、VR・ARの稼働日のお知らせ、500人ごとの節目の入場者のお知らせなどのほか、ほぼ一日一回のペースで「今日のセレクト」として展示品紹介を行った。期間中のポストは計45回で、表示回数は42,081回（3月20日15時時点）である。動画公開は、解説動画をタブレットで自撮りし、研究所のYouTubeチャンネルで公開したが、クオリティの問題があった。その後、本学教育学部国吉康雄研究講座の才土真司准教授の撮影・製作による記録動画を別に撮影した。現在、公開にむけた編集作業が進められている。

#### (5) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の広がりにより、2020年春から断続的に社会経済活動に制限が設けられてきた。しかし、本特別展の開催期間である2023年2・3月になると、一定の警戒は続けながらも社会経済活動を徐々に再開する方向に社会的雰囲気醸成されてきていた。そこで、本特別展では以下の対策をとることとした。



図19 展示風景

上：第1部  
中：第2部  
下：写真展



表10 報道機関による情報発信

媒体	年月日	会社名
ラジオ	2022年12月23日	岡山シティエフエム
ラジオ	2023年1月25日	岡山シティエフエム
ラジオ	1月27日	岡山シティエフエム
ラジオ	2月8日	岡山シティエフエム
新聞	2月11日	山陽新聞
テレビ	2月14日	岡山放送
ラジオ	2月16日	山陽放送
ラジオ	2月21日	山陽放送
ラジオ	3月9日	山陽放送

解説は人と人との密な接触があること、「マスク着用は個人の判断が基本」という政府の基本的対処方針に基づく対応が示されたのが3月13日で、残り会期6日をのこすのみというタイミングであったことから、常時の展示解説は取りやめ、感染リスクの回避を優先させることとした。

#### (6) アンケート結果 (表11・12)

本特別展の観覧者の属性、展示の内容・難易度等についての観覧者の評価を調査する目的でアンケートを実施し、609通の回答があった。関連催事を除く入場者数は2675名で、回収率は22.8%である。

観覧者の属性を問う項目は、性別、年齢、学内/学外、学外者については市内/市外とした。なお、各質問に回答するか否かは回答者の自由としている。以下、順に集計結果を挙げる。

性別については男性297名、女性222名、無回答90名であった。年齢については、10才割みの幅で選択肢を提示した。ただし、本特別展は大学の主催するものであり、大学生の動向を把握するという目的で、10代・20代のみ、大学生の中心的な年齢層となる19～22才の選択肢を設けた。年齢ごとの入場者数は、50代、60代、70才以上でそれぞれ100名を超えた。一方、10代から40代は約30～60名である。特に大学生に該当する年齢層では33名と少なかった。

学内・学外の別は、回答251名で学内41名、学外210名であった。市内・市外の別では回答369名で、市内210名、市外は159名であった。市外のなかには北海道や関東、九州といった遠方からの来場者も散見された。

展示の内容、難易度を問う項目は、印象にのこったもの(複数回答可)、5段階評価の難易度である。印象にのこったものについて、第1部では「縄文～弥生時代」222名、第2部では「マヤ文字」119名が最多であった。

表11 アンケート結果(1)

年齢層	人数
～9才	1
10～18才	63
19～22才	33
23～29才	40
30～39才	34
40～49才	62
50～59才	106
60～69才	112
70才～	111

難易度	人数
5 (わかりやすい)	220
4	266
3 (普通)	83
2	8
1 (わかりにくい)	3

これ以外で注目されるのは、第1部では「津島の地名となりたち」について166名、第2部では「現代を生きるマヤ」について94名が印象にのこったと回答したことである。「津島の地名となりたち」は第1部のプロローグとしての位置づけであったが、展示全体への興味関心を引き起こす導入として有効な内容であったことがうかがえる。第2部の「現代を生きるマヤ」は、マヤ先住民の女性たちが作る織物や伝統衣装といった創造品がさまざまな文化的・経済的搾取にさらされている事象と、こうした創造品の知的財産権を守る主張や活動について紹介するものであるが、観覧者は展示の主体となっている歴史や文化という内容だけでなく、こうした現在進行形の課題にも関心を寄せていたことをうかがわせる。

難易度については、「わかりやすい」から「普通」を挟んで「わかりにくい」までを5段階評価としたところ、「わかりやすい」から「普通」までが569名で93%を占めた。

そのほか、本特別展の開催について、観覧者が情報を得た認知媒体を質問し

まず、会場である岡山シティミュージアムが基本的な対策としていた、会場前に非接触型体温計を置く、手指消毒液を置く、発熱症状のある方の入室を防ぐ、受付カウンターにパーテーションを置く、の4点を遵守した。

また、当方の対策として、常時の展示解説を行わなかったことがあげられる。過去に開催した特別展では、常時展示解説を行い、観覧者の理解を促進する方策として有効であることを認識していた。今回、さまざまな社会活動を次第に再開する流れとなつてはいたものの、展

た。これも複数回答を可とした。その結果、ポスターが最も多く、チラシ、新聞と続いた。HPや知人、研究所からのリピーターへの案内が40～60名前後の回答があったが、メール、SNSでの案内を回答した方は少数であった。そのほか、ラジオでの取材・発信についても来場の契機としては少数の回答にとどまった。

自由記述では、「おもしろかった」「興味深く拝見した」という好意的な意見が多数みられた。また、「定期的に開催してほしい」「常設の博物館を廣大につくってほしい」といった、公開の機会の増加を求める意見も多くみられた。第1部と第2部の関係については、「よくわからなかった」「共通点が見いだせなかった」という意見があった一方で、「一見つながらない二つの地域だが、比較することで共通点に気づくことができた」という意見もあった。展示方法については、「すっきりしていて、いい構成」「パネルの文字が大きく、解説文の内容も整理されて分量も程よく読みやすい」という意見の一方で、展示効果をねらって全体の照明を暗転させた第2部については「パネルが見にくい」という意見があった。

#### (7) まとめ

本特別展がこれまでの特別展と大きく異なった点として、改組によって体制や人員構成が変わったことによる運営のあり方、スマートフォンやタブレットの普及により、写真撮影やSNS等を利用した個人の情報発信が普通のこととなった社会状況下での開催となったこと、コロナ禍での開催となったことが挙げられる。

まず、運営では、スケジュールや企画・内容の検討、印刷物の作成等において、これまでは埋文センター内での調整で済ませていたことも、ワーキンググループでのミーティングでコンセンサスを得ながら進めた。以前に比べ、ミーティングのスケジュール管理や議事録の作成など、求められる労力と時間が増えた面もあったが、議論がオープンで民主的になったことは良かった点である。こうした時間と労力を確保するため、本部門がこれまでに積み上げてきたノウハウを見直し、無駄や非合理的ものを削ぎ、必要な作業をより効率的で洗練したかたちで進めるよう努めた。そのほか、各作業が遅延しないよう、スケジュール管理を徹底した。

新たな試みであったSNSでの発信について、不特定多数の閲覧者に向けて研究所の存在を周知すること、研究所の活動内容を発信することなど、展示会への来場を誘導することは異なる面での効果が見込まれた。一方で、写真や所蔵品の権利関係のことも認識したうえでの活用が必要で、発信内容については細心の注意を払った。また、SNSでの利用も見越した閲覧者の写真撮影への対応について、ほとんどの資料・展示品は、各所蔵機関から確認をとり、ストロボ禁止・商業利用禁止のうえ、写真撮影を可とした。そのうえで撮影した写真のSNSなどでの利用は個人の良識の範囲内でお願いするパネルを掲示した。コロナ禍での対応については先述のとおりである。

以上、本特別展では当初の目的を達成し、おおむね好評を得ることができた。一方で、準備を進めていく過程や、終了後のアンケートの整理作業において改善すべき点もみられた。こうした点は、次回以降の特別展に反映させ、より良い展示会をめざしていきたい。

(野崎)

表12 アンケート結果(2)

認知媒体 (複数回答可)	回答数
ポスター	122
チラシ	94
新聞	61
ラジオ	5
HP	52
知人	64
お知らせの封書	40
メール	6
X (旧ツイッター)	17
フェイスブック	6
その他 (団体含)	166

印象にのこったもの (複数回答可)	回答数
第1部 (全体)	22
津島の地名となりたち	166
縄文～弥生時代	222
弥生時代～古墳時代	141
古代～近世	57
近代	95
第2部 (全体)	11
古典期のマヤ	54
マヤ文字	119
メソアメリカとマヤ	62
テオティワカン	73
現代を生きるマヤ	94
その他	7

### c. 岡山大学文明動態学研究所第1回特別展公開講座

2022年度の公開講座は、岡山大学文明動態学研究所第1回特別展の開催とあわせ、その関連講座として実施した。開催形式は特別展とあわせて対面としつつも、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加者数は会場 の定員を下回る60人を上限とした。各回の内容は特別展のコンセプトに沿う形で設定し、講座終了後に講座内容 に関連した遺物展示を観覧して理解をより深めてもらえるよう配慮した。また、参加費は特別展と同様、無料と した。

参加者に実施したアンケートでは、50代以上の方が多くを占めつつ、学生を含む20代の方が一定数含まれるな ど、幅広い層の参加を得ることができた。また、各回ともにこれまで岡山大学公開講座の受講をしたことにな かった方の参加が顕著であった。リピーターの方に加えて、より幅広い内容を含む展示構成によって参加者層の 裾野を広げることができたといえる。

実施内容は以下の通りである。

#### 第1回「津島とマヤ—グローバルな研究最前線—」

2023年2月12日（日）14：00～16：00 岡山シティミュージアム 4階講義室

参加者59名

鈴木真太郎（岡山大学文明動態学研究所教授）「マヤ文明黎明期における住まい、食、儀礼：津島岡大遺跡と の対比を通してみえるヒトの普遍性と地域的特性」

山口雄治（本部門助教）「津島岡大遺跡の縄文・弥生時代—古代マヤとの比較を見据えて—」

#### 第2回「津島にのこる戦争の歴史」

2023年2月26日（日）14：00～16：00 岡山シティミュージアム 4階講義室

参加者58名

松岡弘之（岡山大学社会文化科学学域准教授）「日露戦争と岡山」

野崎貴博（本部門助教）「農村から陸軍駐屯地へ—明治時代の津島—」

#### 第3回「文化財の保存と未来への活用」

2023年3月11日（土）14：00～16：00 岡山シティミュージアム 4階講義室

参加者28名

今津勝紀（岡山大学文明動態学研究所教授）「地域歴史資料保全の取り組み—災害と人々の暮らし—」

岩崎志保（本部門准教授）「ICT技術による展示・公開の試み」

## 2. 資料・施設等の利活用

### a. 調査・研究への支援

#### (1) 資料調査

- ・津島岡大遺跡第32・33次調査出土縄文土器：松井翔吾（岡山大学考古学研究室）2022年7月29日
- ・鹿田遺跡出土弥生土器：式田洸（京都大学大学院）2022年9月26日～30日
- ・鹿田遺跡出土資料：吉川真司（京都大学大学院）ほか5名 2022年9月29日
- ・鹿田遺跡第13次調査出土土鉢：川本理央（広島大学）2022年11月2日～3日

#### (2) 圖書の貸し出し

- ・5冊（岡山大学教員・学生）

#### (3) 資料提供

- ・津島岡大遺跡第28次調査出土縄文土器：野坂俊夫（岡山大学理学部）2022年5月2日

- ・福呂遺跡出土縄文土器：野坂俊夫（岡山大学理学部）2022年5月2日
- ・鹿田遺跡第9次調査出土備前焼：エフドキア・テマ（トリノ大学）2022年11月14日
- ・津島岡大遺跡第23次調査他出土木製品：藤尾慎一郎ほか（国立歴史民俗博物館）2023年2月15日～16日

#### (4) 資料の貸出

- ・津島岡大遺跡第9次調査出土縄文土器：岡山県立博物館 2023年2月～2024年3月

#### (5) 写真掲載・画像利用等

- ・「津島岡大遺跡14」縄文土器写真：幡中光輔（鳥根県出雲市）2023年1月18日
- ・「津島岡大遺跡4」縄文土器写真：木村理（考古学研究会第69回総会・研究会実行委員会）2023年1月23日
- ・「岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報」No.54掲載図：梓書院 2023年3月15日

#### (6) マスコットキャラクター利活用

- ・しかたん画像 岡山大学工学部創造工学センター 8月10日
- ・しかたん着ぐるみ 岡山大学医療安全管理部 2022年11月18日～25日
- ・しかたんイベント参加 古墳フェスはにコット 2022年11月27日

### b. 教育支援

#### (1) 博物館実習

2022年度の人文系博物館実習 a では「考古資料の取り扱い」を担当し、8月9・19・22日に26名の実習生が受講した。本実習では発掘調査で出土した資料の整理作業を通じて基礎的知識を習得することを目的とした。コロナ禍ということもあり、感染対策を十分に講じたうえで行った。実習は、土器の注記・接合作業および鉄器の保存処理作業を中心に行った。また、各回の最後には、実習内容の総括と反省について個別に発表する時間を設けた。このディスカッションを通じて、個々の実習の習熟度とコミュニケーション能力の向上が見込まれた。さらに、非常勤職員とともに作業にあたるという職場環境を提供し、実践型社会連携教育の効果も図った。

#### (2) 学内ワークショップ

2022年度は1名の学生（法学部）を雇用し、構内遺跡出土の遺物整理作業、および発掘調査報告書作成作業を行った。

### c. 社会貢献

#### (1) 中学生職場体験

- ・岡山市岡北中学校 2021年11月9日～11日 3名

#### (2) 職員の兼務

岩崎志保

- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

野崎貴博

- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

山口雄治

- ・ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科 非常勤講師
- ・金沢大学古代文明・文化資源学研究所 客員研究員

#### (3) 展示見学の受け入れ

- ・常設展示室見学：10名（一般10名）

（木村）

## 第3章 2022年度における調査・研究のまとめ

### 調査

2022年度は、津島キャンパスにおいて工学部総合実験研究棟新営に伴う試掘・確認調査を実施した。本調査では、遺物や遺構は確認されなかったものの、津島キャンパス北東部の地形に関する情報を得ることができた。とりわけ、津島キャンパス北東部は北西方向に下がる地形を呈し、本調査地点と半田山の残丘の間には中世の時点で湿地が広がる点、それが縄文時代以前における地形を踏襲したものである点が判明した。また、本調査地点の南側に位置する第31次調査地点で検出されていた、条里区画に対応する南北溝が本調査地点までは延伸しないことが明らかになった点も特筆される。これにより、第6・7・9・22次調査地点で検出された東西溝を境に、北側には条里溝が設けられないなど、その南北で地割りのあり方が異なる可能性が高まった。このように、本調査では津島キャンパス北東部における地形復元や条里地割りを検討していくための新たなデータを得ることができたといえる。

立会調査は、津島キャンパスにおいて30件が実施された。いずれも小規模なものであったが、津島岡大道跡第40次調査地点の近隣において「黒色土」を検出するなど、当層の広がり的一端を明らかにすることができた。

### 研究

発掘調査の資料整理では、津島岡大道跡第39次調査の成果をまとめ、「津島岡大道跡22」として報告書を刊行した。本調査地点は津島キャンパス南地区に位置するA地点、同北地区に位置するC～D地点の4つの地点からなるものであった。それぞれの調査区は狭小ではあったが、縄文中期末や後期中葉に位置づけられる遺物包含層、弥生時代前期に位置づけられる水田畦畔が検出されるなど、縄文・弥生時代を中心に大きな成果をあげることができた。

そのほか、木製品の樹種同定を継続的に実施し、そのうち鹿田遺跡第12次・20次調査で出土した木製品の樹種同定成果については本紀要第1章第3節において報告した。

### 情報発信

2022年度は新型コロナウイルスの感染拡大に最大限の対策を図りながら、対面での調査研究成果の普及啓発活動を再開することができた。延期を余儀なくされていた第21回キャンパス発掘成果展は、5月26日～31日の間に実施し、75人の参加者を得た。

また、本年度は岡山シテイミュージアムにて第1回目となる岡山大学文明動態学研究所の特別展を開催した。展示では、本研究所の実施する多角的な研究テーマとして津島とマヤを取り上げ、津島の研究では津島岡大道跡の発掘40年にあわせて当遺跡を中心とした調査研究成果を展示した。疫病の影響も見込まれたものの、2月10日～3月19日までの会期中に2,914人の来館者があった。さらに、会期中には3度の公開講座を対面開催し、各回ともに多くの参加者があった。

そのほか、古墳フェスはにこっとにブース出展し、岡山大学構内遺跡についての普及啓発を行った。このように、2022年度は対面による各種事業が再開し、より多くの情報発信を行うことができた。オンライン、対面それぞれのメリットを活かしながら様々な方へ成果を届けられるよう、今後も積極的な情報発信に努めたい。

### まとめ

以上、2022年度も試掘・確認調査や報告書作成によって成果が得られ、情報発信活動も十分に行うことができた。中でも、岡山大学文明動態学研究所第1回特別展では、本部門の調査研究成果の蓄積を多くの方々へ知っていただき、反響も少なくなかった。構内遺跡の調査研究とともに情報発信についても新たな方法を模索しながら事業を推進していきたい。

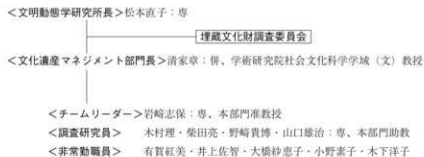
(木村)

## 資料

## 1. 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門規程・組織等

## a. 2022年度岡山大学埋蔵文化財調査研究組織

## (1) 文化遺産マネジメント部門組織



## (2) 埋蔵文化財調査委員会

## 【委員】

松本直子	文明動態学研究所長	大橋俊孝	学術研究院区歯薬学学域（医）教授
清家 章	学術研究院社会文化科学学域（文）教授 （部門長）	岩崎志保	本部門准教授（チームリーダー）
今津勝紀	文明動態学研究所教授	渡邊恭令	施設企画部長
加藤隼司	学術研究院環境生命科学学域（農）教授	野坂俊夫	学術研究院自然科学学域（理）准教授

## 【2022年度協議・報告事項】

第1回 2023年3月28日

## 報告事項

- ・令和4年度文化遺産マネジメント部門業務報告について
- ・令和5年度文化遺産マネジメント部門業務計画について

## b. 2022年度岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門の規程

## (1) 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門内規

## 【趣旨】

第1条 この内規は、岡山大学文明動態学研究所規程（令和3年岡大文明規程第1号。以下「規程」という。）第9条第5項の規定に基づき、文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門（以下「文化遺産マネジメント部門」という。）に関し必要な事項を定める。

## 【目的】

第2条 文化遺産マネジメント部門は、岡山大学（以下「本学」という。）敷地内の埋蔵文化財を含む文化遺産に関して、調査、研究、保護、活用を図ることを目的とする。本

学敷地内の埋蔵文化財については、次の各号に掲げる業務（全学的業務）を行う。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に関すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に関すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護・研究・活用に関する重要な事項

第3条 文化遺産マネジメント部門に、上記の目的を達成するため以下のチームを置く。

- 一 文化財調査チーム

- 二 マネジメントチーム
- 2 2つのチームを統括するチームリーダーを置くことができる。チームリーダーは、規程第5条に掲げる者のうちから、所長が指名する。
- 3 チームリーダーの任期は2年とし、再任することができる。ただし、指名する所長の任期の終期を超えることはできない。

(雑則)

第4条 この内規に定めるもののほか、文化遺産マネジメント部門に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

(2) 国立大学法人岡山大学埋蔵文化財調査委員会の設置に関する要項

令和4年3月22日

学長裁定

(設置)

第1条 国立大学法人岡山大学（以下「本学」という。）に、本学キャンパス内における埋蔵文化財の保護及び調査の円滑な推進を図るため、国立大学法人岡山大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(審議事項)

- 第2条 委員会は、次の事項を審議する。
- 一 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
  - 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に関すること。
  - 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に関すること。
  - 四 その他埋蔵文化財の保護に関する重要な事項

(組織)

- 第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
- 一 文明動態学研究所長
  - 二 文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門長
  - 三 本学の教授のうちから第1号委員の命じた者若干名
  - 四 文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門チームリーダー
  - 五 施設企画部長
  - 六 その他委員が必要と認める者

2 前項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号委員をもつて充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときには、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、施設企画部施設企画課において処理する。

(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか、委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、令和4年4月1日から施行する。

c. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

平成12年5月15日

埋蔵文化財調査研究センター長

施設部長

1. 請負業者が留意すべき事項

1. 請負業者は現場代理人を発掘作業の現場に常駐させ、作業員の安全と健康の管理につとめること。
2. 発掘作業の現場に「地山掘削」と「土止め支保工」の技能講習修了者をおき、作業員の安全や健康にも注

意すること。

3. 工事中電力の保安責任者をおくこと。
4. 非常停止装置を備えたベルトコンベアーを用いること。
5. 重機の運転は、免許所有者がおこなうよう厳守させること。

## II. 発掘現場で注意すべき事項

1. 服装・装備・用具等
  - 1) 安全で機能的な服装にする。
  - 2) 平坦面から2m以上の穴等を掘削する場合は、ヘルメットを着用する。
  - 3) ベルトコンベアーの移動時および周辺での作業の際には、ヘルメットを着用する。
  - 4) グラインダーを使用する際は、手袋・防護眼鏡を着用する。
  - 5) スコップ・草刈りなどの用具は、危険がないように使用方法や置き方や保管方法に十分注意する。
2. 掘削
  - 1) のり面の角度
 

造成土：通常の土壌の場合は50～60度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。砂地の造成土の場合は35度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。

堆積土：基本75度とし、状況や土質に応じて安全な角度をとる。

発掘区の壁際を深さ1.5m以上掘削する場合は、原則として途中で段を設ける。その場合の段の巾は、60cm以上とする。
  - 2) のり面の保護
 

のり面はシート等で覆うなどし、崩落防止のために必要な保護措置をとる。
  - 3) 深い遺構（深さ1.5m以上の遺構）
 

遺構掘削者以外の者が上面で安全確認を行い、十分な注意を払う。場合によっては周囲を広くカットして対応する。なお、作業現場内への昇降のために、階段を設置する。
  3. 高所（高さ2m以上の場所）での作業
    - 1) 作業中には安全帯を使用する。

- 2) 架台を組んだ場合は最上段に手すりを設け、安全を確保する。
- 3) 2段以上の架台は、分解して移動させる。
4. 発掘用機械類の操作
 

（ベルトコンベアー・ポンプ等）

  - 1) 調査用電源の設置と取扱いについては、工所用電力の保安責任者が安全確認を行う。
  - 2) ベルトコンベアー・水中ポンプ等の知識を持つ者が整備・稼働させる。
  - 3) ベルトコンベアーを重ねたつなぎ目の部分には、なるべく土が落ちないように措置をする。
  - 4) 原則としてベルトコンベアーの直下での作業・通行を避ける。
  - 5) ベルトコンベアーの移動時は作業員の中で指揮者を決め、周辺の安全性を確保したうえで移動させる。

（重機関係）

  - 1) 重機の免許所有者以外は運転しない。
  - 2) 運転者は、周囲の安全に注意する。
  - 3) 稼働中は、重機の旋回半径内に立ち入らない。
5. 健康管理
  - 1) 作業中に体調が悪くなった場合は直ちに申し出る。

## III. その他

- 1) 作業現場内の状況の変化に絶えず注意し、異常を発見したら、直ちに作業を中止して現場代理人に報告し、施設部の監督職員の指示を受ける。
- 2) 調査区の状況や遺構などの特殊性・重要性等により、上記の2) 1)～3) どちらにも発掘作業を実施することが困難な場合は、現場代理人が監督職員と協議のうえ、安全に留意し作業を行う。



## 2. 2021年度以前の調査・研究一覧

付表1 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）

年度	地区名	種別	工事名称：調査名称	調査組織	調査面積 (㎡)	文献	備考	
1980	重田	立会	理学部附属病院棟新営	岡山市教育委員会	8			
1981	津島	*	農学部畜舎新営	*				
			文法館 合併地理施設	*				
			文法館 合併地理施設	*				
	重田	*	BD09、DC09～11	基幹整備（共同溝取付）	*			
			BD～BE04～07	陸上競技場改修（配水管施設）	*			
				（医病）高気圧治療室新営	*			
				（医病）動物実験棟新営	岡山県教育委員会			大学が古教委への確認調査依頼をせずに撤去。その後、岡山市・岡山県教委が既存原簿の調査を実施。
1982	津島	試掘	AV06-10、AW05-14、AW08、BD07、BE10	排水基幹整備	*		津島AW14区で発生時代包含層確認。協議→津島岡大遺跡第1次調査へ	
			AW14	文法館 排水集中槽（NP-1）埋設 津島岡大第1次調査	岡山大学	21.0	3	【小橋道直遺跡】と報告
				試掘 武蔵館新営	岡山県教育委員会	2.3		
	重田	*	AY15-16	法経 校舎新営	*	7.0		
				医学部基本保存庫新営	岡山県教育委員会	8.0		
				（医病）外来診療棟新営	岡山県教育委員会	4.0	2	
	立会	*	医学部動物実験施設関連排水管・ガス管理設	岡山県教育委員会		1		
			AE～AN22、AE22～26	商学部電話ケブール埋設	岡山県教育委員会 岡山大学埋蔵文化財調査室			

文献

1. 光永真一 1983「岡山大学理学部附属病院動物実験施設新営工事に伴う排水管付設工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 岡山県教育委員会
2. 河本 清 1983「岡山大学理学部附属病院外周診療棟改築に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 岡山県教育委員会
3. 吉留秀典 1985「岡山大学津島地区小橋田日原遺跡（AW14区）の発掘調査」岡山大学構内遺跡発掘調査報告第1集 岡山大学埋蔵文化財調査室

付表2 2021年度以前の構内主要調査（1983～2021年度）

年度	地区名	種別	工事名称：調査名称	調査組織	調査面積 (㎡)	文献	備考
*凡例							
・総合番号・調査地区別調査番号（立会調査は選択的に保存）							
・津島岡大遺跡第1次調査は、本機関設営以前の調査であるため、総合番号を「※1」として区別する。							
・試掘確認調査のうち、事後に実施の発掘調査範囲内に入った場合、本表に対応する調査地点（後出）から番号表記を省く。全てが発掘調査範囲内に含まれるものについて、事後に実施の本表（2次）では、総合番号に（ ）を付して表記する。							
・立会調査で、本表一表に保存する基準：①中土層以下を確認した調査 ②明確な遺構・遺物を確認した調査							
・番号：年度別報告番号							
・文献：後出の刊行物一表の番号に対応する。正式報告が刊行された場合は、年報・紀要掲載の掲載文献は除く。							

付表2-1) 発掘調査

<津島地区：津島岡大遺跡>

総合 番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(㎡)	概要（主要遺構14小）	文献
※1	1982	1	津島岡大遺跡第1次調査 排水集中槽（NP-1）埋設	AW14	10.28～11.21	34	発生中期～古代・漢、【小橋田日原遺跡】と報告	3
1	1983	1	津島岡大遺跡第2次調査 排水管埋設	BE14-18、BF17-18 EG14 BE114-15	84.19～3.5	265	発生早・前期・遺物	4
2	1983	2	津島岡大遺跡第2次調査 合併地理埋設	BH13	11.14～22 84.19～3.5	276	発生前期水田関連遺構（溝槽）	4
15	1986	2	津島岡大遺跡第3次調査 男子学生寮新営	AV00、AW00-01	12.1～87.6.18 8.24～9.5	1500	縄文後期河沼、弥生早期：貯蔵穴群・河沼、発生前期～近世：水田・溝、古代基壇関連遺構	19
16	1986	3	津島岡大遺跡第4次調査 屋内運動場新営	BF・BG09	87.1.19～22	70	発生前期溝、中世河沼	6
38	1988	1	津島岡大遺跡第5次調査 大学院自然科学研究資料棟新営	AV06～08 A206-07	6.27～89.3.19	1537	縄文後期～弥生早期：貯蔵穴群・河沼、発生時代末～近世：水田関連遺構	27
27	1988	2	津島岡大遺跡第6次調査 生物応用工学科棟新営	AV-AW04-05	9.20～89.5.31	600	縄文後期：貯蔵穴群・河沼、古代基壇関連遺構、発生前期～近世：水田・溝	35
28	1988	3	津島岡大遺跡第7次調査 情報工学科棟新営	AV-AW05-06	10.12～89.3.31	800	縄文後期：お・ピット、発生前期～近世：水田・溝	35

総合番号	年度	番号	調査名称・工事名称	構内座標	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	概要 (主要遺構は□)	頁数
39	1990	1	津島岡大遺跡第5次調査 ：自然科学研究所棟共同溝・排水施設 ：自然科学研究所棟共同溝・排水施設	AY-AZ08	4.3-21	90	古墳後期溝	27
44	1991	2	津島岡大遺跡第6次調査 (A地点) ：考古学研究所新館	BD18-19	7.23-12.25	690	縄文時代土坑、弥生時代・近世：溝	32
45	1991	3	津島岡大遺跡第7次調査 (B地点) ：小倉処理新館	BH13	7.23-12.2	140	弥生時代溝、古代・近世：水田	32
50	1992	1	津島岡大遺跡第9次調査 ：生体機能応用工学部新館	AU~AW04	7.1-9.19	690	縄文後期：貯蔵穴・土坑・溝・火竈、弥生時代・近世：水田・古墳関連遺構	47
51	1992	2	津島岡大遺跡第10次調査 ：総合情報処理センター新館	BB~BC10-11	9.21-3.31 4.17-7.31	400	弥生後期土坑群、古墳時代：井戸・住居・中、古代：穴、中世溝、近世溝付関連遺構	64
54	1993	2	津島岡大遺跡第11次調査 ：総合情報処理センター新館	AV~AW11-12	9.14-9.11.11	640	縄文後期：ビツト、弥生前期水田跡	36
50	1993	3	津島岡大遺跡第12次調査 ：図書館新館	AV~AW13-14	9.4.29-3.31 4.1-11.30	1472	弥生前期水田、弥生中期・古墳時代：溝群、古代・近世：奈良関連遺構	64
64	1994	2	津島岡大遺跡第13次調査 ：福利厚生施設 (倉庫) 新館	AW~AX11-12	10.6-11.30	816	縄文後期ビツト、弥生水田、弥生・古墳時代：溝群	41
69	1995	2	津島岡大遺跡第14次調査 ：福利厚生施設 (倉庫) 新館	BB~BC12-13	10.25-9.6.14	896	弥生前期水田、弥生・古墳時代：溝群	46
70	1995	3	津島岡大遺跡第15次調査 ：サウライトベンチャーレジスタスラボ トリ新館	AW00-01	9.6.16-4.25	1600	縄文後期・弥生早期：貯蔵穴群・河沼、縄文後期：ビツト群、石葺サウライト、弥生前期水田、古墳・中世・近世：溝	72
74	1996	2	津島岡大遺跡第16次調査 ：動物実験新館	BD19-20	5.7-15	30.3	A地点：縄文時代・古墳時代：土坑 B地点：中世溝、古代貯蔵穴、弥生時代水田	44
75	1996	3	津島岡大遺跡第17次調査 ：環境理工学部校舎 (1期) 新館	AW02-04	5.21-9.7.9	1451	縄文後期：住居・土坑・溝、弥生前期水田、弥生時代溝群、古墳後期住居、古代水田、中世新館作住	77
85	1998	2	津島岡大遺跡第18次調査 ：臨時施設 (南) ボンゴ増設	BH11	4.7-10	16	古代溝状遺構	53
86	1998	3	津島岡大遺跡第19次調査 ：フコゲーションセンター新館	AZ09-10	7.27-9.9.21.8	1019	縄文後期：ビツト、弥生前期：水田・土坑・河沼、古墳時代・中世・溝、近世：道路状遺構・溝	65
87	1998	5	津島岡大遺跡第20次調査 ：環境理工学部校舎ボンゴ増設	AY07	10.19-28	16	黒色土上面に溝、中世溝	53
88	1998	6	津島岡大遺跡第21次調査 ：1学部エレベーター設置	AX09	11.6-24	30.2	縄文中期土坑、弥生早期・前期：溝、古代：土坑・溝	65
89	1998	8	津島岡大遺跡第22次調査 ：環境理工学部校舎 (2期) 新館	AW02-03	9.9.3-7.12	77.5	縄文後期・弥生前期：河沼、弥生早期土坑、弥生前期水田、弥生中期溝、古墳・近世：奈良関連遺構・水田	77
109	1999	5	津島岡大遺跡第23次調査 ：総合研究棟新館	AZ15-BA14	0.0.2.3-7.28	1309	縄文後期・弥生前期遺構、縄文後期河沼、弥生早期貯蔵穴・溝、弥生中期：溝・溝、弥生中期・近世：溝	80
111	2000	3	津島岡大遺跡第24次調査 ：総合研究棟西り面下建設	AZ14	12.5-14	34.2	縄文後期：河沼・河沼	80
112	2000	4	津島岡大遺跡第25次調査 ：排水施設設置	BA15	01.29-31	20	中世・近世：溝	61
2000	2000	5	津島岡大遺跡第26次調査 ：事務局長新館	BC~BD14-15	01.3.26-9.30	1500	縄文・後期：土坑、中、弥生早期貯蔵穴、弥生前期土坑、弥生後期溝、古墳後期・中世：槽・道路状遺構、近世：溝	76
121	2001	2	津島岡大遺跡第27次調査 ：創立五十年記念会館新館	BB~BC14-15	02.2.1-6.24	1648	縄文後期中、弥生・古墳時代：溝群、中世新館 (奈良関連)	68
127	2002	1	津島岡大遺跡第28次調査 ：自然科学系総合研究棟新館	AW~AY06-08	4.30-9.20、 11.28-03.11.5	1298	弥生前期水田、弥生前期・中期：溝、古代：溝 (内に柱穴群)、中世高岡遺構	87
128	2002	4	津島岡大遺跡第29次調査 ：共同溝設置	BF16	9.18-10.3	62.6	弥生・古墳時代：溝・ビツト	71
163	2007	1	津島岡大遺跡第30次調査 ：旗川インクセンター新館	BC19-20	8.1-12.17	1035.4	縄文後期・弥生早期：土坑群、弥生・古墳時代：溝群、古代道路状遺構、中・近世：土坑群・埋溝・溝群	93
168	2008	1	津島岡大遺跡第31次調査 ：大学生協東館施設改善	AX04	6.17-8.22	212	弥生前期跡、古代道路状遺構	95
184	2009	1	津島岡大遺跡第32次調査 ：教養学部武蔵新館	AX02	7.16-10.13	383	縄文後期貯蔵穴群、弥生前期跡、弥生前・中期・中世：溝	100
196	2010	1	津島岡大遺跡第33次発掘調査 ：総合研究棟新館	BH17-18、BC17-18	7.16-11.11	972.2	縄文・後期：ビツト、弥生時代：土坑・溝、古墳時代後期・古代：貯蔵建物、古代・中世：道路状遺構	117
197	2010	2	津島岡大遺跡第34次発掘調査 ：国際交流会館新館	AU~AV13-14	7.30-9.28	1590	弥生前期：畦畔・溝、近世土坑群、平面調査は中世土面まで実施し下部は遺構不明	105
216	2013	1	津島岡大遺跡第35次発掘調査 ：附属図書館増設	AW13	7.8-8.29	80	縄文時代：ビツト、古墳時代後期：溝・ビツト、古代：ビツト列、近世：畦畔、土坑、溝	145
236	2015	1	津島岡大遺跡第36次発掘調査 ：職員舎新館	BH・BH16	5.26-6.17	435	縄文後期：土坑、弥生前・前期：水田跡群、弥生後期・古墳時代：溝、古代・中世：ビツト、旧跡軍水路・建物	124
263	2019	1	津島岡大遺跡第37次調査 ：新分野基礎科学研究棟新館	AZ~BA08-09	8.28-3.19	1410.9	弥生時代早期・前期：土坑・溝・河沼、弥生時代後期・古墳時代後期：土坑・溝、古代・溝・中世：土坑・溝、近世：土坑・溝	141
266	2020	1	津島岡大遺跡第38次調査 ：共同溝設置	BB13・AZ・BA13	5.11-27	174	近代溝	141
267	2020	2	津島岡大遺跡第39次調査 (A地点) ：ライフライン再生	BD18	12.21-23	16	弥生：溝・ビツト、中世：ビツト	145

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	概要（主要遺構ほか）	文献
267	2020	3	津島岡大遺跡第30次調査（B地点） ：ライフライン再生	AX07	21.2.4～31.0	20.64	縄文：土坑・ピット、弥生：埴輪、古墳：溝・ピット、中世溝、踏作痕、近世：堀	145
		4	津島岡大遺跡第30次調査（C地点） ：ライフライン再生	AX06	21.2.12～3.4	9.61	縄文：土坑、弥生：埴輪、近世：埴輪	145
		5	津島岡大遺跡第30次調査（D地点） ：ライフライン再生	AX10-04、 AY05-04	21.3.8～29	9.61	縄文：土坑、弥生：古墳：溝	145
274	2021	1	津島岡大遺跡第40次調査 ：観合施設新設	AW・AX05	11.16～4.25	700	縄文後期土坑、弥生前期埴輪、弥生後期溝、中世～近代曲輪基礎	148

<鹿田地区：鹿田遺跡>

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	概要（主要遺構ほか）	文献
1	1983 1984	-	鹿田遺跡第1次調査 ：外米診療棟新設	AU-BD28-40	7.27～11.22 84.1.9～8.31	2188	弥生時代中期後半～中世の集落遺構群	7
		2	鹿田遺跡第2次調査 ：NMR-CT室新設	BG-BH18-21	8.1～12.30	176	弥生時代後期～中世の集落遺構群	7
10	1986	1	鹿田遺跡第3次調査 ：医療技術短期大学校舎	CN-CY27-28、 CT-CY19-27、 CG-DO16-25、 DD-DE25-25	6.2～11.29	2300	中世の集落遺構群、古代の横断・河道	10
		2	鹿田遺跡第4次調査 ：医科校舎周辺の配管敷設	DD-DF25 DG-DE27-28	11.2～21	30	古代の河道	10
13	1987	2	鹿田遺跡第5次調査 ：管理棟新設	BB-BHC6-42	10.6～88.3.2 88.3.23～31	1192	弥生時代中期後半～中世の集落遺構群	24
16	1990 1991	2	鹿田遺跡第6次調査 ：アクトゾー総合センター新設	BW-CC67-71	11.30～91.6.30	690	古墳時代初期土坑、中世集落遺構群	40
25	1997	4	鹿田遺跡第7次調査 ：基礎医学棟新設	BR55-BX60 BY56-57	98.2.27～8.6	829	古墳時代初期～中世の集落遺構群、近世の水田・溝	85
27	1998	4	鹿田遺跡第8次調査 ：総合研究棟新設	BP-BSS30-32	7.28～9.1	165	古墳時代と中世の溝群	85
28	1998 1999	7	鹿田遺跡第9次調査 ：病棟新設	CD33-37、 CE-CF28-37、 CG-CJ30-37、 CK-CL35-37	11.27～99.5.11	2088	弥生時代水田・溝、中～近世集落遺構群	126
		3	鹿田遺跡第10次調査 ：共同浴設置関連	CD-CE10-12 DD-DF16-22	5.7～10.14	2414	古代の枕列、弥生時代ピット、近世溝	108
32	1999	4	鹿田遺跡第11次調査 ：病棟新設	CD-CM19-42	8.19～12.22	3030	弥生時代水田・溝、古代の池状遺構、中～近世集落遺構群	126
40	2000 2001	2	鹿田遺跡第12次調査 ：エネルギーセンター新設	CO-CV25-44 CN-CM38-41 CN28-38	10.2～01.5.10	1807	弥生時代溝・河道、古墳時代溝・土器貯まり、中世集落遺構群、近世土坑・溝	143
		3	鹿田遺跡第13次調査 ：総合教育研究棟新設	BL-BR46-51	4.30～10.25	934	弥生時代の溝、古墳時代の土器貯まり・溝、中世集落遺構群、近世土坑群	98
53	2003	1	鹿田遺跡第14次調査 ：病棟（自衛）新設	CD-CM12-20	7.31～12.17	1331	弥生～古墳時代の埴輪・溝、中世の集落遺構群、近世のため池・土坑	113
56	2003	2	鹿田遺跡第15次調査 ：総合教育研究棟旧構	BQ-BS45-46	10.16～29	304	古墳時代初期の井戸・溝	98
59	2004	1	鹿田遺跡第16次調査 ：立体駐車場新設	AH-A16-7 AF12-13、 AN-AOI	10.21～11.8	4915	近世～近代の埴輪・溝・坑・土坑、中世の土坑、弥生～古墳時代の河道	81
60	2006	1	鹿田遺跡第17次調査 ：総合研究棟（医学系）新設	BR-BY60-64	7.10～11.14	642	古墳時代～中世の集落遺構群、近世土坑・溝	137
64	2007	1a	鹿田遺跡第18次調査（A地点） ：中央診療棟新設	BT13-BY29	10.10～08.3.14	8722	弥生時代後期～近世の集落遺構群	92
65	2007	1b	鹿田遺跡第18次調査（B地点） ：防火水栓設置	CG-CG10	10.16～11.1	432	古代後半の井戸、近世入江状遺構・溝等施設	108
66	2007	1c	鹿田遺跡第18次調査（C地点） ：用水路改修	CM-CM9-10 CO10-11	12.27～08.1.16	56	弥生時代土坑・溝	108
76	2008	1	鹿田遺跡第19次調査 ：興学部屋及び電子設置	AW-AY22-23	6.26～9.12	80	弥生時代後期の「方形高まり」、貝塚・竈・土坑・溝、古墳時代土坑・溝、古代ピット、近世土坑	95
80	2009	1a	鹿田遺跡第20次調査（A地点） ：中央診療棟共同溝設置	BZ-CC31-40	6.18～7.31 8.5～24	632	弥生時代～近世の遺構・遺物	131
81	2009	1b	鹿田遺跡第20次調査（B地点） ：中央診療棟新設（本体工事）	BS20-23 BT-BW20-24 BX-CD13-25	10.15～11.2.22 3.1～8	2482	弥生時代～近世の遺構・遺物	147
84	2010	1	鹿田遺跡第20次調査（C地点） ：中央診療棟新設	BR-BS12-21 BT-BX12-13	7.20～10.8	276	弥生時代～近世の遺構・遺物	105
85	2010	2	鹿田遺跡第20次調査（D地点） ：中央診療棟新設	BT-BR24	11.2.18～3.2	15	中世～近世の遺構・遺物	147
86	2010	3-1	鹿田遺跡第21次調査（A地点） ：外来検疫施設環境整備	AD-AF30-31	11.18～1.29	212	平安時代河道、鎌倉時代溝状遺構	105

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	概要（主要遺構は小）	文献
87	2010	3-2	鹿田跡跡第21次調査（D地点） ：外半棟周辺地帯調査	AG-AH30-31	11.18～12.9	22	平安時代河造、鎌倉時代溝状遺構	105
88	2010	3-4	鹿田跡跡第21次調査（D地点） ：外半棟周辺地帯調査	AS-AT25～28	11.18～12.9	59.4	弥生時代倉庫	105
94	2011	1	鹿田跡跡第22次調査 ：施設関係有線センター新設	AV-IB3 04-07	7.14～9.22 10.14～11.18	533	弥生時代舟戸・溝、中世舟戸・溝、近世舟戸・溝、近世溝・道	107
96	2012	1	鹿田跡跡第23次調査 ：1号棟新設	AN-AR 57-62	6.25～8.30	612	弥生時代・古墳時代前期・古墳時代、中世溝・舟戸、近世溝・土坑・倉、近世溝・土坑、近代版状遺構	120
97	2012	2	鹿田跡跡第24次調査 ：採集室総合棟新設	BD-BL 57-69	11.27～ 13.25	1867	弥生時代、古墳時代土器、古代舟戸・土坑、中世溝・舟戸・土坑、近世溝・土坑、近代版状遺構	130
101	2013	2	鹿田跡跡第25次調査 I 工区 ：中央診療棟工期	BY-CF24～38	14.14～4.17	600	弥生時代前期、中世舟戸・土坑・溝・柱穴、近世土坑・溝	131
124	2014	1	鹿田跡跡第25次調査 非工区 ：中央診療棟工期	BS-BY24～41	14.3.15～8.25	1896	弥生時代舟戸、中世舟戸・土坑・溝・柱穴、近世土坑・溝	131
125	2014	2	鹿田跡跡第26次調査 ：動物実験施設改修	CD-CJ46～48、 CJ-CR61-62	14.8.18～11.17	295.5	弥生時代溝・船跡、古墳時代舟戸・土坑・溝・島状遺構、古代土坑・ピット、近世土坑	135
142	2017	1	鹿田跡跡第27次調査 ：自家発電設備	CN-CO43-44	17.10.10～ 11.10	34.5	弥生時代・古墳時代、古墳時代後期～飛鳥時代、中世ピット	143
144	2019	1	鹿田跡跡第28次調査 ：ITメディアイール新設	AG-AS31～41	18.1.19～ 19.9.18	2940	弥生時代・古墳時代：土坑・溝・河造、古代：土坑・河造、中世：舟戸・土坑・溝・河造、ピット、近世土坑・溝、近代：版状遺構、船跡	138 141
146	2021	1	鹿田跡跡第29次調査 ：先端治癒・臨床検査センター予定地	BW36-CB44	7.12～12.14	58400	弥生時代の耕作地、中世の集落確認	148

## ＜三朝地区：福呂遺跡＞

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	概要（主要遺構は小）	文献
1	1997	1-2	福呂遺跡第1次調査 ：実験研究棟新設	-	5.10～20 7.28～31	269	縄文時代早期・弥生時代中期・中世・近世の集落	55
2	1997	3	福呂遺跡第2次調査 ：実験研究棟新設に伴うスロープ設置	-	11.25～12.5	130	古代・中世・近世の集落	55

## 付表2-（2） 試掘・確認調査

## ＜津島地区：津島岡大遺跡＞

総合番号	年度	番号	調査対象地名・概	構内座標	掘削深度 (m)	造成上層 (m)	概要 内容、その後の対応	文献
133	1983	-	農学部合設処理槽予定地	BH13	2.5	-	1 →津島岡大第2次調査：1983年度	1
4	1983	-	農学部排水管中間ポンプ槽予定地	BF17	3.5	-	1 →工事完了	
5	1983	-	農学部排水管設置予定地	BE- BG14, BH- BH15, BE18, BF16-18, EC18	2.0	-	29 →津島岡大第2次調査：1983年度	1
6	1983	-	農学部農畜舎畜種予定地	BF22-23	2.0～3.0	0.6	2 土層片→1987年度工事完了	
171	1983	-	大学事務局種予定地	BC-BD15	2.0～3.0	0.9	3 →津島岡大第4次調査：2000年度	5
61	1983	-	保健管理センター予定地	BB10	2.0～3.0	0.8	1 →津島岡大第10次調査：1999年度	
9	1983	-	津島総合予定地	BE16	0.9	0.9	2 土層片→1987年度工事完了	8
10	1983	-	工学部総合新設予定地	AW05	3.0	1	1 土層片	
12	1985	1	教養講義棟予定地	BE08	3.5	1.2	2 遺構など未確認→1986年度工事完了	5
13	1985	2	教育研究棟予定地	AX02	2.6～3.4	1.2	3 縄文・弥生・中世土器出土	
14	1985	3	男子学生寮予定地	AV-AW99～01	2.0～3.0	1	12 →津島岡大第3次調査：1986年度	6
117	1986	3	屋内運動場予定地	BF-BO09	2.4, 1.2～1.7	1.1	3 →津島岡大第4次調査：1986年度	
118	1986	4	大学院自然科学研究科種予定地	AY-AZ10	1.6～3.2	0.6～0.8	3 →津島岡大第5次調査：1988年度	8
22	1987	4	外国人宿舎予定地	AP02	2.2～2.8	-	2 縄文時代・弥生時代、近世の遺構面	
233	1987	5	総合情報処理センター予定地	AV11	2.0～3.0	2	2 →津島岡大第11次調査：1993年度	14
24	1987	6	理学部身体障害者用エレベーター予定地	AY09	3.0～3.5	約0.1	1 中世・近世の遺物、古代・中世の土層	
25	1987	7	教養部身体障害者用エレベーター予定地	BD09	2.5	0.7	1 縄文時代遺構、縄文・中世・近世の土層	11
29	1988	17	工学部倉庫予定地	AX04-06, AW04	2.0～3.5	1～1.5	6 →津島岡大第6・7次調査：1988年度	
30	1988	19	動物実験飼育棟・遺伝子実験種予定地	BD18-19	2.5	1.1～1.2	3 →津島岡大第8次調査：1991年度	14
31	1988	20	国際交流会館予定地	BK26	2.5	1.2	3 中・近世土器→1988年度工事完了	
33	1989	2	教育部身体障害者用エレベーター予定地	AZ-BA05	2.5	0.8	1 縄文後期・弥生早期の基岩、縄文後期～中世土器→継続して調査、面積38.5m <sup>2</sup>	18
34	1989	3	大学院自然科学研究科合設処理槽予定地	AZ17	4.0	1.6～2.0	1 中世→明治の和田町跡→1989年度工事完了	
35	1989	4	学生合宿所予定地	BD02	2.0～3.2	1	1 弥生早期の船跡→1989年度工事完了	30
363	1989	5	図書館予定地	AV-AW13	3.0	1.4～1.6	2 →津島岡大第12次調査：1993年度	
40	1990	3	学生合宿所ポンプ槽予定地	BC02	2.5	1.1	1 弥生前期船跡、中世土器	30
41	1990	6	福利厚生施設予定地	AW-AX11	3.9	1.4～1.6	2 →津島岡大第13次調査：1994年度	
56	1990	3	農学部用種地実験実施施設予定地	BE- BF22～23	1.5	-	2 中・近世の耕作土	33
65	1994	3	農学部動物実験施設予定地	BD20	2.0	0.9	1 GL-1.4mで黒色土、縄文土層出土→盛り土保存	

総合番号	年度	番号	調査対象地名	備	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
								TP数	内容・その後の対応	
71	1995	4	国際交流会館予定地	BE26	41-24	1.6	2	中世～明治層確認、以下は遺構、遺構・遺物無し(明治期のみ)→工事立会		
72	1995	5	環境理工学部校舎予定地	AW02-03	24	1.2	2	→熊島岡大第7次調査 1996年度	38	
73	1995	6	ボタシタ磁ボックス移設予定地	BF07	30	1.2	1	掘削25mで黒色土、弥生～古墳時代の溝2条、古代遺構		
900	1998	9	コウボレションセンター予定地	A209	27-34	1.3	2	→熊島岡大第19次調査 1998年度		
911	1998	10	環境理工学部校舎予定地	AW02-03	4.5	1.2	2	→熊島岡大第22次調査 1998年度		
92	1998	13	工学部システム工学科棟予定地	AW04	28	1	1	GL-1.8m黒色土、縄文後期の遺構	53	
93	1998	14	遊歩保護区整備関連掘削	AU02-03-06, AV03	24-38	0.8-1.6	5	TP1-3:5 隆高地、TP2-4: 乱層地、TP1: 弥生溝、TP3: 弥生溝・ビット、TP4: 中世溝		
100	1999	6	文法経 総合研究棟予定地	AZ15, BA14	27, 35	0.8	1	→熊島岡大第23次調査 1999年度	96	
106	1999	7	電流局舎設置予定地	AV08	12	0.2	1	埋土上には基盤となる岩盤層		
114	2000	6	縄文～弥生時代における環境復元に伴う調査	AV09, AX00-02-03, AZ06, AW08	26-32	17-0.9	6	縄文～弥生時代の隆高地、古代溝	61	
115	2000	7	創立五十周年記念館予定地	BB14	2	0.8	1	→熊島岡大第27次調査 2001年度	61	
129	2002	5	事務旧日本産糧社移転予定地	BD15	21	1	1	黒色土の湧り	71	
185	2009	2	学業保育室予定地	AV14	324	195	1	黒色土確認		
186	2009	3	農学部構内植物工場予定地	BF20	34	2.3	2	近代溝・明時 弥生中期～古代におさまる溝	102	
198	2010	3	国際交流会館予定地	AU13・14	34	16-19	3	→熊島岡大第34次調査 2010年度		
199	2010	4	牛馬アレーナ予定地	BC12	2.2	0.9	1	黒色土は未確認を確認	105	
208	2011	1	文法経フェンス工事	AW17, AX17, AY17, AZ16	11-20	10-1.6	6	近代の上層、水跡	107	
213	2012	1	工学部活動施設予定地	AZ17	0.8	-	5	門跡、跡事建築物		
217	2012	2	1クラス部室	BB02	29	1.1	1	縄文時代～近代層確認	111	
242	2013	2	職員組合会館	BB15	18-2.3	1	2	縄文時代セツツ、弥生前期前期土層・遺構	116	
255	2016	1	津島岡大遊歩道東端における確認調査	BB16～BB17	2.5	1.0	2	弥生早期～前期末田	124	
255	2016	2	津島岡大遊歩道東端における確認調査	BB07	30	1.23	1	弥生時代土層、近代水跡	129	
259	2018	1	グッドジョブセンター増築	BD15	24	1.46	1	黒色土確認	138	

#### <鹿田地区：鹿田遺跡>

総合番号	年度	番号	調査対象地名	備	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
								TP数	内容・その後の対応	
14	1984	-	西岡橋北側受水槽予定地	BU30-31	14	0.5-0.7	2	中世土層・包含層確認→盛り土保存	2	
15	1984	-	医療短期大学部校舎予定地	CT-CU25, CZ19-20-22-24	27	0.8-1.0	3	→鹿田第3次調査 1986年度		
6	1985	4	外来診療棟環境整備工事掘削	AJ33, AJ40 AJ-AK26	22-30	0.9-1.4	3	弥生時代～中世の遺物	5	
117	1990	5	アイトーブ総合センター予定地	BY-BZ06	2.3	1.2-1.3	1	→鹿田第6次調査 1990年度	18	
120	1997	8	基礎医学棟予定地	BT57	2.2	0.9	1	→鹿田第7次調査 1997年度	50	
29	1998	11	病棟予定地	CP-CG43-44, CH25-26, CK35-36, CK15	20-24	1	4	→鹿田第9次調査 1998年度	53	
82	2009	2	学生センター棟予定地	CR70-71, CW25	21-2.3	0.9-0.7	2	弥生時代乱層地、中世以降層付地、能登瓦跡	102	
89	2010	4	岡山県地域医療総合支援センター予定地	A204-BA08	2.3-24	1.2-0.6	2	近世溝・弥生包含層確認→鹿田第22次調査 2011年度	105	

#### <倉敷地区>

総合番号	年度	番号	調査対象地名	備	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
								TP数	内容・その後の対応	
1	1990	4	倉敷生物科学研究所遺跡確認	-	2.5	0.7	1	中世後半以降の土層	18	
2	1998	12	バイオ実験棟予定地	-	15	0.2	1	近世土層内、遺構未確認	53	
3	2013	1	植物ストレス科学研究等拠点施設建設工事	-	20	0.7	1	近世耕作土層確認	116	

#### <東山地区>

総合番号	年度	番号	調査対象地名	備	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
								TP数	内容・その後の対応	
3	2006	1	附属小学校校舎予定地	-	30	0.3-0.5	4	近世～近代 溝3条、中世7層跡	88	
4	2008	1	附属中学校校舎予定地	-	23-24	1	2	近代明時	95	
5	2013	1	附属小学校校内運動場建て替え工事	-	21	0.9	1	中世～近世耕作土層確認	116	

#### <三朝地区：福呂遺跡>

総合番号	年度	番号	調査対象地名	備	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
								TP数	内容・その後の対応	
3	1997	5-6	実験研究棟予定地	-	1.66-2.1	0.8	2	→福呂第2次調査 1997年度	81	
5	2004	1	三朝岡古所南側予定地	-	1.3	0.5-0.9	2	遺構・遺物・包含層未確認	90	
6	2004	2	高辻橋・電話線設置予定地	-	1	0.85	1	河床層、段丘層層跡	81	

付表2-3) 立会調査

## &lt;津島地区：津島岡大溝路&gt;

年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深層 (m)	造成上層 (m)	概要	工数	
11	1984	-						
19	12	南倉倉倉庫地埋理種別保配水管理施設	B115-17	1-22	1	土盛、赤生土層-遊歩帯	2	
20	186	21 教養部校舎新設	B038-09	23	13	中・遊歩：黄・土層	6	
21	30	21 ハンドホールコート新設	BG08	02-20	08	黒色土		
21	30	26 教養部校舎新設に伴う電気配管	BF07-08	18	09	中置管まで		
32	1988	17 テニスコート夜間照明施設	BG10-11	22	15	GL-約2mで黒色土、西に向かり掘削	11	
37	1989	8 自然科学研究科棟新設：工事用道路	A208	14	-	赤生後期水田、近世溝、75m	14	
38	30	10 生物応用工学科棟新設に伴う電線工事	AV04-05	15-19	0.7-12	黒色土		
42	16-19	19 岡山道本町津島東横断線	AV04-10	0.4-3.0	0.6-1.4	5ヶ所、黒色土、赤生由北邊		
43	30	10 学生合宿所給排水管設置	BC02-04 BD03-04	23	12	GL-2.3mで黒色土	18	
46	9	9 防火用水機土	BC18	2	08	鳥撃帯まで掘削、石積		
47	17	津島地区基幹整備（電気）	BB16	17-18	05	2ヶ所、明活溝-淡灰色粘土層	21	
48	30	10 ハンドホール・アース板	BD15	17	1	GL-1.5mで黒色土		
49	40	南北道路外灯設置	BC-RE-BF12	15	-	3ヶ所、GL-1.4mで古代層		
52	1992	34 運動学実習施設ハンドホール設置	BD18	15	0.75-1.1	岡大長瀬層まで、溝2本	25	
53	34	14 附属図書館北側駐車場整備	AV12	3	17	造成土以上は粘土層		
57	17	30 設備管理センター新設	BB-1K10-12	18	0.6-0.7	赤生土以上GL-1.15-1.7m		
58	19	30 設備管理センター新設	BB11	1.1	08	赤生土まで、土盛変更		
59	23	津島地区基幹整備共同利用施設排水処理施設	BA07	32	-	明活-中置管-暗褐色土層、古代溝？ 岡大 地期より		
60	1993	28	ボックスサルバート	BD-BE13	1.5	1	近層-中置管	30
61	33	津島地区環境整備	BB-EG12-13	18	0.5-1.2	10ヶ所、中置管まで、一部で暗褐色土層		
62	30	10 信号機設置	BD-RE12-13	1.6	1	中置管まで、一部で暗褐色土層		
63	30-41	野球場バックネット-防球ネット改修	BB05-07 BC05-01	20-32	1	GL-1.2-2.0m付近で黒色土、以下黄色砂- 青灰色粘土		
66	9	津土線長瀬側明灯設置	BD-DE-BF04-07	2	0.96	GL-1.92-2.0mで黒色土		
67	1994	13 総合情報処理センター新設電気工事	AV10、AV10、 AV11	22	15	GL-1.7mで黒色土、近世溝	33	
68	20	総合情報処理センター新設電気工事	BE20	22	15	GL-1.9mで黒色土		
70	4	農・畜学部動物実験棟新築	BC18	22	19	黒色土層付近まで		
77	5	農・畜学部動物実験棟新築	BD16-19	13	-	4ヶ所、明活溝以下に25層		
78	12	サウナトイレバンチャーパー レストガトリ新設	AV02、AV03、 AV04、AV09、 AW02、AW04	10-15	0.76-1.1	6ヶ所、明活溝-後生層？	44	
79	13	26 配管設置	AV03-AW03	2	0.95	赤生時代層まで、古墳前部：遺構-遺物		
80	18	環境理工学部校舎新設予定地電柱移設	AW03	2	-	黒色土まで		
81	25	25 附属図書館新設雨水排水外構工事	AV13	1.3	1	造成土以上は青灰色、黄褐色、灰褐色粘質土		
82	16	南北道路ガス管理施設	BB13-BH13	1.5	-	中置管まで		
83	1997	19	AW11-BA13				50	
84	24	福利厚生施設新設に伴う共同溝新設	BC12	2	08	GL-1.65mで黒色土、古代-近世の溝		
94	15	外灯設置	BA09	1.47	1	GL-1.42mで黒色土		
95	22	コラボレーション・センター支障設備布設等	AZ06、BA09	1.4	1	GL-1.4mで黒色土		
96	24	南福科外灯設置	BH12、BC12	1.4	0.95	中置管まで		
97	31	環境理工学部校舎新設に伴うガス管理施設	AW03-AX-AY03-06	12-14	0.65-0.95	中置管まで（12ヶ所）		
98	34	学生会館改修に伴うトップ階段土	BC10	22	145	GL-1.7mまで灰褐色粘土、GL-2.2mまで灰 色粘土		
99	36	NTT電柱移設	BA00	1.5	0.9	造成土以上は褐色系粘質土	53	
100	41	環境理工学部実習排水管補設	AX03-AY07	1-24	0.6-1.4	10ヶ所、5地点で中置管、2地点で古代層、 1地点で古墳時代層まで		
101	42	馬場修設に伴う樹木移植	AO02	22	1.1-1.3	GL-2mで赤生後期層、GL-2.2mで岡大南 部層まで		
102	44	環境理工学部校舎新設	AV03、AW03	1.97	1.4	古墳時代層まで、照査部-土層部		
103	48	28 生活排水処理施設 ガス管理施設	AW03	1.45	1	中置管まで		
107	8	外灯設置	AY00、AZ01-03	1.15-1.25	0.5-1.2	3ヶ所、黒色土（GL-0.85-1m）		
108	12	コラボレーション・センター新設（ハンドホール）設置	AZ08-09	1.88-2.1	1.03-1.16	2ヶ所、そのうち1ヶ所は古墳時代層まで		
109	13	環境理工学部校舎新設に伴うスロープ設置	AW02	3.5	1.2	岡大南端25m、黒色土下層まで、近代土塊、 古代溝、縄文後期ピット		
110	42	コラボレーション・センター新設に伴う排水処理施設	AZ09	1-12	0.8-1	6ヶ所、1ヶ所で黒色土対応層まで		
116	17	津島地区電柱設置	BA12	1.6	1	造成土上に灰色粘質土-暗茶褐色粘質土層 造成土下に暗青灰色粘質土-褐色粘質土-灰 色粘質土		
117	23	23 理学部校舎改修	AY09	1.3	0.9	南福ハンドホール：GL-1.6mまで、GL- 1.52mで中置管（方向は南東-北西）	61	
118	2000	28 機械設備電気	AX10、AY10	0.85-1.60	0.8-1.6			
119	42	精密応用化学科棟都市ガス改修	AW08、AX08	1.6-2.05	1.45	GL-1.82mで明灰褐色粘土（中置管） GL-1.4mで中置管？車庫間の築山-土高- 一部掘削		
120	44	文法館 総合研究棟仮設電柱設置	BA16	1.5-1.7	1			
122	4	理学部校舎改修：電気設備	AZ10	1.6	1-1.2	中置管		
123	2001	11 本館棟新設	BB-BC16	15-21	1.2-1.4	2ヶ所、GL-1.4mで灰色粘土、GL-2.1mまで 砂か？	66	
124	27	27 専ら移設	BB-BC13	0.5-1.6	1	2ヶ所、中置管まで		

年度	年度番号	工事名称/項目	構内座標	掘削深度(m)	造成上層(m)	概要	文庫	
2001	30	本部棟新設	樹木移植	BB14	1.6	0.65~0.8	GL-1.4mに灰色粘質土層(古代)	
	31	旧保健室基礎解体		BB14	1.65	0.65~0.75	12×9基礎。中世層まで	
	32	農学部校舎改修・電気設備		BB15	1.8	1.5	3×9所。古代・中世層まで	
2002	51	本部棟新設	排水・管筋	BC13-15	1.2~2.5	0.7~1.2	汚濁土層・石部多数。近世溝。張生溝	
	51	排水排水網・管筋	BB13	1.57	0.8	中世古代・古墳層		
	54	外灯	BB13-BD14	0.95~1.9	0.8	2×9の中世層と古代層まで。GL-1.3mで71		
2003	55	一般教育棟1棟外灯設置工事		BC07-09	1.0~1.26	0.95	4×9所。中世層まで	
	57	創立五十周年記念新築工事	汚水排水	BB-BC14-15	1.0~2.3	0.85~1.0	一部黒色土上面まで	
	136	創立五十周年記念新築工事	雨水排水網・管理設	BB13-15	1.3	0.7~0.8	中世層まで	
	137	総合研究棟新設機械設備ガス配管工事		AX06	1.4	0.9	古代層?まで	
	138	旧事務局庁舎改修電気設備工事		HC15	2.43	0.85	GL-1.9mで黒色土。GL-2.1mで縄文基盤層	
	139	農学部総合研究棟改修電気設備工事		BB, BC18	1.7	0.7	GL-1.2m前後で黒色土層。GL-1.5~1.6m前後で縄文後期基盤層	
	140	8	総合研究棟新設その他工事	雨水排水	AX06-BA06	1.7	0.7~0.8	標高3.3~3.4mで黒色土。張生~古代・東西溝多数。近世~近代・東西溝・明渠
	141	14	総合研究棟新設(外灯)	電気設備工事(外灯)	AW, AX06, 07	1.4	-	中世層まで
2004	142	15	総合研究棟新設その他工事	排水	AW-AX06-07	0.5~2.5	1.6	削~縄文基盤層まで掘削。張生溝
	143	17	旧事務局庁舎改修・外部給排水設備工事	雨水排水	BC-BD15	2.75	1.1	削~縄文基盤層
	21-1	No.14区画 農学部処理設備		BG-BH13	1.8	0.9	縄文基盤層まで	
	21-2	No.2区画 体育館東~武道場西		BE-BG10	1.95~2.25	0.8~0.9	削~縄文基盤層。管筋で張生~早期までで、張生溝。縄文土坑	
	21-4	No.4区画 文法・母2号館西		AZ16	2.45	1.5	縄文基盤層まで。張生溝	
	21-5	No.5区画 理学舎		BA10	1.9	0.7	中世頃の埋土層を確認	
	21-6	No.6区画 農学部4号館東		BG22	1.5~1.9	0.9~1.4	縄文基盤層まで。張生~古墳初期。ビット、穴・凹状遺構	
	21-7	No.7区画 津島宿泊所		BB16	1.15~1.3	0.8	中世層まで	
	21-8	No.8区画 南館南		BB15	2.0~2.45	1.1	縄文基盤層まで	
	151	1	公共下水処理統工	留学生等の宿泊施設	BB-BD30	1.22~1.68	1	中世層まで
2005	6	津島キャンパス環境整備	留学生センター西	BB19-10	0.5~1.15	0.4~0.6	張生~古墳。気合溝・遺構。礫層	
	3	総合研究棟改修	仮設電柱	AV08	1.5	0.9	赤灰~白灰色の粘質土。黒色土は確認されず	
	5	キャンパス環境整備(門改修等)	フェンス板	AW09	1.8	-	縄文基盤層まで。黒色土	
2006	13	プールの改修(排水管改修)工事		BB02, BC07	1.0~1.3	0.7	1mで中世層。改修時期	
	14	サッカー場埋戻ネット設置工事		BC-BE03, BB-BC02	0.75~2.4	0.8~1.3	縄文基盤層まで。灰色土。張生~古墳:溝多数。近世土坑。近代・大塚町溝	
	2	総合研究棟改修工事:新築工事に伴う土留物撤去・PC耐震性基礎補強		BB-BC10	2.0~2.2	-	ヤマガによる掘削。一部で黒色土	
	3	教育学部公共下水処理統工		AZ-BA02-04	1.3~2.3	0.7~1.0	削~溝3.2m。配管~溝3.105~1.92m。灰色Loor基盤層まで。東西方向の溝	
2007	5	プールの改修配管接続工事		BA-HB02, BC02	1.7	0.7~0.8	黒色土Wor基盤層まで。古墳時代頃の溝状遺構	
	11	総合研究棟:耐震工事に伴うPC耐震性基礎補強		AX08-09	1.8	-	古墳~張生時代層	
	13	農学部2号館南電柱移設		BP16	2	-	中世層まで	
	4	公共下水処理統工(理学部館)		BA12	2	0.8~0.9	GL-1.6mで黒色土。張生時代溝	
2008	7	総合研究棟改修	外灯基礎及び管筋	AV-AX07-08	1.4~1.7	1.2	近世~中世層	
	10	総合研究棟改修	外構柵・配管(東半部)	AW07-08	1.1~1.4	0.9	近世層。土坑1基	
	13	インキュベーション施設内排水配管		BA-BC20	1.2~1.4	0.6~0.8	縄文時代~近世層。中世~近代の溝	
	7	理学部ペリウム演習装置基礎工事:基礎改修工事		AZ09	4	-	黒色土・土。GL-4m以下で礫層	
	21	電気工事:理研		AY03-AZ03-BA03	2	-	3地点掘削。北:中世層まで。南:東西溝	
	22	総合研究棟(教育系)改修	機械工事:掘削施設	AY04	1.7~1.28	-	古代層?。北:中世層までの砂層	
	26	掘削施設	機械工事:都市ガス	AZ03	1.2	-	GL-0.65mで黒色土	
	28	KDFA無線基地新設工事:塔柱		BB12	1.8	0.8~1.05	灰色粘質土層まで。黒色土未確認	
	32	プールの系統水通メーターボックス取設工事		BB04	0.9~1.5	-	中世層(?)まで	
	33	南館倉庫改修工事		BJ17	2	-	GL-1.2~1.5mで黒色土	
	40	大学生協東館増築新築	ガス管	AX04	0.85~1.21	1	中世層まで	
	48	大学生協東館増築新築	外灯移設	AX05	1.1~1.2	0.68~0.95	2地点掘削。古代層まで	
	2009	42	新技研センター公共下水処理統工		AW00-01	0.85~1.75	0.7	中世~近代溝4基(南北東横)。黒色土上面まで
43		動物室		AY01	0.85	0.85	黒色土上面で張生~古墳時代の木田相野	
44		教育学部体育館他改修	仮電柱設置	AY03, BA03	1.2~1.7	-	2地点掘削。北:中世層まで。南:東西溝	
49		掘削施設		AY02	0.3~1.7	-	古代層まで	
52		大会館他改修工事:一般教育講義棟ガス設備		BB10~11	0.7~1.2	0.55	GL-1.0m以下で礫層。土坑1基。溝?1基	
53		工学部内外ガス配管改修工事		AV04-06, AW04	0.8~1.48	0.8~1.1	一部で中世層まで	
6		総合教育棟(共済教育)改修工事:高圧ケーブル		BE-BF04-08	1.3	-	2×9所。中世層・近世層まで	
14		環境整備(施設設備室内概)新設工事		BB10	0.8~0.95	0.6	設備管理センター北で張生?遺構確認	
16		工学部21号館(動物飼育室)改修	ガス管	AU06	0.8~0.9	-	一部張生?混合層	
17		排水管		AU06-07	0.65~0.9	1.25	北半部で両溝	
2010		21-1	21	西北南東	BB12	1.8	-	中世~張生層まで。底部で黒色土
	22	22	西北北東	BA12	2	0.58~1.25	縄文層まで。黒色土確認	

総合番号	年度	番号	工事名称/項目	構内座標	掘削深度 (m)	造成上厚 (m)	概要	支線		
190		23	南北道路信号機付け替え	西門北西	BA13	2.06	0.56~1.26	縄文層まで、黒色土層確認		
		24	事務局前北東	BD12	1.95		縄文層まで			
		25	ガス管	AY-AZ02-03	0.8	-	縄文層まで			
		27	電気設備：アース増設	AY01-AZ03	1.65		縄文層まで、北：黒色土、中位以前の遺構			
			電気設備：配管		0.8	0.4	赤土(包含層)遺構			
191	2009	29	総合研究棟Ⅱ期（教育学系）改修	電気設備：外灯		0.8~1.3		黒色土まで		
				屋外排水	AY02-03	1.15	1	黒色土-赤土遺構		
				屋外排水：管路						
				屋外排水：管溝	AZ00-02	0.8~0.9	0.7	包含層-畦畔-小溝		
				屋外排水：側						
30	電気設備：アース増設		1.7		縄文層まで、黒色土					
	電気設備：配管	AZ00-AY-AZ01	0.8~0.9	0.6	包含層-土留置小片					
	電気設備：外灯		1.3		既設土内					
192	42	文芸館ボイラー設備突換上工事	AX16	2.5	1.5	縄文層まで、赤土中-後期遺1条				
193	48	総合研究棟（薬学系）改修	電気設備：配管	BH16-BC17	1.45	1.05	近世層、近代溝			
			電気設備：アース板		1.50~1.54		包含層（中位?）			
194	54	環境理工学部公共下水道接続工事	AU03	2.3	0.9	赤土-古墳層まで、近代東西階段1条				
195	55	薬学部西水道管位置調整工事	BC18	2.7	0.55	<岡山県教育委員会対応> 縄文層まで、黒色土				
200	8	外灯整備工事	教育学部	AZ06	1.1	0.7	黒色土			
201	17	創立五十周年記念館	BH14-15	1.1~1.6	1.15	近代溝、近代石堀用水路				
202	23	総合研究棟（薬学系）に併う支線管移設	生活科学・実験棟水	BB-BC17	0.87~1.4	0.8	古代層			
203	36	テニスコート施設復旧工事		BG11	1.9	-	既設内、礎層壁<岡山西薬回収>			
204	2010	34	薬学部本部改修工事	電気設備：管路	BC-BD18	0.7~1.28		中世層		
				電気設備：ハンドホール		2	1.1	縄文時代層、近世-近代：堂壇遺		
205	35	屋外排水：配管	井灯設置：管路	BH17	0.63~0.74	0.85	近世-近代層			
206	36	農学部水道管復旧工事（緊急対応）	井灯設置：基礎		1.08~1.34		中世層			
207	37	国際交流会館	排水再掘削工事	BF15	1.1	-	既設内			
208	1	文経経フェンス工事		AU-AV13	2.2~2.5	-	4ヶ所、中位上面から0.55m掘削、赤土後期層			
209	1	文経経フェンス工事		AW17、AX17、AV17、AZ16	1.1~2	1~1.6	近代の土塼、水路			
210	2011	8	津島南配水管布設工事	AZ17	0.8	-	門跡-御書院跡基礎			
9				BA10	1.2	0.6	中世層まで、近世-近代遺構確認			
211	9	津島南配水管布設工事		BA08	1.5	0.6	中世層まで、近代側門-溝			
212	12	教育学部講義棟トイレ改修工事<屋外排水>		AZ04	0.9~1.5	0.55	古土、近世-近代遺構			
214	9	新しい学館整備	西棟トヨタホール	BH06-07	3	1	基礎層まで			
215	11	農学部屋外排水管整備	側・管路	BB-BF13	1.6	1~1.13	基礎層まで			
218	5c	総合研究棟改修（工学系）	設置路線①	AV05	0.9	-	近代の周溝土溝			
219	5d		設置路線②		0.75	-	近代の東西方向石堀溝			
220	6a		埋地敷板①							
221	6b		埋地敷板②		1.65	0.85	縄文層確認			
222	8		電気設備：管路		AW05	0.8	-	近代の東西方向石堀溝		
223	16	電柱	BH15	1.6	-	田陣家東西方向水路				
224	19a	種房ビレット②	BC10	1.05~1.11	0.5	中世層、近世南北方向溝				
225	21a	東西道路南側外灯①	BH08	1	0.55	赤土層確認				
226	21b	東西道路南側外灯②								
227	21c	東西道路南側外灯③	BH09	1.3	-	田陣家東西水路				
228	21d	東西道路南側外灯④								
229	21e	東西道路南側外灯⑤	BH11	1.4	0.3	礎層確認				
230	21f	東西道路南側外灯⑥								
231	21g	東西道路南側外灯⑦	BH12	1.4	0.85	中世層、近世東西方向溝				
232	21h	東西道路南側外灯⑧								
233	22a	集水棟①	BH10	1.1	0.7	近世層、近世東西方向溝				
234	22b		BH11	1.4	0.6	礎層確認				
235	22c	集水棟②	BH11	1.4	0.9	中世層、近世東西方向溝				
234	23b	大学会館周辺他環境整備	東西道路南側樹木植穴工事①	BH10-11	0.6~0.7	-	田陣家東西方向水路			
235	24	自由勾配敷溝①	BH09-12	0.8	0.6	近世層、近世南北方向の段・溝、近代南北方向溝				
236	25	重圧管管路	BH10-11	1~1.1	-	田陣家東西方向水路				
237	26a	ガス管管路①-①	BH10	1	-	田陣家東西方向水路2条				
238	26b	ガス管管路①-②	BH10	1.2	0.55	礎層、近世土塼、近代南北方向溝				
239	26a	さくら広場外灯①	BH10	1.4	0.5	赤土前期層確認				
240	28b	さくら広場外灯②	BC10	1.1	0.45~0.55	古墳時代前期層、古墳時代後期土坑（焼土）、近世土坑				
241	30	ガス管①	BH10-BC10	0.75~1.4	0.85	近世層、近世土坑、近世-近代東西方向溝				
242	31	パワースタム電気設備	BC11	1.5	0.75	礎層、赤土時代ピット、戦国時代南北方向溝				
243	35a	ガス配線整理	AZ03	1.1	0.5	赤土時代前期黒色土層確認				
244	8	Jリテラス新設	排水管	BC-BH13	0.7	-	田陣家南北方向水路			
245	12	津島南倉庫	電柱新設工事	BJ16	2.7	-	1-1号掘削、GL-1.6~1.8mで黒色土	121		



年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成上厚 (m)	概要	支数	
248	9		BI16	0.8-1.9		排水水路確認GL+0.4m		
249	13	職員組合新営	BI16	0.9-1.45	0.65-0.85	内堀GL-1.3mで発生後期層確認	124	
250	16		BI16-17	2.5	0.9-1.2	1号~4号掘削、GL-1.6mで黒色土、-1.8mで基礎層確認		
252	7		職員組合増設立替	BI14	2.5	0.8		1号~4号掘削、GL-1.6-1.8mで黒色土
253	13	講義棟改修(教育系)	透水ブロック側	1.1	0.6	黒色土まで確認	128	
254	14		新設側1	1.5	1	黒色土まで確認		
255	15		新設側2	1.4	0.65-0.9	黒色土まで確認		
256	16		外灯基礎1	1.4	0.78	黒色土、中世遺層確認		
257	17		外灯基礎2	1.4	0.7	黒色土、中世遺層確認		
258	18		外灯基礎3	1.4	0.8	黒色土まで確認		
260	6	理学部2号館電気室設置機組立工事	A109	0.75-1.7	1.2	中世層		
261	21	野球場バックネット改修ほか	野球場バックネットポール基礎	BB06-06	3.0	0.9-1	東側2か所は青灰色粘土、西側2か所は-2.4m付近に黒色土、以下灰黄褐色砂質土~青灰色粘土	138
262	22	基幹・環境整備(ブロック製対策)他	津島留倉南	BJ16・17	0.7	0.7	土留遺層実施	138
264	6	野球場バックネット	左岸ネット改修	BB06	2.05	0.92	GL-2mで黒色土確認	141
265	2019	中庭ケーブル埋設工事	AJ04	1.45	0.9	中庭~古代層確認【岡山立立会】		
266	8	第1野球場北側新営	雨水・汚水排水網・管	AZ-BA8-9	0.9-1.3	0.6-1	黒色土~古墳層まで確認	145
269	9	免通側階段	BB13	1.8-2.2	1	古墳層まで確認、T38Sと同様		
270	30	基幹・環境整備	到達物側階段	AZ・BA13	1.8	1-1.3	一部で古代層まで確認、T38Nと同様	
271	17	ライフライン再生(津島南)	排水管	BC-BD 16-19	1~2	1.5	基礎層まで確認、黒色土1.84~2.37m	145
272	21	ライフライン再生(津島北)	排水管	A200-01	1.3-1.4	0.5	黒色土1.37-1.38m	
273	22	ライフライン再生(津島北)	排水網・管	AY-BA06	0.9-2	0.7-1	黒色土1.325-1.34m	
275	2-5	ライフライン再生	AU07-AX06	経路5:管路	1.7-1.23	1.27-1.42	中世層(泥炭層)確認	148
	経路5:柵立一辺			1.95-2.45	1.4-1.5	中世層(泥炭層)確認		
	経路6:管路			1.0-2.1	1.3	中世層(泥炭層)確認		
	経路7:管路			1.7-1.9	0.9-1.2	黒色土確認		
	経路7:柵立一辺			2.1-2.28	0.9-1.2	縄文系基礎層確認		
	経路8:管路			1.05-1.4	0.9	古代層確認		
2-8	経路8:柵立一辺	1.05-1.69	0.9	黒色土確認、発生遺層確認	276			
2-12	経路13:管路	1.35-1.85	1.05-1.27	古墳層まで確認				
2-13	経路13:柵立一辺	1.7-1.8	1.95-2.24	黒色土確認、古墳東西遺層確認				
3-1	経路14:柵立一辺	1.72-1.9	1.17-1.27	古代~中世層まで確認、発生~古墳層確認				
3-1	高圧ケーブル変更	ハンドホール	BD15-BD18	1.30		0.73-1.15	中世層~古代層確認	
277	5-1	中庭電力ケーブル埋設	管路南端	AU02-AV04	2.0	1.0	発生~古墳層確認	

<鹿田地区:鹿田遺跡>

年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成上厚 (m)	概要	支数	
3	1983	1 外米診療棟電気配管埋設	AO-AW22	1.3	-	発生後期 土器・分銅類土製品、貝類類	1	
7	1985	6 外米診療棟関係屋外排水管理埋設	AW-BH23, BH-BI24	1.3-1.7	0.7-1.3	発生・中世・遺構・遺物	5	
8	12	基幹環境整備緑化工事 電気配管ハンドホール掘削	AG31, AG29, AF23	1.2-1.7	0.9-1.3	3号、中世包含層・ピット		
9	9	記念館東側汚水管改修工事	BU-BN4	0.8-1.3	0.8	中世包含層、土器		
11	1986	24 講堂及びトイレ工事	CL-CR12, CR-CX13, CX-DA14	2	0.8-1	中世包含層	6	
14	1987	8 管理棟新営に伴う基礎杭確認	BC37	2.5	-	発生時代 包含層・遺構	8	
15	1989	46 旧管理棟跡地環境整備:外灯基礎	CE30-37-44, CJ-CK45, CL28-29	1.2-1.5	0.7-1	2号、中世層	14	
18	1992	21 アイソトープセンター1号館南・排水網	BH71	1.4-1.5	0.9	中世遺層1条	25	
19	41	テニスコート脇電柱埋設	CH23	1.2	1	古代土器1点		
20	1994	5 講堂改修工事	DE60-62	1.5	0.8	古墳層以上は遺構埋土上、溝3条・ピット9基	33	
21	11	鹿田地区基幹整備	附属病院連絡通路新設	BG-BI18	1.5	1	造成土以下に茶褐色土・青灰色粘質土層、遺物なし	38
22	14		洗滌タンク設置	CD07-08	2.3	1	中世2部、溝3条、溝内から古代~中世土器	
23	1995	17	洗滌タンク1号字溝埋設	CD08-CC11	1.23	0.85	包含層、中世土器、溝長で区別全体の1/2程度確認	
24	23	経路ネット敷設工事	DF56-67	3	0.8	径60cmを12ヶ所、内4ヶ所で上部片-石器、調査区西寄りりGL-2m以下は田河道か	33	
30	1998	36 校舎新営に伴う仮設電柱工事	BV73, CN28	1.2	1	中世層まで	53	
33	15	研究棟新営	BV65-71	1.2-1.4	0.9	中世層まで		
34	18	種水網	BV65	2.2	1.1	内堀2ヶ所、古墳遺構、中世・溝・ピット		
35	1999	27 基幹整備(電気設備):地中配管	BI42-43, BI43-44	1.25-1.45	0.45-0.5	2ヶ所、中世層まで、時期不明遺構	56	
36	41	病棟新営	CF21-28, CF-CL28, CD-CF28-33	1.7	-	埋蔵18点、鹿田11次調査南側で中世ピット		

年度	番号	工事名称/種目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文獻	
37	46	病棟新営	汚水側・管路	CN46-DIE49	23	12	古墳時代/丹川系・土坑1基、中世遺構等	
38	1999	47	グラウンド陸球ネットポール	CM-CN-CP-CR-CT18、CV-DA、DC-DD-DF59	20~23	-	11ヶ所、南側6ヶ所/河沼、7~10ヶ所/岡高池、最北端/河沼	
39	48	病棟新営	汚水排水側	BT51	2	1	古墳時代層まで	
41	25	病棟新営	管路・雨水側	CD41-CN45	1.6~1.8	-	溝か?	
42	2006	26	風圧及び外灯の建設工事	CN15-21・27、CO41-42、CS45、DV45	1.6	-	7ヶ所、灰白色土層・淡褐色砂質土層・暗褐色砂質土層、最北端部小	
43	29	医学部ガス配管切り離し用/バルブ取付工事		D427	0.8~1.35	0.7	GL-0.85mで黄灰色粘質土	
44	47	豊田道池田側用水路築替機架設修繕		DG-DJ28-67	21~23	1.3~1.5	幅130mの堤防調査、古代の遺構・河沼	
45	2001	37	総合教育研究棟新営に伴う機架設置工事	BR-CAG43、CA43-55、CA44-CL45、BR-CA55	1.65	0.7~0.9	中世層まで、中世土器多数出土地点あり	
47	10	豊田道池田ガス配管埋設工事		CH11-CN22	1~1.3	0.87	中世層まで	
48	19	22	共用湧排水管	BT-BU11	0.5~1.8	-	2ヶ所、GL-1.22mで古代中世層	
49	22	25	外灯	QH1-42	1.5	-	1ヶ所、包含層まで	
50	2002	26	エネルギーセンター棟新営	CG41、CO34、CP42、CO38	1.47~1.66	-	4ヶ所、中世層まで	
51	27	27	外溝	CV36-45	0.9~1.9	0.9	中世/丹川系穴溝	
52	36	総合教育研究棟新営その他工事		BI-BS45-53	1.85~2	0.8~1	5ヶ所、中世層まで	
53	52	本館棟新営その他工事	植栽移植	DO67	1.25	-	中世層	
54	56	旧退舎病棟アーストラップ改修		BG18	1.68	-	底面で張生→古墳層、土器	
55	5	9	院外排水	BS-BE46、CA-CO46、CO45	1.7	0.7~1	張生中間?包含層まで、近世土坑、中世ピット多数、瓦部確認	
56	2003	9	総合教育研究棟	BL-BS45-53	0.8~1.75	0.7~0.9	一部張生中間包含層まで、古墳時代溝、中世土坑、近世土坑等	
57	10	10	給水配管埋設	BR-BS49-54	1.33	0.8	一部で中世層まで	
58	13	13	外溝工事(外灯)	BR53、BE54	1.4	0.8	中世層まで	
60	3	60	医病棟内支障ガス配管改修工事	AF16、AF-AJ17、AJ29-16	1.19	0.7~0.8	覆瓦部、近世・古代水田層、中世陶器、張生→古墳河沼(砂層)	
61	2004	5	医病棟内支障給水管配管工事	AE4-16、AF-AI16、AP-15、AJ-AO9	0.9~1.9	0.85	中世?→近代河沼、張生→古墳河沼(砂層)	
62	2005	3	医学部電気室ネット周辺高低セーブ設置工事	DH-DJ18、DJ19	11~25	0.7~1.1	一部で張生→近代層	
63	2006	6	エネルギーセンター棟新営に伴う工事	CT-CU45	2.5	0.9	豊田第22回調査地点と重複	
67	4	67	基礎埋込機(道路等)工事	CU13-20、CU13-29	1.2~2.2	0.9~1.2	基礎層まで、中世/東西・南北溝	
68	5	68	中世層屋上防水改修その他工事	AS03-07、AV-AX07、AY-BB09	0.6~0.9 1.4、1.8	0.7	古墳時代北溝、中世東西溝	
69	7	69	中央診療棟新営:ガス管切断工事	BT11	1.28	0.5	中世遺構	
70	10	70	基礎整備(電気設備)工事	CO42、CV36	1.3~1.65	1.3	中世層まで、遺構	
71	17	71	ガス配管1	CG08、CP09-10、CG-CHI、CHI1	0.85~1.3	0.9	中世/丹川系(砂層)・ピット溝	
72	17	72	環境整備(道路等)工事	CL12、CM13、CN14-15	1~1.2	0.4	中世層、中世遺構	
73	27	73	総合研究棟(医学系)新営その他工事	BT-BU46	1.35	1	中世層	
74	28	74	雨水路改修工事	CJ7-CP12	1.7~2.0	0.6~0.8	包含層及び柱束間隙に陶磁土	
75	30	75	高エネルギー治療室改修工事	BE33	1.4	0.6~0.7	中世→近代:砂層溝、張生後期土器	
77	5	77	基幹整備(西病棟とりこわ)	BT24-25	0.98~1.4	0.7	張生基礎層まで	
78	6	78	7機工工事	BQ21、BR24	0.75	0.5	深水性埋層	
79	7	79	基礎医学棟一部とりこわしに伴う支障ガス配管移設工事	AO63-54、AL54-AO54、AL54-61、AL62-AJ75	0.76~1.0	0.5	近世層まで、土坑2基	
83	2009	3	豊田道線第23次入道舎架設打ち	CE30、CH40	0.8~0.9	0.7	中世層まで	
90	6	90	高精度放射線治療棟屋外排水工事	BH32-35、BI-BL35	0.75~0.9	0.6	中~近世の遺構?	
91	2010	7	中央診療棟新営:アース施設工事	BR14-16-19-22	0.9~1.8	1.1	包含層	
92	17	92	外灯整備工事:研究棟南駐車場	BY46-50	1.2	1.2	遺構埋土?	
93	22	93	保存倉改修工事	CV-CV28-29	1.6	1.15	張生基礎層まで	
95	2011	4	立体駐車場新営<配管>	CN45-49、CD-DF49、CV-LD44、DH45、DI-DF16、DF-DG47-49	0.7~2.38	0.55~1	張生時代土坑、古代土坑、中世溝、近世土坑・溝・畦畔	
98	8	98	グラウンド陸球ネット設置	CL-DFF57	2	1	ナギサ側面	
99	2012	9	医薬薬業総合棟支障配管	ボンプ槽(南)	BL-BM58	2	1.2	中世溝・土坑?、張生基礎層まで
100	13	100	講義室改修	排水槽	BU-BV66	1.6	1.1	中世以前/灰茶褐色砂質土層まで
102	3	102	浄化槽撤去	BM57-58	3.6	1.1	張生基礎層以下まで	
103	4	103	医薬薬業総合型教育研究拠点	共同溝撤去	BE65	2.3	1.1	張生基礎層まで
104	5	104	施設新営	ボイラー機去	BH-BH66-68	3.9	1.1	張生基礎層以下まで
105	6	105		薬治タンク撤去	BC67-68	3.5	1.1	張生基礎層以下まで

総合 番号	年度	番号	工事名称/項目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要	文獻		
106		7	機室掘削	BJ-BK09	4.9	1.1	養生基礎掘削以下まで			
107		8	工事用電気引き込み	AV68	2	1	中世層(7)確認			
108		9a	排水配管(A工区)	AD-A106-40?	2.05-2.68	12-1.65	古代河迹、中世～近代層、近世溝			
108		9b	排水配管(B工区)	AI-A357	2.2-2.45	1.6-1.65	古代河迹、中世～近代層			
110		9c	排水配管(C工区)	A36-A307-68-AL-A367-68	1.8-2.66	1.35-1.7	古代河迹、中世～近代層			
111		9d	医療薬品総合教育研究拠点施設新設	排水配管(D工区)	AO-A768	1.7-2.05	12-1.35	弥生時代末期包含層、弥生～古代砂層、古代河迹、中世～近代層		
112		9e		排水配管(E工区)	AS-AW68	1.45-1.9	0.7-0.75	弥生層、弥生ピット、弥生土器片出土、弥生～古代砂層、近代層		
113		9f		排水配管(F工区)	AU-AX-A298、AX-A2-10399	1.33-1.84	0.7-0.75	弥生層、弥生～古代砂層、中世～近代層		
114	2013	9g		排水配管(G工区)	BC96-70、BD61-63-64、BE00-63	0.88-1.5	0.89-1.15	中世～近代層、近世土坑	116	
115		11	Jホール新設	給水管	AL53	1.5	0.8	中世?～近代層確認		
116		12		給排水管路	AL53-62、AK-A362-67	0.65-1.85	1.3	中世～近代層確認		
117		19	臨床研究棟改修	電気配管(アース)3ヶ所	BJ-BK43	1.64-1.73	0.6-0.71	古墳?・中世・近世層確認		
118		26a		排水配管(A工区)	AD40	2	1.3	中世層、近世土坑		
119		26b		排水配管(B工区)	AD-AE39-40	1.75	1.5	中世～近代層、河迹?		
120		26c		排水配管(C工区)	AF40-42	1.52-1.63	1.06-1.12	中世～近代層確認		
121		30		給水・消火管	AU-AW40-42	1.4	0.8	中世?～近代層確認		
122		32a	中診3期発掘調査に伴う支障物除去	排水配管(A工区)	BZ-CC42、BX-BY43	1.1-1.45	0.85-1	中世～近代層、近世土坑・畦畔		
123		32b		排水配管(C工区)	BT35	2.3	1.1	中世～近代層、中世溝		
126		6	動物実験施設改修	排水本体外	CC58	1.4	0.9	中世溝、近世近代層		
127		11	動物実験施設改修	機械設備側	C58	1.8	1.1	弥生～古墳層まで掘削、中世土坑		
128		15	医療薬品総合教育研究拠点施設新設	排水機3	BE69	1.6	0.7	中世～近世近代層	121	
129		19		ケーブル基礎	BL70	2.3	0.8			
130		24	グラウンド掘削工事	防犯ネット移設	CP-DF68	1.3	1.1-1.2	キョウ剛筋、1ヶ所で目録確認(GL-約1.6m)		
131		11		外灯1	BA21	1.3	0.75	中世溝、弥生後期の包含層確認	124	
132		13		外灯3	BF11	1.3	0.8-1.05	中世層?2基・溝1条確認		
133		14	旧混合同機とこわし外灯	外灯4	AY-AZ08	1.3	0.5-0.6	中世ピット12基・溝2条確認、弥生後期包含層確認		
134	2015	15		パワーカー-1	BG10	0.9	0.75	近世溝または河迹確認	124	
135		16		パワーカー-2	BG09	0.9	0.65	近世土坑1基・溝1条確認		
136		17		パワーカー-3	BG09	0.9	0.7	近世溝または河迹確認		
137		20	臨床講義棟改修工事	給排水	BV40-BW41	1	0.6	中世層確認		
138		2	中央診療棟新設	管路	CA44	1.15	1.05	中世層確認		
139		7		管路1	AD63-65	2.3	1.6	古代河迹埋積砂まで確認		
140	2016	8	旧生化学棟改修工事	管路2	AP62-65、AD-AE06	1.7-2.3	1.5-1.7	古代河迹埋積砂まで確認	128	
141		9		管路3	AE61-67	1.95	1.6	中世層まで確認		
143	2017	4	自來発電	ガス配管	CM43-CO46	1.2	1-1.1	中世層確認	134	
145	2018	2	防犯ネット移設		CL-DF57	2.0	0.9	員数記入の地点1ヶ所あり	138	
147		2-1	トリアージュスペース整備	地盤改良	AS0-AV09	0.85-0.95	1.25	0.6	近代～中世層確認	
		2-3		給排水・ガス配管		0.77-1.17	0.23	近代～中世層確認		
148		3-2	旧生化学棟改修	排水中継機	AD59	2.13	1.5	古代河迹確認		
149	2021	4-1	先端治療・臨床研究センター	排水・空調有地中埋設スズ管	BF38-CD42	2.00	1.0	近代～弥生時代以前の基礎層確認	148	
		4-2	ター	スズ管		0.87-1.27	0.57-0.96	近代～中世層確認		
		5-1		西外構土	AU-AV22	1.27	0.93	近代～中世層確認		
150		5-4	庫宇部改修	北外構土	AK-AL13	2.20	-	GL-2.12mで明褐色粗砂(古代～中世河迹層上)		

#### <東山地区>

総合 番号	年度	番号	工事名称/項目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要	文獻
1	1983	-	羽張中学校新設	-	4.0-5.0	-	シルト層中	1
2	1997	29	羽張小・中学校後四階改修工事	-	1.2	0.79	GL-1.1mで近世水田層、溝1条	50

#### <三朝地区：福呂溝跡>

総合 番号	年度	番号	工事名称/項目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要	文獻
4	1997	18	実験研究棟新設に伴う電気配管改修工事	-	1	-	GL-1.0mで中世包含層は東に向かい上昇	50

付表3 埋蔵文化財調査室刊行物

番号	名 称	発行年月日
1	岡山大学構内遺跡調査研究年報1 1983年度	1985年2月
2	岡山大学構内遺跡調査研究年報2 1984年度	1985年3月
3	岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第1集	1985年5月
4	岡山大学津島地区構内遺跡発掘調査報告Ⅱ(農学部構内BH13区他) 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第2冊	1986年3月
5	岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度	1987年3月
6	岡山大学構内遺跡調査研究年報4 1986年度	1987年10月

付表4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物

番号	名 称	発行年月日
7	鹿田遺跡Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊(鹿田遺跡第1次・2次調査)	1988年3月
8	岡山大学構内遺跡調査研究年報5 1987年度	1988年10月
9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第1号	1988年10月
10	鹿田遺跡Ⅱ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第4冊(鹿田遺跡第3次・4次調査)	1990年3月
11	岡山大学構内遺跡調査研究年報6 1988年度	1989年10月
12	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第2号	1989年8月
13	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第3号	1990年2月
14	岡山大学構内遺跡調査研究年報7 1989年度	1990年11月
15	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第4号	1990年7月
16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第5号	1991年3月
17	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号	1991年8月
18	岡山大学構内遺跡調査研究年報8 1990年度	1991年12月
19	津島岡大遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊(津島岡大遺跡第3次調査)	1992年3月
20	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号	1992年3月
21	岡山大学構内遺跡調査研究年報9 1991年度	1992年12月
22	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号	1992年8月
23	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第9号	1993年3月
24	鹿田遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊(鹿田遺跡第5次調査)	1993年3月
25	岡山大学構内遺跡調査研究年報10 1992年度	1993年12月
26	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第10号	1993年11月
27	津島岡大遺跡4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第7冊(津島岡大遺跡第5次調査)	1994年3月
28	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第11号	1994年3月
29	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第12号	1994年10月
30	岡山大学構内遺跡調査研究年報11 1993年度	1995年2月
31	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第13号	1995年3月
32	津島岡大遺跡5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第8冊(津島岡大遺跡第8次調査)	1995年3月
33	岡山大学構内遺跡調査研究年報12 1994年度	1995年12月
34	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第14号	1995年10月
35	津島岡大遺跡6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊(津島岡大遺跡第6次・7次調査)	1995年12月
36	津島岡大遺跡7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第10冊(津島岡大遺跡第11次調査)	1996年2月
37	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第15号	1996年3月
38	岡山大学構内遺跡調査研究年報13 1995年度	1996年10月
39	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第16号	1996年10月
40	鹿田遺跡4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第11冊(鹿田遺跡第6次調査)	1997年3月
41	津島岡大遺跡8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第12冊(津島岡大遺跡第13次調査)	1997年3月
42	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第17号	1997年3月
43	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第18号	1997年9月
44	岡山大学構内遺跡調査研究年報14 1996年度	1997年11月
45	今、よみがえる古代 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの10年	1997年11月
46	津島岡大遺跡9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第13冊(津島岡大遺跡第14次調査)	1997年12月
47	津島岡大遺跡10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊(津島岡大遺跡第9次調査)	1998年3月
48	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第19号	1998年3月
49	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第20号	1998年10月
50	岡山大学構内遺跡調査研究年報15 1997年度	1999年1月

番号	名 称	発行年月日
51	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第21号	1999年3月
52	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第22号	1999年9月
53	岡山大学構内遺跡調査研究年報16 1998年度	2000年1月
54	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第23号	2000年3月
55	福呂遺跡1 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊 (福呂遺跡第1次・2次調査)	2000年3月
56	岡山大学構内遺跡調査研究年報17 1999年度	2000年8月
57	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第24号	2000年9月
58	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-自己評価・外部評価報告書	2000年12月
59	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第25号	2001年3月
60	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第26号	2001年8月
61	岡山大学構内遺跡調査研究年報18 2000年度	2001年10月
62	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第27号	2002年3月
63	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第28号	2002年9月
64	津島岡大遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第16冊 (津島岡大遺跡第10次・12次調査)	2003年3月
65	津島岡大遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第17冊 (津島岡大遺跡第19次・21次調査)	2003年3月
66	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2001	2003年3月
67	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第29号	2003年3月
68	津島岡大遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第18冊 (津島岡大遺跡第27次調査)	2003年5月
69	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第30号	2003年8月
70	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第31号	2004年2月
71	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2002	2004年3月
72	津島岡大遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第19冊 (津島岡大遺跡第15次調査)	2004年3月
73	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第32号	2004年9月
74	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2003	2004年12月
75	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第33号	2005年3月
76	津島岡大遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第20冊 (津島岡大遺跡第26次調査)	2005年3月
77	津島岡大遺跡16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第21冊 (津島岡大遺跡第17次・22次調査)	2005年3月
78	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第34号	2005年10月
79	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第35号	2006年3月
80	津島岡大遺跡17 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第22冊 (津島岡大遺跡第23次・24次調査)	2006年3月
81	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2004	2006年3月
82	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第36号	2006年10月
83	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2005	2007年3月
84	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第37号	2007年3月
85	鹿田遺跡5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第23冊 (鹿田遺跡第7次・8次調査)	2007年3月
86	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第38号	2007年10月
87	津島岡大遺跡18 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第24冊 (津島岡大遺跡第28次調査)	2008年3月
88	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2006	2008年3月
89	岡山大学理蔵文化財調査研究センターの20年 -自然と人間、地中に埋もれた命の対話-	2008年3月
90	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第39号	2008年3月
91	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第40号	2008年9月
92	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2007	2008年12月
93	津島岡大遺跡19 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第25冊 (津島岡大遺跡第30次調査)	2009年3月
94	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第41号	2009年3月
95	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2008	2010年2月
96	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第42号	2010年2月
97	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第43号	2010年3月
98	鹿田遺跡6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第26冊 (鹿田遺跡第13次・15次調査)	2010年8月
99	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第44号	2010年12月
100	津島岡大遺跡20 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第27冊 (津島岡大遺跡第32次調査)	2011年3月
101	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第45号	2011年3月
102	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2009	2011年3月
103	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第46号	2011年11月
104	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第47号	2012年3月
105	岡山大学理蔵文化財調査研究センター-紀要 2010	2012年3月

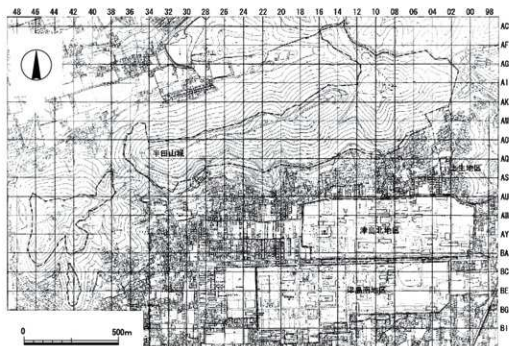
番号	名	称	発行年月日
106	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第48号	2012年9月
107	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2011	2013年1月
108	鹿田遺跡7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第28冊	(鹿田遺跡第10次、18次調査B・C地点)	2013年3月
109	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第49号	2013年3月
110	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第50号	2013年10月
111	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2012	2013年12月
112	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第51号	2013年12月
113	鹿田遺跡8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第29冊	(鹿田遺跡第14次調査)	2014年3月
114	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第52号	2014年12月
115	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第53号	2015年3月
116	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2013	2015年3月
117	津島岡大遺跡21 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第30冊	(津島岡大遺跡第33次調査)	2015年3月
118	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第54号	2015年10月
119	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第55号	2016年2月
120	鹿田遺跡9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第31冊	(鹿田遺跡第23次調査)	2016年2月
121	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2014	2016年3月
122	吉備の弥生時代		2016年3月
123	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第56号	2016年12月
124	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2015	2017年3月
125	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第57号	2017年3月
126	鹿田遺跡10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊	(鹿田遺跡第9・11次調査)	2017年3月
127	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第58号	2017年10月
128	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第59号	2018年1月
129	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2016	2018年2月
130	鹿田遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第33冊	(鹿田遺跡第24次調査)	2018年3月
131	鹿田遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第34冊	(鹿田遺跡第20A・25次調査)	2018年3月
132	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第60号	2018年8月
133	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第61号	2019年3月
134	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2017	2019年3月
135	鹿田遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第35冊	(鹿田遺跡第26次調査)	2019年3月
136	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第62号	2019年12月
137	鹿田遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第36冊	(鹿田遺跡第17次調査)	2020年3月
138	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2018	2020年3月
139	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第63号	2020年3月
140	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第64号	2020年11月
141	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2019	2021年3月
142	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第65号	2021年3月
143	鹿田遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第37冊	(鹿田遺跡第12・27次調査)	2021年3月
144	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第66号	2021年10月
145	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2020	2021年10月
146	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報	第67号	2022年3月
147	鹿田遺跡16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告38冊	(鹿田遺跡第20次B・D地点)	2022年3月

付表5 文化遺産マネジメント部門刊行物

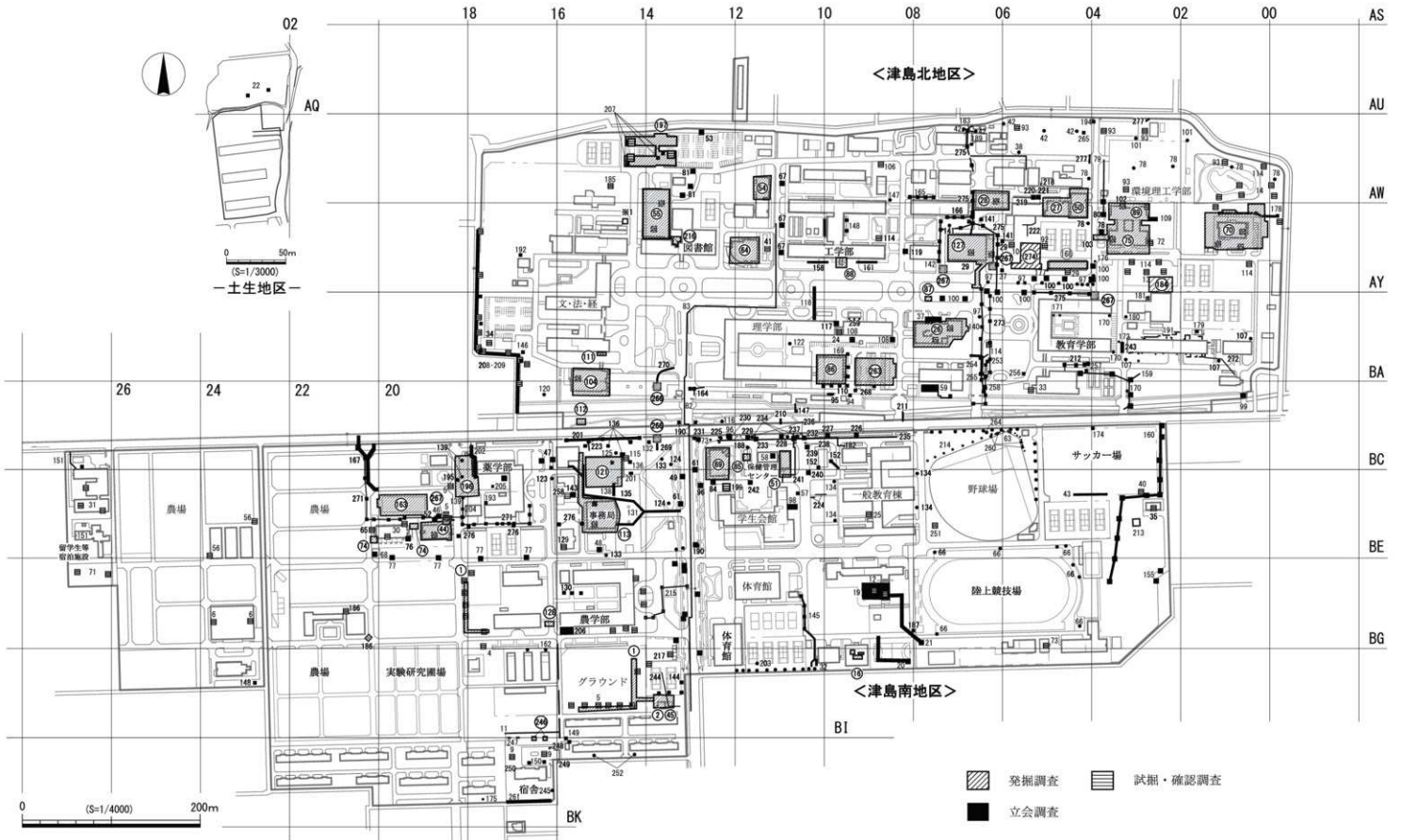
番号	名	称	発行年月日
148	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要	2021	2022年11月
149	津島岡大遺跡22 岡山大学構内遺跡発掘調査報告39冊	(津島岡大遺跡第39次調査)	2023年1月



付図1 岡山大学の位置と周辺の遺跡分布 (縮尺1/50,000・1/3,750,000)

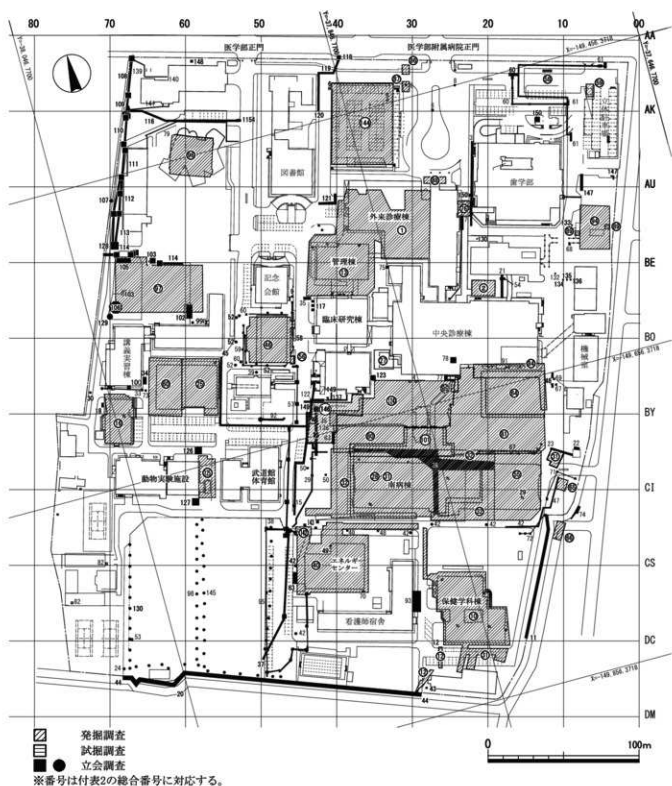


付図2 津島地区全体図 (縮尺1/20,000)

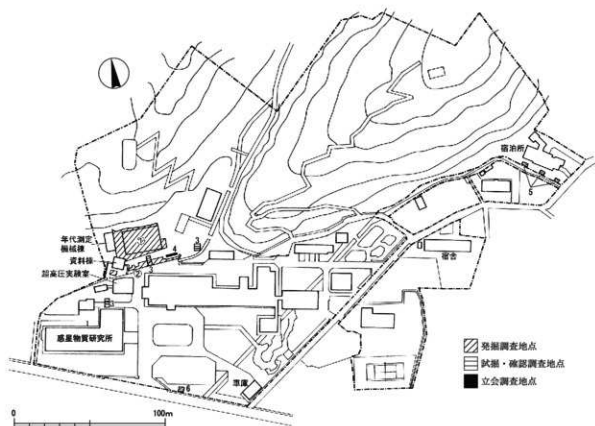


付図3 2021年度以前の調査地点【1】—津島地区— (縮尺: 津島地区: 1/4,000・土生地区: 1/3,000) ※番号は付表2の総合番号に対応する。





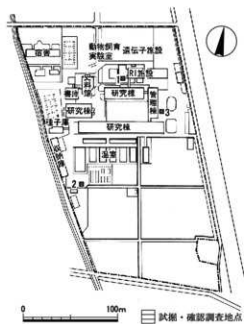
付図4 2021年度以前の調査地点【2】-鹿田地区- (縮尺1/2500)



付図5 2021年度以前の調査地点【3】  
—三朝地区— (縮尺1/2,500)



付図6 2021年度以前の調査地点【4】  
—東山地区— (縮尺1/4,000)



付図7 2021年度以前の調査地点【5】  
—倉敷地区— (縮尺1/4,000)

Copyright©Cultural Heritage Management Division,  
Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University  
Printed in Okayama, Japan

---

---

2024年2月15日 印刷  
2024年2月15日 発行

岡山大学文明動態学研究所  
文化遺産マネジメント部門紀要  
2022

編集・発行 岡山大学文明動態学研究所  
文化遺産マネジメント部門  
岡山市北区津島中三丁目1番1号  
(086) 251-7290  
印刷 友野印刷株式会社

---

---



BULLETIN of  
Cultural Heritage Management Division  
Research Institute for the Dynamics of Civilizations  
Okayama University  
2022